

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	-

<ディプロマ・ポリシー (DP)>

DP 1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP 2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP 3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP 4	特に比較文化の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業の概要、ねらい	到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎：特に関係する ○：関係する			
							DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
150008001	日本の歴史と風土	2	1・2年	上垣外 憲一	俳句の発展とともに、「歳時記」が作られるようになり、季節を表す言葉のニュアンスを細かに味わうことが、求められるようになった。「歳時記」に現れる季節について分析を行い、実際に使われている作品から、その季節がどのように季節感を伝えていくかを考える。以上のような方法を通じて「歳時記」と日本人の季節感の関係を考える。	日本人の自然観、季節感について、観察力持ち、自分の考えでこれからの日本文化の中に風土要素をどう取り入れるか、考えられるようになること。	◎	○		
150008001	日本の歴史と風土	2	1・2年	鈴木 孝子	この授業では、江戸・東京の歴史を中心に、日本の歴史、風土と文化形成の展開、そして近代化に伴う変化の種々相を見て行くこととしたい。千代田キャンパスのある地域が、江戸から21世紀のTokyoに発展した過程を見ることは、個人が日本の伝統文化と近代化のプロセスを再発見し、より深く東京そして日本の文化を理解する事に直結すると信じる。また、このような知的営為と問題提起は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けても有意義な事であろう。東京の歴史的背景と日本の日常生活のルーツを知ることは、充実した国際交流の場面でも必ず役に立つ事柄である。したがって、この授業では、東京の魅力を再発見するために、日本史、社会史、文化史、思想史、郷土史、民俗学へも目配りした授業構成となっている。テーマとトピックを最優先している旨、留意して頂きたい。東京は、江戸開府以来、深刻な都市問題を抱えつつも、発展と成長を重ねてきた。今なお、思わぬところに過去の豊かな遺産が生きていることが東京の魅力であり、懐の深さであると言える。この授業が、受講生にとって、「私の大好きな江戸東京」を再発見する機会となれば幸いである。	江戸東京を中心とした、日本の歴史、近代化の種々相、文化と社会の歴史的背景を、比較文化的な視点から考え、理解する姿勢を身につけること。また、自分の学びを通して得た発見、意見を堅実に論述する能力を習得すること。	◎	○		
150008002	日本の社会と民俗	2	1・2年	鈴木 孝子	日本とは、どのような国なのであろうか。日本の文化的本質はどこにあるのであろうか。日本は、近代化する以前から外来文明と外来思想を取り入れつつ、独自の文化を形成してきた。各時代を通じて豊かな文化活動が展開されてきたことは言うまでもない。同時に、文化形成に関わる知識人たちは、常に日本の文化的思想的本質は何かという問題提起と直面し続けてきた。圧倒的に優れた文物を前に、自分達の存在意義を根底から問われ続けてきたのである。各時代ごとに最先端の文物と、日本の伝統文化との両立を模索し続けてきたとも言える。この授業では、江戸時代を中心に、先人たちがどのような議論を重ね、その中で日本の伝統的な価値観や文化的センスがどのように形成されたかを見てゆくこととしたい。この授業が受講生にとって日本史の再発見となり、日本思想史への入り口となれば幸いである。	江戸を中心とした日本の思想文化の歴史的概要を理解すること。比較文化的な視点から日本の歴史と思想史を理解する姿勢を身につけること。自分の意見、学んで発見したことを堅実に論述する能力を習得すること。	◎	○		
150008003	日本の思想と宗教	2	1・2年	城殿 智行	仮に現在の世界が、グローバル化の拡大によってほぼ一律の価値観に規制されつつあるのだとすれば、現代に生きる大多数の日本人にとって「思想」はもはや、縁遠いものになりつつあります。「どのように生きるのか」が問題にされるよりも、「どのような経済階層に生きるのか」のみが、誰もにとって、ほぼ唯一の関心事となった時代に暮らしているのだと、多くの人々が考えつつあるからです。また一方で、そうした世界的な状況がもたらした、ほとんど論理的な帰結として、経済のほかに信じるべきものを求める人たちが、原理的な宗教に走り、世界的な規模で解消の困難な紛争を生じさせているのも、事実です。それが現代社会の姿であるのだとしたら、むしろ今こそ、「思想」と「宗教」について、考える必要があるのではないでしょうか。歴史上、いまだかつて、これほどの悲惨と貧困が、世界中に満ちあふれた時代は、ほかにありません。今この瞬間にも、私たちの傍らで、異様な数の人々が飢えて死に、また理不尽な暴力によって殺されているのです。便利で豊かな生活を可能にしたはずの現代になっても、なぜこれほど様々な問題が、解決されずに残されているのでしょうか？そして、日本および日本人は、目前に山積するそのような問題に対して、これまでどのように考え、何を行おうとしてきたのでしょうか？この授業では、日本の思想と宗教について、必ず知っておくべき根幹を講義し、グローバル化する世界に生じた様々な問題を考えるための、基礎的な方法を、伝えます。	履修後は、日本・日本人が複雑に育んできた、ものの考え方を理解し、それを他文化圏と比較することができるようになるでしょう。それは、今後、比較文化学科で学ぶ上で、あらゆる科目の基礎となる、必須の能力です。	◎	○		
150008004	日本の美術	2	1・2年	中村 明子	「自分の国のことなのによく知らない」。このような言葉を耳にすることがあります。自国の文化をよく理解すること。その上で、比較文化の学問は始まります。この授業では、日本の美術について理解を深め、その特質について考えていきます。授業は歴史の流れに沿いながら、前半では主に彫刻作品(仏像)を、後半では絵画作品を中心に、飛鳥時代から室町時代までの作品取り上げます。また、「肖像画」「風景表現」などの項目を設け、西洋美術との比較も行っていきます。人類が生み出す表現には共通のものがあるのか、あるいは民族的、時代的な差異があるのか、日本と西洋の美術を比較し、その考察を深めます。	「美」を語ることは、とても難しい作業です。自分の考えを言語化するための訓練として、毎回、作品を鑑賞して感じたことなどを自由に記すリアクションペーパーの作成を行います。1. 日本美術の知識を得ること。2. 作品の説明ができるようになること。3. 作品に対する自分の考えをきちんと述べられるようになること、がこの授業の到達目標です。	◎		○	
150008005	日本の近代化と世界	2	1・2年	安藤 恭子	日本の近代化＝国際化について語るとき、幕末の開国・開港を起点とし、日本側だけに注目して語る場合があります。しかし、日本に開国を迫った欧米の視点から語ることによって、歴史の動きは違って見えるかもしれません。日本の近代化を日本からだけでなく、世界の視点から考えること、それによって、「日本」という近代国家、また、「日本人」がどのようにかたちづけられたかを考えることができるようになることが目標です。	日本の近代化を国際的な視点で見直すことができるよう、日本史とともに世界史を復習しながら、世界的な政治・経済・文化の関係・交流を知ること、そこから、私たちが生きる「いま」を考え、私たち自身を歴史的存在としてとらえる視点を確立することを目標とします。	◎	○		
150008006	文化交流論	2	1年	久保 忠行	紛争、差別、低開発、貧困、格差といった問題は、人類が共通して抱える課題である。こうした問題は、なぜ、どのように生じるのだろうか。本講義では、これらをグローバル化と「他者との共生」に関わるテーマとして考察する。本講義では、海外の事例に加えて、日本で暮らす外国人や難民、あるいは野宿者といった社会的弱者とされる人びとを対象とする。本講義をとおして受講者は、人類が抱える課題を自らの関係から捉え直して考えることができるようになる。	グローバル化にともなう共存や共生に向けた課題だけではなく解決にむけた方向性を考察し、説明できるようになること。適切な文献や資料を参照し、それらをもとにして自分の考えを述べることができるようになること。	◎		○	
150008006	文化交流論	2	1年	佐藤 実	中国から日本に伝わった人相占いの解説書『神相全編』を読み、その差異のありようから、日本が中国文化をどのように受容したかを考える。	前近代におけるリンガ・フランカとしての漢文の理解と、前近代日本における中国文化の受容の側面を知ること。	◎	○		
150008007	国際関係論	2	1年	井上 淳	※本講義は授業資料の取得、授業内のクイズ実施、家庭学習、レポート試験の提出や講評などでmanabaを使用します。manabaの操作はもちろんのこと、wordでレポートを作成すること、自身のスマートフォンやパソコンから大学内wi-fiにアクセスする作業にも、(授業を通じて)慣れてください。※本講義では、国際関係について考えるときに不可欠な基礎知識、とりわけ歴史的展開とトピックごとの「ポイント(論点、着眼点)」を習得します。国際関係は現在、さまざまな意味で「ひろがり」をもっています。国際関係の舞台には国(国家)だけでなく、国際機関やNGOなどが登場するようになりました。また、その舞台上で取り上げられるテーマは、安全保障から経済・社会分野にも拡大してきました。このような「ひろがり」を体系的に理解することを目指しています。講義ではまず、国際関係の基本をなす「国(国家)」とは何か、国際関係の世界がどのように発展してきたか、国際関係において日本はどのような存在なのかを学びます。さらに、国際関係において問題となっているトピックを分野ごとにとりあげ、その問題の構図(何が問題になっているのか)と問題解決への取り組みについて学び、2・3年で学ぶより専門的な学びへの準備をします。	国際関係論が世界史とは似て非なるもの、ということを入れたうえで、世界史が苦手だった人も得意だった人も、「世界のなりたちをする」という観点から国際関係の発展と課題について理解します。その結果、世界は「秩序」をもたらすためにどのような試行錯誤を続けてきたか、それらはなぜ試みられそしてなぜ失敗したか、日本はそのなかでどのような立ち位置にいたのかを自分のことばで説明することができるようになることを目指します。さらに、気候変動問題、移民問題、内戦やテロなど、よく耳にするトピックがなぜ「国際社会」で扱われなければならないのか、専門用語を交えながら自分のことばで説明することができるようになることを目指します。なお、1年次のほぼ必修の科目として、授業を通じて、自らmanabaにアクセスして授業用資料などを集める、授業中に話を聞きながら板書やメモをとる、授業後に学んだことをおさらいして論述式のレポートや試験に備えるという、大学生活に欠かすことができない技量の鍛錬も目指します。	◎	○		

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	-

<ディプロマ・ポリシー（DP）>

DP 1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP 2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP 3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP 4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業の概要、ねらい	到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎：特に関係する ○：関係する			
							DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
150008007	国際関係論	2	1年	久保 忠行	国際関係論という学問は、戦前の軍国主義への反省、戦後の平和国家をめざす風潮のなかで生まれてきた。つまり国家・国家間の政治が、ファシズムや戦争につながることに批判からスタートした学問である。この講義では、帝国主義、植民地主義、世界大戦、大戦後の世界のあり方について学ぶ。さらに近年の日本の国際貢献のあり方についても批判的に検討する。	帝国主義や植民地主義の問題点や過去の大戦の教訓について、それらを過ぎ去った過去ではなく、現代の文脈にも位置づけて理解することができる。現在の日本の国際貢献のあり方について、現状の問題点を踏まえて論述することができる。	◎		○	
150008008	国家と民族	2	3・4年	関口 真理	地球上で人間が容易に往来し、グローバル化という言葉がもてはやされていた状況が一転して岐路に立たされている。国際情勢の変化と混乱の中、人々は自分の足元を確かにし身を守るため、出身国や民族を頼み、帰属意識を強めるようになりました。「国家」「民族」も見慣れた言葉ですが、多くの異なる意味と解釈があり、その理解の違いを巡って紛争が生じることもあります。本講義の第一の目的は、「国家」「民族」の原義や、思想、理念などを確認し、国際社会を知るためになぜ「国家と民族」が大切なのか、歴史的にも現代においてもなぜ「国家と民族」が問題となるのか、を考えます。第二の目的は、現代国家としてのインドの形成と政治・社会の現状を知ることです。インドは広大な国土に12億超の人口を抱え、多様な民族、言語、宗教が共存する複雑な社会です。現代インドの基盤となったイギリスの植民地統治から独立運動を経て国家が形成された「国家と民族」の実例として、多くの民族を統合したインドで、いかに国家統治が機能しているのかを検証します。なおインドの文化や暮らしについては関口担当の「アジアの都市」で扱う予定です。	国家論、民族論の視点から国際情勢、多様な社会、日本を考えることができようとする。インドという国、地域を知り、関心を維持し、国際理解と比較文化・比較社会の学びにつなげる。	○	◎		
150008008	国家と民族	2	3・4年	山田 朋子	現在、世界ではグローバル化とボーダーレス化が激しい勢いで進展している。情報は瞬時に地球を駆け巡り、企業は軽々と国外に市場と労働力を求める。国境の存在を無意味にするようなこれらの状況にもかかわらず、領土をめぐる国家間の対立は深刻化し、民族間の紛争は絶えない。「国家」とは、「民族」とは何か。この問題を相対化し理解するための一つの手がかりとして、この授業ではユダヤ人問題をとりあげ、彼らの歴史を概観する。ユダヤ人はかつて故郷を追われ、世界中に離散し迫害を受けつつも自らの「国家」建設を実現したが、それは周辺諸国との対立の原因ともなった。こうした彼らの複雑な歴史を検討することにより、現代世界を考える視野を身につける。	現代の複雑な国際関係を考えるうえでの知識を身につける。	○	◎		
150008009	多国籍企業論	2	3・4年	里見 泰啓	経済のグローバル化が進展している。各国の経済は相互依存を強め、国内経済の発展は世界経済の成長に左右される。このようななかで、国境を越えて事業活動をする多国籍企業の重要性は高まっている。多国籍企業は経済学や経営学、文化人類学など、いくつかの分野で研究されており、この授業では、それぞれの分野で研究され確立された理論を紹介するとともに、多国籍企業の実態や戦略についても講義します。多国籍企業の活動とグローバル化の中での日本経済の姿を具体的に知るため具体的に企業の活動を紹介します。中小企業にも世界を視野に入れた経営を展開する企業が多く、このような事例も紹介しながら講義を進めます。尚、授業はシラバスそって進めるが、受講生の関心や理解度に応じて、変更する場合があります。	グローバル経済のなかでの企業行動について考察できる基礎を身につけるのを目標とします。	○	◎		
150008010	異文化間コミュニケーション概論	2	2・3年	野村美由紀	人と人がコミュニケーションをとる場合、その人達が同じ国に属していようと、一方の人が外国人の人であろうと、自分の相手が属する文化を理解していないと、うまくコミュニケーションをとることは出来ない。ここで言う文化とは、狭義の文化である。具体的には、ことばを用いる人間が行う行動と、その有形無形の所産を指す。この授業では、特にことばがどのように文化と関わりあっているかを概観する。	1. 社会言語学の生まれてきた背景が分かる 2. 社会言語学のアプローチ法を理解する 3. 多言語社会の仕組みが分かる 4. 言語と文化との関わりを理解する	○	◎		
150008011	異文化間コミュニケーション事例研究	2	2・3年	野村美由紀	この授業は「異文化間コミュニケーション概論」で概観した内容のいくつかを実際の事例を通して検討を加え、更なる「異文化間コミュニケーション」の理解を深めることを目標とする。この授業では、実際の事例を、受講者に最も身近な日本語と英語を用いたコミュニケーションの中から見出ししていくことにする。	1. 地域方言と社会方言とはどのようなものであるのか分かる 2. ジェンダーと言語との関わりを理解する 3. 社会言語学の理論を理解する 4. 異文化間コミュニケーションの理解を深める	○	◎		
150008014	比較演劇論Ⅰ	2	2・3年	城殿 智行	歌舞伎や文楽、あるいはオペラやバレエといった、次第に「古典芸能」化しつつある舞台芸術は、依然として根強い人気を誇り、一部に熱狂的なファンを持ちつづけています。そこには、リアリズムにもとづく近代の演劇や演技とは異なる、誇張に満ち・起伏に富んだドラマがあり、また長期間の鍛錬を必要とする複雑かつ繊細な技芸が、今もなお多くの観客を魅了してやみません。この授業では、日本が生んだ大衆芸能の歴史を、オペラや映画などと対比させながら学び、演劇文化に対する幅広い視野を養うことが、目的です。家庭の中でも、また社会においても、何らかの役割を演じることがすべての人に求められているのだとすれば、演技や演劇に対する理解を深めることは、舞台芸術の受動的な鑑賞のみにかかわるのではなく、日々の生活全般に影響する基礎教養であるはずで、民衆の中から生まれた日本の芸能にふれることで、歴史を生きいきと追体験しうる文化的な素養を身につけましょう。	履修後は、舞台芸術に関する最低限の文化的な素養を身につけることができるでしょう。それは、比較文化学部で学ぶすべての学生にとって、必須の教養です。	○	◎		
150008015	比較演劇論Ⅱ	2	2・3年	城殿 智行	前期の「比較演劇論Ⅰ」では、歌舞伎や文楽、あるいはオペラやバレエといった、次第に「古典芸能」化しつつある舞台芸術が、長期間の鍛錬を必要とする複雑かつ繊細な技芸に支えられながら、起伏に富んだドラマを提示することで、現代の観客にも十分に訴えかける力を、今もなお示しているのだと学びました。それにつづく「比較演劇論Ⅱ」では、まず最初に、演劇・演技における近代的なリアリズムが、様々な経路をたどって確立されていく様子を学びます。しかし近代演劇は、リアリズム以外にも、実に多種多様な試みを生み、各国において、複雑な展開をみせます。その過程において、やがては、自然主義的なリアリズムこそが、むしろ批判の対象とされてもきました。そこで、後期のこの授業では、各国の近現代演劇史を彩った代表的な劇作家の諸作品を通じて、近代的なリアリズムの精髓を知り、また同時に、反リアリズムを標榜した多様な演劇・演技の可能性を探ります。	履修後は、TVドラマや流行の映画だけを見ていたのでは決して知ることのない、演技・演劇の奥深い魅力に触れ、この世界で人が生きている現実を新たな角度から見つめ直すことができるようになるでしょう。それは、情報社会化が加速する現代において、人とのかかわりを見失わずに生きるための、必須の能力です。	○	◎		
150008016	言語科学入門Ⅰ	2	2・3年	磯野 達也	普段、私たちが何気なく使っている言葉（言語）を見つめ直して行く。そうすることで、言語がもつ規則を見つけ出し、言語の不思議、そしてその言語を使いこなす人間の不思議を考える。英語、日本語の具体的な例を見ながら、授業の中で規則を見つけ、言語学の諸分野の性質を理解する。	言語の規則を知り、言語学の概要を理解する。論理的な思考ができるようになる。	○	◎		
150008017	言語科学入門Ⅱ	2	2・3年	磯野 達也	普段、私たちが何気なく使っている言葉（言語）を見つめ直して行く。そうすることで、言語がもつ規則を見つけ出し、言語の不思議、そしてその言語を使いこなす人間の不思議を考える。英語、日本語の具体的な例を見ながら、授業の中で規則を見つけ、言語学の諸分野の性質を理解する。	言語の規則を知り、言語学の概要を理解する。論理的な思考ができるようになる。	○	◎		

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	-

<ディプロマ・ポリシー（DP）>

DP 1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP 2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP 3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP 4	特に比較文化の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業の概要、ねらい	到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎：特に関係する ○：関係する			
							DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
150008018	国際政治経済論Ⅰ	2	2・3年	井上 淳	※履修登録前にシラバスを必ず読むこと。この授業は、「とすればややこしい政治経済問題を、多少自分で苦労して、あるいはみんなで知恵を出し合って理解してみよう」という授業です。manabaを頻りに使用し、授業中には報告や発言、意見表明を求めます。受け身で授業を受けたい人には向きません。※本講義は、現代国際政治経済を理解する上で欠かせない事件やそのとらえ方を理解すること、ひいては海外事情を通じて身近なことを考え、自身が重きをおく価値について考えてみることを目的としている。現代社会においては、報道される時事ニュースの多くが経済と政治にまたがっている。そこに「国際」が加わった国際政治経済論とは、何をどのように考える学問なのだろうか？国際関係論と何が異なるのだろうか。結論からいえば、国際政治経済論の内容と考え方は第二次世界大戦後の秩序形成に大きく関係しており、単なる現代史解説、政治経済事情解説ではない。授業の前半では、国際関係論との違いを意識しながら国際政治経済論（学）の着眼点や考え方に対する理解を深める。授業の後半には、政治と経済が交錯する例として認識しやすい「グローバル化」にちなんだ現象をいくつか取り上げて、それらの問題の構造に対する理解を深める。	この授業では、「国際○○論」と名のつくものが多いなか、「国際政治経済論」と名がつくと何を考えなければならないのかを学びます。みなさんグローバル化世代にとってはあたりまえのように思える「政治と経済が密接にリンクした世界」は、ほんのすこし前まではあたりまえではありませんでした。授業を通じて、なぜ国際政治経済論では第二次世界大戦後から学ぶのか、政治と経済の世界が戦後から冷戦終結までどのように運営されてきたか、冷戦後グローバル化時代にはどのように運営されようとしているのかを理解します。さらに、金融、科学技術、制裁、人の移動といった問題をとりあげ、それらがいどのような意味で「国際」「政治」「経済」問題になっているのか、誰がどのように取り組もうとしているのかを理解します。最終的には、国際政治経済上重要なトピックについて、理解したことを自身のことばで（文章で）表明することができるようにします。	○	◎		
150008019	国際政治経済論Ⅱ	2	2・3年	井上 淳	※履修登録前にシラバスを必ず読むこと。この授業は、「とすればややこしい政治経済問題を、みんなで知恵を出し合って理解してみよう」という授業です。履修者の関心に応じて毎週雑誌の論文を読み、manabaを頻りに使用し、授業中には報告や発言、意見表明が求められます。受け身で授業を受けたい人には向かない授業です。※この授業は、「国際政治経済論Ⅰ」で習得した学びをさらに深めるために、あるいは「国際政治経済論Ⅰ」を履修していないが国際政治経済の個別のトピックについて深く理解するために、国際政治経済の分野で公開されている雑誌記事を講義し、その内容報告、質疑応答、解説をおこなう授業である。教科書を読み講義を聴いているだけでは、なんとなくわかった気にはなっても、社会で多様な価値観が交錯している様子を実感するには至らない。そこで、専門家による比較的最近の雑誌記事を読みながら、問題の所在、関係者の立場、交渉の様子（関係者の立場の違い）を体感し、様々な論点のなかから自身の意見・価値観を選び取って（磨いて）もらいたい。	この授業では、初回授業において、様々な国際政治経済的なトピックごとに専門家が書いた一般向け論文のリストを配布します。履修者は、そのなかから自分の興味のあるトピックと論文を選んで、授業15回分の流れをカスタマイズします。その後、毎回履修者がその日に選定された論文の内容を紹介し、他の履修者による質疑応答、教員による解説などをおこなうことにより、「とすればややこしい」国際政治経済問題をみんなで理解することを目指します。最終的には遊園地やテーマパークのような「アトラクションマップ」を各自で作成、それぞれのトピックでいったい何が問題になっているのか、それについて自分はどう思うのかを自分のことばで表明することができるようになることを目指します。また、この授業を通じて、「さまざまな価値観が渦巻く社会問題に対してわたしはこういうスタンスでのぞむんだ」という発見（自己分析）ができるようになることを目指します。ゼミや卒業などで特定のトピックを深めたい学生には、関心のあるトピックをめぐってどのような議論があるのか、論文や論文で紹介されている参考文献を通して理解します。		◎	○	
150008020	比較文化論	2	2・3年	上垣外 憲一	比較文化とは、世界の文化を各地域間の文化の異同を比較考察して、それぞれの文化の特性を明らかにする学問です。平たく言えば、世界文化そのものですが、どこに軸をおいて比較するかによって、世界文化の見え方は様々に変わります。日本においては、日本を中心軸に据えて、それと世界各地の文化圏との交流史を研究するという行き方が最も一般的です。この授業では、日本を中心においた各文化圏との交流史は重なりますが、もう少し世界大の、インドと中国、欧米と中国文化圏の比較といったよりグローバルな視点からの比較も、取り入れます。また、学会が不偏であるために研究史も貧弱ではありますが、この点については、担当教員（上垣外）の独自の考えで、「偉大な比較文化学者たち」という題目でお話します。また簡単ですが、比較文化の方法論についても、最後に授業題目として取り上げます。	比較文化に必要な基礎知識と方法を身につけること。	○	◎		
150008020	比較文化論	2	2・3年	久保 忠行	本講義では人類学の視点から、人間社会の普遍性と多様性について学ぶ。人類学の学説史だけではなく、近年の人類学に影響をあたえてきた隣接分野の諸理論も紹介しながら、現代的な問題も射程に入れて講義をする。	人類学の諸概念と用語を理解し、説明することができる。また身の回りにある出来事や世の中で起こっている出来事を、人類学的な視点からとらえ説明することができる。	○	◎		
150008020	比較文化論	2	2・3年	貴井 一美	イベリア半島（主としてスペイン）を軸に、東西文化を考える。その相違点や共通点、影響関係を具体的にみていくことで、異文化が歴史の中でどのように融合していったか、または排除されていったかを考えていく。今年度は南蛮文化（スペインと日本）、陶器（スペイン、ヨーロッパとイスラム）を取り上げる。	一つの文化が別の異なる文化をどのように吸収し、自分たちの文化に取り込んでいくかを理解する。	○	◎		
150008020	比較文化論	2	2・3年	渡邊 顕彦	この授業では、近世日本におけるカトリック布教（いわゆるキリシタン文化）を中心として非西洋文化に対する西洋、特に西洋古典文化の浸透を学び、異文化の相互学習や衝突の歴史についての知識を深め、比較文化の感覚を安んずることを目的としています。	この授業では、近世日本におけるカトリック布教（いわゆるキリシタン文化）を中心とした様々な非西洋文化における西洋、特に西洋古典文化の浸透の事例を学び、西洋と非西洋の比較および後者における前者の受容を考察することにより、様々な世界文化をより深く理解することが出来るようになることを目標としています。	○	◎		
150008021	比較社会論	2	2・3年	上野 未央	この授業は、都市ロンドンの歴史を通して、ヨーロッパ社会を読み解くことをねらいとします。中世から近代を取り上げ、ロンドンの都市社会がどのように変化していったのかということ論じます。ロンドンに生きた人々は、どのような仕事をし、どんな家に暮らしていたのでしょうか。この授業では、最近の社会史研究の成果を紹介しつつ、ロンドンの社会にせまります。それによって、中世ヨーロッパにおける「都市」社会のありかた、また近代にかけての変化をさぐります。ロンドンと他の都市との比較も行います。最初の4回は講義を行い、その後は、配布した論文を使い、参加者による報告と質疑応答を中心とした演習形式で授業を行います。その際、報告への理解を深めるために、ワークシートを記入してもらいます。記入方法などは初回の授業で指導します。また、報告にあたっては、授業時間外に個別指導を行います。	論文を読むことで、論理的思考力を養います。また、報告と質疑応答を通して、調べたことを自分の言葉で伝える力を身につけることを目標とします。		◎	○	
150008021	比較社会論	2	2・3年	久保 忠行	「○○は、××だから、△△に違いない」。私たちは、このような思考方法で人やものごとを判断しがちである。この授業では、このようなものの見方を批判し「あたりまえ」を疑い、自らの頭でものごとを考え意見を述べるができるようにすることを目的とする。授業では、文化、社会、家族、性差、人種、言語、民族、病、宗教、生と死といったテーマをとりあげ、人類学の視点から比較する。「比較すること」とは、ものごとの優劣をつけることではなく、自己と他者をよりよく知るための知的な営みである。授業をとおして、いっけんすると「あたりまえ」に見える事柄を相対化し、自己本位にならない柔軟な他者理解の視点を養う。	授業で取り上げたテーマについて要約したうえで、身近な事例をもとに「あたりまえ」のものごとを相対化することができる。		◎	○	
150008022	比較文化入門	2	1年	赤松 美和子	「比較文化入門」は、比較文化学部の一年生のみなさんが、大学で比較文化を学ぶ方法を身につけるための授業です。「かわいい」は、1990年代以降グローバル化とともにアジアや欧米諸国に広まった日本発の美学の一つです。本授業は、四方田 犬彦『「かわいい」論』（ちくま新書）を教材として、みなさんが何気なく使っている「かわいい」という言葉を、通時的に共時的に考察することを通して、比較文化とは何かを学び、自分が感じ考えたことを伝えるための知識と技術と自信を身につけることを目的としています。授業は、教材について、報告者の口頭発表の後、全員でディスカッションを行います。報告者は、教材の担当部分の概要をまとめ、分からなかった箇所について用語解説・関連資料を添付したレジュメを作成してください。報告者以外にも全員に発言を求めますので各自教材を精読した上で授業に臨んでください。精読、レジュメの作成、口頭発表、質疑応答を通して、大学生として学ぶための基礎力を養いましょう。	本授業では、発表、レジュメ作成、ディスカッションなどの技術を習得し、大学生生活の基礎を固めると同時に、比較文化的な思考方法の基礎を身につけることを目標としています。	○			◎

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	-

<ディプロマ・ポリシー（DP）>

DP 1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP 2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP 3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP 4	特に比較文化の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業の概要、ねらい	到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎：特に関係する ○：関係する			
							DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
150008022	比較文化入門	2	1年	石川 照子	「アジア学入門」 アジアと一口に言っても、そこには多様な政治、経済、社会、文化、言語、人種、民族、宗教が存在します。そしてほとぼしる人々のエネルギーと将来の可能性が注目される一方、貧困と紛争等の問題はまだまだ解決されていません。そんなアジアという地域をどうとらえたらよいのでしょうか。また、日本はアジアの中でどう生きてゆくべきなのでしょう。授業では教材に沿って、こうした多様な地域アジアの歴史と現状を学んでゆく中で、これらの問いに対する答えの手がかりを探ってゆきたいと思えます。	アジアという地域の多様性と複雑さ、そして可能性を理解することを目標にしています。	○			◎
150008022	比較文化入門	2	1年	上野 未央	私たちが、他の国や地域の文化を学ぶ意味はどこにあるのでしょうか。また、現代を生きる私たちが歴史を学ぶことには、どのような意味があるのでしょうか。このような問題を出発点に、この授業では、ヨーロッパ史の入門書を読んでいきます。はっきりとした「答え」が出るような問題ではないかもしれませんが、授業を通して、受講生それぞれが、「文化を学ぶということ」について自分なりの考えを持てるようになることが、この授業のねらいです。テキストとする『自分のなかに歴史をよむ』には、歴史家である著者が、どのように中世ヨーロッパの文化に関心を持ち、その歴史を学ぶことになったのかが書かれています。また著者は、この本で、伝説や音楽を通して見るヨーロッパ文化の特徴についても論じています。この本を読みながら、文化を学ぶ意味や、それに伴う問題について考えます。日本とヨーロッパとの比較の視点も取り入れます。また、この授業は第3回目以降、学生による口頭報告（発表）を中心に進めます。報告のために、事前に個別面談を行いますし、メールも使って指導を行いますので、心配はいりません。	本を使って調べ、それを資料（レジュメ）にまとめ、資料を使って発表します。また授業中には質疑応答（ディスカッション）を行います。これらの活動を通して、調べる力と伝える力をつけることを目標とします。	○			◎
150008022	比較文化入門	2	1年	久保 忠行	比較文化の第一歩は異文化について知ることである。この授業では、私たちが日常的に触れるメディアを通して異文化がどのように伝えられているのかを「一歩引いて」みることをとおして、異文化理解と自文化理解を試みる。近年、日本文化や海外の暮らしを紹介するテレビ番組が増加しているが、そうした文化の比較で見えなくなるものは何か？ ここでは、文化人類学の枠組みをもとにして異文化の「理解の仕方」を学ぶ。また本セミナーでは、大学で必要とされる学習技術や、これを支える学習態度を学ぶことを目的とする。とくに学習技術のうち、読む力、聴く力、調べる力、考える力、発表する力を向上させることを目指す。	1) 文献や資料に書かれた内容を適切に要約し、レジュメにまとめて報告することができる。2) メディアをとおして提示される「異文化」を批判的に検討することができる。	○			◎
150008022	比較文化入門	2	1年	佐藤 円	この「比較文化入門」という科目は、比較文化学部へ入学した学生が大学において初めて受講する演習（セミナー）科目である。演習科目は講義科目とは異なり、学生自身が報告を行い、それに基づいて質疑応答や議論を行って学習を進めていくものである。そこでこの演習では、比較文化学部において文化を比較という手法で学ぶための基礎知識を養い、大学の演習科目で学ぶ技能を身につけるために、まず「文化」という概念と「比較」という手法について担当教員が基礎的な解説を行い、そのうえで演習参加者がテキストの内容について報告を行い、他の参加者との間で質疑応答や議論を行っていく。今年度は、多様な文化的背景を持つ人々の流入によって近年急速に多文化化しつつある日本の現状について分析したテキストを使用し、異文化との共存をめぐる諸問題について学んでいく。	この演習では、担当教員の指導のもとに参加者が報告や質疑応答を実際に行うことにより、情報の調べ方、レジュメの作成の仕方、報告の仕方、質疑応答の仕方といった演習科目を受講するうえで必要な技能を身につけることを目標としている。	○			◎
150008022	比較文化入門	2	1年	佐藤 実	この授業ではわたしたちが普段つかっている漢字二字の熟語の意味について「現在と過去」「日本と中国」のふたつの側面から比較・考察し、いまのわたしたちが当然だとかんがえていること、みなしていることが、実はかなり特異であることを発見し、その内容を文章にして相手につたえることを目標にします。まず「現在と過去」の比較とは、国語辞典と漢和辞典との記述内容の比較です。漢和辞典は実は現代日本語としての意味ではなく、おもに古典での意味が掲載されています。また「日本と中国」の比較とは、国語辞典と中国語辞典（中日辞典）との比較です。もともと漢字は中国から輸入されたメディアですが、おなじ漢字をつけていてもいまの日本語と中国語では意味がちがっています（おなじものもあります）。以上、ふたつの側面からの比較をしてえられた知見を口頭発表し、それをもとに800字のエッセイにまとめます。なおエッセイについては全員で検討して、何度か推敲してもらったうえで完成させ、最終的には漢語にかなする「エッセイ集」を作成します。	二字熟語の性質を理解すること。	○			◎
150008022	比較文化入門	2	1年	高田 馨里	文化を比較の視点から学びながら、調査・研究とレジュメ作成・発表の方法を習得することを本授業の目的とする。自分で面白いと思うトピックやテーマを見出し、さまざまな資料を調べ、実際にそれをまとめるという大学での「研究」の基礎を身につけてほしい。この比較文化入門では、おもにアメリカ合衆国、カナダ、オーストラリアなど太平洋の英語圏の国々と日本のつながりや、それぞれの文化の比較を行う。授業毎に3～4名の受講生に発表してもらい、ゼミ形式で質疑応答や議論を行う。発表に際しては、図書館での所蔵図書の見つけ方や文献リストの作成方法なども合わせて学ぶ。この比較文化入門で、研究方法の基礎をしっかりと身につけてほしい。	ゼミ形式で、発表のための資料調査方法、レジュメの作成方法、発表の仕方、討論の仕方を学ぶ。	○			◎
150008022	比較文化入門	2	1年	武田 千夏	この入門ゼミでは、ヨーロッパ研究の基礎としてのヨーロッパ史を学びます。今後4年の間に、皆さん方はヨーロッパの芸術、文化、文学、政治、社会などの多様な分野について勉強していきますが、それらすべての根底にあるのが歴史です。同じグループ内では、同じテーマに基づきつつ、異なる地域、国同士を、もしくは同じ国の複数の異なる時期を比較しながら、持続性、断続性などのパターンを読んでいきます。テーマとしては、ヨーロッパにおける、国境と民族、観光、都市、産業と移民、戦争、記憶、社会運動（労働者、ジェンダー）などを取り上げます。テーマ毎のグループを編成し、共同で作業することによって、ヨーロッパ史について、複眼的、立体的な理解を促すとともに、現代ヨーロッパについての意識も高めます。	これから大学で4年間学ぶにあたって、学習の基本的なスキルを身につける。（読書、要約、考察、討論、資料集め、レポートを書く）	○			◎
150008022	比較文化入門	2	1年	貫井 一美	比較文化というのは異国や異文化について学ぶことばかりではなく、同じ文化圏や国においても時代によってあるいは属する社会をまなぶことでもあります。この授業で、調べ方、発表の仕方、レポートの書き方などを含めて大学における基本的な学習方法を身につけながら、視覚芸術（首主としてヨーロッパ絵画）を通して異なる文化を比較することがどのようなことであるのかを考える機会にしたいと考えます。自分とは異なる文化を知ることは、自分の文化を知ることであります。客観的な視一つの事象を比較検討し自らの意見を持てるようになるための基礎能力をつけることを目的にします。授業は、第4回から、テーマを選んで担当者に発表してもらい、それについて意見を交換するという形で進めていきます。	大学の授業のあり方、自分でテーマを見つけ、調べ、考えることを身につける。	○			◎
150008022	比較文化入門	2	1年	渡邊 顕彦	古代ローマについて、わかりやすい教科書やプリント、古代貨幣の実物等を基に、その歴史、文化、文学を学んでいきます。欧米、特に西ヨーロッパの形成に多大な影響を与えた古代ローマの包括的な理解につとめ、同時に学部における学習の基礎作りをします。	この授業では、古代ローマ帝政期の生活文化を学び、その今日的な意義を考察することにより、比較文化学習の基礎をつくることを目標とします。	○			◎
150008022	比較文化入門	2	1年	JOHNSON, G.S.	この科目では資料と映像を分析して、社会の近代化と変化の形を考察する目的です。テーマは「児童」です。学生個人が理論を把握し、過去の事実を分析する能力、プレゼンテーション技術と文章の表現力を高めることが重要な目標です。近代化のプロセスと、17～18世紀ヨーロッパの啓蒙運動以降の児童観を勉強します。その後、現代文学と映画の中の児童像を調べて産業化、戦争、テクノロジー、ポストモダン社会という枠を通して、社会は児童をどのように位置づけているかを分析します。	知識、分析能力、と表現力の向上。	○			◎

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	-

<ディプロマ・ポリシー (DP)>

DP 1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP 2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP 3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP 4	特に比較文化の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業の概要、ねらい	到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎：特に関係する ○：関係する			
							DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
150008023	日本文学Ⅰ (古典)	2	1・2年	安藤 恭子	「古典文学」は、長く読み継がれるだけの価値をもち、それを読む人々の時代・社会の中で、さまざまな意味を生み出してきました。日本の「古典文学」について、その面白さにふれながら、日本文学・文化についての基礎的な知識を再確認し、現代の私たちの文化と古典とがどのように接続されているかを明らかにすることが目標です。授業では、絵巻などの美術作品やアニメなどの映像も取り上げます。「古典文学」を窓口、日本文化を重層的にとらえられるように授業をすすめる予定です。	高校までの「古典」の授業で得た基礎的な知識を思い出し、単に知識だけではなく、文学を味わいながら、日本語の魅力、日本文学の奥深さなど、日本文化の多彩な魅力に触れ、「古典文学」がつくられた過去と、それが生き続ける現代を行き来しながら、文化の多様なありかたについて学ぶことを目標とします。	◎	○		
150008023	日本文学Ⅰ (古典)	2	1・2年	土屋 順子	この授業では、上田秋成『雨月物語』を学習します。この作品のもつ特性・方法・表現・主題などを考えながら古典文学作品への理解を深めることを目的としています。学習にあたり、日本文学が発生し、今日のようなメディア社会をむかえることになったのか、当時の社会背景を通じて考えていきます。『雨月物語』から女性を描く作品3編を取りあげ読んでいきます。『雨月物語』は1776年刊行。怪異を題材として全9編いずれも人間の執着・執念をテーマにしています。中国白話小説の影響を受けつつ、日本古典作品を利用して新しい作品を作り出す面白さを読んでいきます。また引用の『万葉集』・『伊勢物語』・『徒然草』・『源氏物語』等について、紹介していきます。	文学作品や日本語で表現された文献を日本および日本人の特質として学ぶことによって、ものの見方、感じ方、考え方など、日本人が大切に培ってきた感性や伝統・文化を理解することを目標にしています。	◎	○		
150008024	日本文学Ⅱ (近現代)	2	1・2年	安藤 恭子	この講義では、<宮沢賢治>の文学を読み解くことで、現代につながる日本の近代社会の諸相について考察します。宗教・科学・農業といった異なる複数の視点から、近代日本における文明・文化を批判的に描いた<宮沢賢治>の文学は、「多面体の宇宙」と評されてきました。その「宇宙」の諸相について、童話を中心とした作品を取り上げ、具体的に分析します。近代日本の中心となり、海外の文明・文化をいち早く受容した東京から距離をもって、<宮沢賢治>は東北の地から何を発信しようとしていたのかを明らかにしていくことが目標です。	海外の芸術思潮、世界情勢と<宮沢賢治>の作品との関係についても授業で取り上げます。現代の社会・文化につながる近代を考えることで、自分自身の生きる世界について見直すことが目標です。また、比較文化・文学の方法についても実践的に学ぶことも目標とします。	◎	○		
150008025	日本における異文化	2	3・4年	上垣外 憲一	日本文化は、旧石器時代から縄文、弥生、古墳、など以後の各時代に海外から「異文化」が流入することで形成されてきた。古い時代のものが現代にも生き残っていることが特徴である。日本文化は、「異文化」の堆積、層層が整然と残されているという特質があることを理解できるようにする。	身の回りの「異文化」を見分け、考察する能力を身につけて、「文化摩擦」を予防、回避するすべを学ぶ。		○		
150008025	日本における異文化	2	3・4年	JOHNSON, G.S.	現代日本の文化の多様性を資料の分析を通して確かめる。そして、現代日本の国際接触的文化的影響と反応と「対話」に従事する。主に日本とアメリカ合衆国のさまざまな文化的接点を対象とする。焦点は「日本文化における日米関係：戦争から平和へ」である。戦時中の文化と社会、原爆、敗戦と終戦、教育、男女関係と女性の身分、戦後体制と憲法、等も考察する。論争点も積極的に討論するつもりである。教材は書籍、資料、映画、当時の画像、などの一次、二次資料を含める。学生達は多様な歴史資料の分析仕方が学習出来る。	知識、表現力、と分析能力を高めること。	○	◎		
150008025	日本における異文化	2	3・4年	水島 陽子	異文化とは何か。「異なる」と感じる自分とは何か。何が「他者」たらしめるのか。さまざまな姿に現れる事象の背景には、風土、歴史、国家、言語、宗教など、さまざまな要素が見出されるだろう。ここでは、主としてヨーロッパの思潮の二つの大きな源流、ヘレニズム (古代ギリシア) とヘブライズム (ユダヤ・キリスト教)、その出会いを通してヨーロッパ文化を考察したい。また、それらと出会ったのち、日本においてそれらがどのように受け入れられているかを検証したい。	①ヨーロッパの諸相---主としてヘブライズムとヘレニズムを理解する②日本におけるキリスト教の需要：歴史と現在、担った人々について理解する③異文化の表象 (言語・慣習など)、テキスト (文学、芸術作品など) に触れる④異文化理解を通して現代日本のあり方を問い、自己批判を行う。	○	◎		
150008026	ジェンダー論	2	2・3年	石川 照子	「社会的・文化的に規定される性別概念」であるジェンダーは、その社会や文化の中で歴史的に形成されたものであり、多様性と変化の可能性を備えています。「ジェンダー研究は、ありとあらゆる分野にジェンダーが関与してるとして、ジェンダー分析を領域横断的な方法として採用し、既存の学問の中にある「何が真理か」についての基準のものに挑戦する、きわめて戦闘的な学問である」(上野千鶴子) という観点に立ち、本授業では、ジェンダーという視点から、既存の「あたりまえ」とされてきたさまざまな現象や認識を再検討してゆきます。	この授業では、固定的な二分法による発想を乗り越えて、多様な性のあり方というものを許容する社会をどう構築してゆくのかについて共に考えてゆく中で、ジェンダー視点というものの重要性を理解することを目標にしています。	○	◎		
150008026	ジェンダー論	2	2・3年	北原 零未	ジェンダーとは、女性差別の問題や女性の地位向上に取り組むものと思われることもありますが、女性のみに関わる事柄ではありません。男女という生物学的な性(セックス)に対して、ジェンダーは「社会的・文化的に造られた性(あるいは性別概念)」を意味するとされています。そして、現在ではそもそも生物学上の性というものが自明のものではありません。ジェンダーという思想・概念はつきつめれば、1人1人の人間がその人らしく生きるとはどういうことかという根源的な問題に追究することになります。また、ジェンダーは、性差の問題にとどまらず、人種、国籍、宗教、セクシュアリティ、経済格差といった問題にも関わってくる概念です。そもそも「性別」というものが男/女だけではなくており、性や性愛には可変性があるという考え方は今ではグローバルスタンダードとなっていていきます。一方、日本ではどうでしょうか。社会は本当に多様化しているのか、どう多様化しているのか、あるいはいまだ多様化が許されていないとすれば、今後どうすれば各個人の多様な生き方が許容される社会になっていくのか、といったことを考える切り口となるような講座にしたいと思います。	フェミニズムとジェンダーに関する基本的な歴史と理論を理解する。身近な日常についてジェンダー分析ができるようになる。	○	◎		
150008027	表象文化論	2	2・3年	城殿 智行	映画・映像の見方を学ぶ授業です。映画が誕生し、やがてTVが各戸に行き渡った20世紀は、かつて「映像の世紀」と呼ばれましたが、インターネットがメディアの主流となった現在も、映像は情報産業の主要なコンテンツとして、世界中に流通しています。どうして人々は、今もなお、各種の映像に強く惹きつけられるのでしょうか。多くの人々が自撮り棒を手放さず、皆がごそって、インスタグラムやYouTubeを見たがるのは、なぜなのでしょう? この授業では、映像表現の基礎を形づくった映画の見方を講義し、知的に映像を分析するための、基礎的な方法を、伝えます。	履修後は、映像の文法を習得し、社会に流通する膨大な映像情報を批判的に理解することができるようになるでしょう。それは、今後ますます情報社会化していく世界を理解するために、必須の能力です。	○	◎		
150008028	アジアの美術	2	2・3・4年	菊地 淑子	日本を除く東アジア、内陸アジア、南アジア (インド) における造形芸術の歴史を学びます。講義を通じて、受講生がまるでアジア各地を旅してまわり、現地で造形作品を目にするかのような疑似体験をします。そして普段は馴染みが薄いかも知れないアジアの造形芸術に親しむことが、この授業のねらいです。工芸・絵画・彫塑・建築をまんべんなく見ていきます。実際の作品を学ぶと同時に、理論も並行して学ぶことがこの講義の特徴です。	自分で博物館美術館に行ったとき、好きなアジアの作品を見つめることができ、その作品へのアプローチの仕方が念頭に浮かび、自力で考察を進めることができるようになることが到達目標です。		◎	○	
150008029	アジアの都市	2	2・3・4年	関口 真理	本講義では「アジアの都市」をテーマとして、アジアの代表的な国・地域であるインドを取り上げます。まず序論として、世界的視野から「都市とは何か」「人間社会や歴史における都市の意味とは」を検討します。インドは日本の8倍を超える面積に13億もの人口があり、多くの民族やコミュニティが存在する多様な複雑な世界ですが、講義の本論ではインドの地域や社会の特色を概観し、インド史に沿って、各時代ごとにどんな都市が存在し、その都市がインド史に果たした役割を考えます。各時代や都市を象徴するような歴史的建築物や文化も紹介します。本講義のもう一つの大きな目的は、独自の社会・文化を形成して来たインド世界を知ることです。受講生が自分なりのインド観を持つことができるように、特にインドに初めて触れる受講生がインドへの関心につなげられるようにしていきます。またアジア各地やヨーロッパとの関わりにも触れ、各自の専門分野や地域とインドとの交流や文化・社会の比較ができるようにしていきます。	都市の形成と暮らし、という歴史・社会現象から、社会の構造や人間の多様な生き方について考えることができるようになる。インドという国・地域の社会と歴史を知り、関心を継続し、比較文化・比較社会の学びにつなげることができるようになる。		◎	○	

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	-

<ディプロマ・ポリシー (DP)>

DP 1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP 2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP 3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP 4	特に比較文化の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業の概要、ねらい	到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎：特に関係する ○：関係する			
							DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
150008030	日韓関係論	2	2・3・4年	上垣外 憲一	日本と韓国(朝鮮半島)は、歴史時代の7世紀に入る以前から、深い関係を持ってきました。日本列島の北九州地域は、壱岐、対馬という飛び石のような島々をさきで朝鮮半島の最南端と向かい合っており、これが「大陸」に向かう、最も安全な航行の道であったからです。仏教、儒教など朝鮮半島からはじめて伝えられた文化現象も数多いのです。明治維新以後は、政治的、軍事的な関係が急激に重要となり、日清戦争や日韓併合を起こしました。第二次大戦後、いわゆる国交正常化以後、両国の経済的な交流は急速に高まり、その上に最近の「韓流ブーム」があります。この授業では、こうした日韓の「切っても切れない」関係を、有史以前から現代まで、概観をたどります。なお、この授業では学生によるプレゼンテーションを重視し、成績評価に含めます。題名は「私と韓国」です。	日韓関係を歴史時代を通じて、政治、文化の両面から把握する。		◎	○	
150008031	日中関係論	2	2・3・4年	赤松 美和子	本授業では、日中関係史を俯瞰した上で、冷戦以降の「二つの中国」についても理解を深め、歴史・政治・文化交流・人の往来などを巡り、日中相互のイメージの変容とその背景を考察することを目的としています。	本授業では、受講者それぞれが、現代の日中関係について自分の見方を確立し、自分の言葉で語れるようになることを目標としています。		◎	○	
150008032	アメリカのジャーナリズム	2	2・3・4年	板橋 晶子	新聞をはじめとした報道機関は、歴史を記録するだけでなく歴史を作り上げる役割を担ってきたと考えられる。アメリカの歴史をみても、ジャーナリズムは「ニュース」を報道するだけでなく、政治や社会の変化、また文化や人々の価値観にも大きな影響を与えてきた。アメリカの報道機関は不正な政治権力や社会構造に対する批判や告発、あるいは戦争時における国家への協力といった手段を通じ、自らがアメリカ合衆国を形成する一部となってきたといえるだろう。本授業ではアメリカの歴史のなかで、「ジャーナリズム」が社会に与えてきた影響とその役割を考察する。またアメリカ史を理解する上で重要な「アメリカの価値観」や「報道の自由」といった理念、さらには人種・階級・ジェンダーの問題とも結びつけ、ジャーナリズムに対する受講生の理解を深めていく。さらに講義全体を通じ、「報道」とは何かを考え、「歴史的事実」とその「解釈」の問題についても省察することを旨とする。	本授業では、メディアの変遷とアメリカのジャーナリズムの歴史を学ぶことで、「ジャーナリズム」とその役割、また、「報道の自由」といった問題を、アメリカの歴史的背景と共に理解することを目指す。		◎	○	
150008033	アメリカの都市	2	2・3・4年	高田 馨里	この授業では、(1)アメリカ合衆国の地域的特性(地理、政治経済、社会)、(2)各地域の主要都市の成り立ちと特徴、(3)都市をめぐる問題について学んでいく。授業の前半では、2016年に行われたアメリカ大統領選挙の結果をもとに、アメリカの地域的特性、暮らしている人々、考え方の多様性などを学ぶ。次に、東海岸から西海岸へと漸次的に主要都市の成り立ちと人の移動について学んでいく。最後に、都市をめぐる問題については、格差の問題、人種関係、移民の問題など、時事的に大きく取り上げられる問題を取り上げ、日本との比較を行いたい。	アメリカ合衆国の地域的特性と都市を日本との比較の視点から学ぶ。		◎	○	
150008034	日米関係論	2	2・3・4年	佐藤 円	アメリカ合衆国は日本に黒船の来航以来160年以上にわたって、政治・経済・文化といった社会の様々な分野に強い影響力を及ぼしてきた。日本で暮らす人々の日常を振り返ってみても、あらゆる場面でアメリカからもたらされた物事(例えばインターネット、ポップミュージック、コンビニエンス・ストアなど)に触れながら日々を送っていることに気がつく。またテレビや新聞を見れば、「アメリカ政府」「ニューヨーク株式市場」「アメリカ軍基地」などの記事を目にしない日はないだろう。それどころか、あまりに「アメリカ」が日常化しているため、自分たちがどれほど「アメリカ」に囲まれて暮らしているかさえ気づかなくなっている。そのようにアメリカは日本にとって身近な存在であるにもかかわらず、日本に暮らす人々は日本とアメリカの関係について、どれほど明確な知識を持っているであろうか。この講義では、あまりに身近すぎて、むしろ見えにくくなっている日本とアメリカの関係について歴史的に解説し、それが現在の日米関係や日本社会の状況をどのように規定しているかを検討していく。アメリカ文化コースのみならず、アジア文化コースやヨーロッパ文化コースの学生にも積極的に受講してもらいたい。	この講義では、日米関係の歴史を学び、その複雑さや多面性を検討することで、二国間に横たわる諸問題の現状とその起源について深く理解できるようになることを目標としている。		◎	○	
150008035	大衆消費社会論	2	2・3・4年	城殿 智行	2011年3月の東日本大震災直後に、流通網が乱れた首都圏では、スーパーやコンビニの商品棚に一時的な空白が生じたため、多くの人々がこぞって食料や飲料水の買い占めに走り、小売店の品薄状態に拍車をかけたばかりか、被災地への救援物資確保にさえ、少なからず影響をあたえました。歴史的な観点に立てば、そのような行為に走る人間こそがまさに「大衆」と呼ばれますが、彼・彼女らはなぜ、自らの利己的な行為がおよぼす社会的な影響をあまりかえりみずに、振る舞うのでしょうか。もちろん、いつの時代にも、利己的に行動する人間はそれなりに存在したでしょうが、そのような人間が必ずしも各時代において大多数を占めてきたわけではないのだとすれば、いったい、いつごろから「大衆社会」が形成されたのでしょうか。また、見方を変えれば、そうした出来事は、私たちの現在の生活が、いかに複雑・多様な生産と流通の網の目によって可能になっているのかを、物語ります。私たちの多くが、日々膨大に廃棄されていく多量の生産物に絶えずとり囲まれていないと満足できない、過剰な消費生活を送っているのです。この授業では、現代のあまりにも「豊かな」大衆消費社会がどのように成立し、そこにいかなる問題が生じているのかを歴史的に学びながら、今後の社会のあり方を考えます。	履修後は、私たちの社会がいかに様々な問題に満ち、だからこそ、持続可能な世界を模索する必要があるのだと、知ることができるでしょう。それは、比較文化学部で学ぶ上で、また今後、社会に出る上で、必須の知識です。	○	◎		
150008035	大衆消費社会論	2	2・3・4年	板橋 晶子	私たちが生きる現代社会を理解するうえで、「消費」は重要なキーワードである。産業革命と技術革新にともなう大量生産、大量消費社会の出現は、人々の生活様式、価値観、社会の在り方を大きく変えてきた。実際に消費社会の中で人々は消費財の所有によってその生活水準や人物像を規定され、消費文化に多大な影響を受けてきた。そうした消費社会とは何かを考えることにより、現代社会とその歴史に対する新たなまなざしを得ることができるだろう。本授業では、大衆消費社会出現以降の社会をアメリカ合衆国の消費の歴史を中心に学び、またアメリカに大きな影響を受けてきた戦後日本の消費文化にも焦点を当てて考察する。具体的には、消費が社会においてどのような役割を担い人々の生活の中に浸透してきたのかを、いくつかのキーワードに絞って歴史的にたどりながら、「大衆」や「消費」についての理解を深めていく。また「消費者」とは誰かという問題を、ジェンダーや人種、階級の問題と絡めながら受講生と共に考察することも本授業のねらいである。	本授業では「大衆消費社会」とその歴史の変遷について学び、自分たちが生きる社会を構成する「消費」の位置づけと役割を理解し、またアメリカ等に影響を受けてきた日本の消費文化についても自らの視点で考察する力を養っていく。	○	◎		
150008036	ヨーロッパ統合の思想	2	2・3・4年	井上 淳	※履修登録前にシラバスを必ず読むこと。この授業は、教員が指定するチームで教科書の内容報告、質疑応答、作品制作にとりくむ授業です。manabaも使います。受け身で解説を聞く方がよい人には向きません。※本講義では、ヨーロッパ地域の長い歴史のなかで浮かんで消えていった統合計画(国をこえた統合の計画)について、それぞれ歴史的・思想的に理解することを目的としている。「ヨーロッパ統合」という発想は、実は数百年前から形を変えて存在してきた。それぞれの時代にどのような人が、なぜ、国をこえて協力しようとするにいたった(迫られた)のだろうか?いくつかの代表的な統合構想を検討することで、メディア等で話題になっているEU(European Union:ヨーロッパ連合)の起源を実感する。また、科目としてはどうしても「異なる」授業で扱われてしまう歴史・思想・社会・外交が、そして、同じく「断絶している」ように紹介されてしまう中世・近代・現代が、意外とつながっているなど実感することも意図している。(そうしたことをゼミに入る前に実感してもらうために、2年生の履修も歓迎しています)	個別具体の時代や対象を学ぶだけでは、本学部の醍醐味である「比較」はおもしろいものになりません。この授業では、内容が多少難しいヨーロッパ統合思想についての本にチームで取り組み、その内容報告を準備することによって、時代(中世-近代-現代)そして科目(歴史、文化、思想、宗教、社会)を横断した異文化(ここではヨーロッパ)理解ができるようになることを目指します。統合思想計画が主な題材ですが、それを理解するために歴史、人物、宗教、社会構造などの理解が必要になります。「ある時代に生まれたものは、その時代、地域などの影響を受ける」というごく当たり前のことを体感してもらうことは、その後ゼミなどでそれぞれの関心ある分野について比較研究をする際に「何に注目すべきか」という指標を提供してくれるでしょう。また、この授業でおこなうチーム作業は、学年やコースをこえた履修者間のコミュニケーションを促します。チームでの経験は、ゼミ選択、ゼミでの活動、就職活動、卒業後の生活に、主にコミュニケーション能力において大きな財産を残してくれるでしょう。		◎	○	

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	-

<ディプロマ・ポリシー（DP）>

DP 1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP 2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP 3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP 4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業の概要、ねらい	到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎：特に関係する ○：関係する				
							DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	
150008036	ヨーロッパ統合の思想	2	2・3・4年	上原 史子	本講義では20世紀のヨーロッパ統合をめぐる歴史について学び、現在のヨーロッパ統合が抱えている外交、経済社会問題、政治文化問題を広く知り、EU統合の将来について考察することを目標とします。その際、リージョナリズムの一例としてのヨーロッパ統合が直面している安全保障や気候変動などの諸問題、ウクライナをめぐるEUの対ロシア関係、中東・アフリカからの難民問題、テロとの戦い、BREXIT（イギリスのEU離脱問題）、EUの対トルコ関係の変容、またヨーロッパの地域統合のアジアへの応用可能性についても受講生の皆さんと議論する予定です。特に3.11のアクシデントを受けて、ヨーロッパでは原子力を含む気候変動・エネルギー政策の改革が進められています。日本の気候変動・エネルギー安全保障問題において有用な政策もみられることから、次世代を担う皆さんにもその実態を知り、本講義が日本の将来についてしっかり考える時間となることを期待しています。	ヨーロッパ統合の歴史と現在のEUが抱えている様々な政策課題について理解し、日本の諸政策と比較検討しながら、日本のあるべき姿について議論できるようになることが目標です。		◎	○		
150008037	日欧関係論	2	2・3・4年	武田 千夏	この授業は、前半は教員の講義、後半は学生の発表によって構成されている。1) 教員の講義では、日欧関係について、歴史、政治、経済、文化の諸側面からアプローチする。■南蛮貿易以来の日本と西欧諸国の史的関係を概観する。■貿易関係を基盤とした日本とヨーロッパの関係から生まれた文化交流について考察する。■具体的には、18世紀における日本の漆器の輸出、啓蒙哲学者たちの日本についての認識、フランス革命派たちの日本についての認識、19世紀末から20世紀にかけてのジャポニズム、日欧食文化の比較などを取り上げる。■その結果、現在日欧の経済交流の根底に横たわる文化交流について把握し、それが相互のイメージに影響していることを理解する。2) 後半には、教員の講義に対するリアクションとして、学生個人がテーマを自由に選んで、発表をする。政治、日欧文化交流、宗教、比較社会などのテーマに分類されるが、近年は文化を焦点とした発表が占める割合も大きくなっている。（ヨーロッパ内における異なるジャポニズム、ファッションなど）	日欧関係の概観について講義を通じて理解した後で、日本とヨーロッパ（とくにフランス）の経済、文化、政治関係に特定のテーマについて調べ、自分なりの考察を導くことができる。	○	◎			
150008038	イスラムの文化と社会	2	2・3・4年	北原 圭一	イスラーム（イスラム）という言葉から私たちは何を連想するでしょうか。特に近年問題となっているシリア内戦やIS等の過激派によるテロ事件などから、イスラーム原理主義（イスラーム主義過激派）とテロリズムの荒々しく恐ろしいイメージを抱いている方が多いかもしれません。あるいは、黒いヴェールをまとって隔離された女性たち、酒や豚肉が禁止された食事等に象徴される抑圧的で不自由な宗教というイメージを抱いている方もいるでしょう。ですが、イスラームがただ暴力性と抑圧性だけに特徴付けられる宗教であるとするならば、どうして世界に16億人ともいわれる信徒を惹きつけることができるのでしょうか。イスラームという宗教には、きっと人の心を惹きつける「何か」があるに違いありません。そう考えられないでしょうか。西暦7世紀のアラビア半島に勃興したイスラームは、その後の歴史を通じて、北アフリカから中央アジア、東南アジアに至る極めて広大な文化圏を築き上げるに至りました。言うまでもなくこのイスラーム文化圏においても、西洋キリスト教世界等と同様に、あるいは時にそれ以上に、諸学問や文学・絵画・建築等の文化が豊かに花開き、独自の知的・精神的活動が展開されてきました。本講義では、イスラームの世界的な広がりの中での統一性と多様なあり方を概観することから始め、通常日本では紹介されることが極めて少ないイスラーム世界の文化的側面と社会の特質を、比較文化の視座に基づきつつ、アラビア語・建築・文学（『千夜一夜物語』等）・絵画（細密画）・音楽（中東の古典音楽）・映画等を中心に、具体的な作品やモノに即して考察していき、イスラームについて偏見のない正しい知識をもてるようになることを目的とします。	クルアーンやイスラーム法など、イスラームの信仰の基礎に係わる用語・概念や、スンナ派とシーア派の違いなど、宗教としてのイスラームに関する基礎知識を習得したうえで、モスク建築や細密画、『千夜一夜物語』などに代表される文化的所産への理解を深め、正しく説明できるようにすることを目標とします。		◎	○		
150008039	現代中近東事情	2	2・3・4年	北原 圭一	中東イスラーム諸国は、特に米国同時多発テロ事件やその後のアフガニスタン空爆とイラク戦争以降、「アラブの春」を経て、IS等の過激派の台頭と各地で頻発するテロ事件、トルコ内政の不安定化、イラン核協議の合意、サウジアラビアを筆頭とするスンナ派諸国とイランを中心とするシーア派勢力との対立など、その政治・社会状況は目まぐるしく変化しています。また、国際社会がこれらへの対応を迫られていることも周知の通りです。こうした状況を受けて、私たち日本人の中東地域への印象は悪化の一途をたどっていると思われませんが、このような時代だからこそ、国際社会の一員である私たちは、中東地域で実際のところ何が、なぜ起こっているのか、彼らは何を考えているのか、といった問題への理解を深めていかなければならないのではないのでしょうか。こうした問題意識に基づき、本講義では、中東イスラーム世界に暮らす人々の生活・文化のあり方や社会と政治の仕組みなどを、風土、音楽や映画、食文化、女性の地位、教育など具体的な事例に即して学びながら、中東イスラーム世界の現状や、国際関係とその歴史的背景への理解を深めることを目的とします。	パレスチナ問題やIS等の過激派の問題だけでなく、トルコやイラン、サウジアラビア等の現代の主要中東諸国の社会的・文化的状況と国際関係、女性をめぐる状況などを歴史的背景を踏まえて正しく理解し、説明できるようにすることを目標とします。		◎	○		
150008040	現代ロシア・東欧事情	2	2・3・4年	山田 朋子	現代の世界を理解する上で、ロシア・東欧地域を知ることは必要不可欠である。また、ロシア・東欧地域の文化や人々の考え方を理解するには、社会主義時代を知ることが重要である。ロシア革命によって世界初の社会主義国となったソヴィエト連邦は、第二次世界大戦後に「東欧圏」をつくりだした。しかしその内部にはソ連型社会主義に対する不満が強かった。とりわけポーランドやハンガリー、チェコスロヴァキアでは、強い抵抗がみられた。これらの国々に住む人々は、第一次大戦後に国民国家を築いたが、第二次大戦中ナチス・ドイツやソ連による占領を経験した。こうした複雑な歴史と強い民族意識を背景に、これらの国々は戦後、ソ連の圧力のもとで民主化を求めたのである。この授業では、映像資料を活用しつつ、冷戦期のロシア・東欧地域を中心に、ソ連崩壊までの世界を概観する。	現代のロシア・東欧社会の変化を考える上での歴史的背景を理解する。		◎	○		
150008041	口承文芸と民間信仰	2	2・3・4年	安藤 恭子	口承文芸とは、文字に書き記されることなく、人々の口から口へ語り継がれてきた物語のことです。具体的には、神話・叙事詩・伝説・民話などを指します。人類は文字によって文化を発達させ、記録し、歴史を刻んできたと考えられています。無文字社会にも人々が育んだ文化があり、その文化は文字をもった社会に大きな影響を与えてきました。また、文字によって歴史に刻まれた一部の権力者だけに注目しては、その社会の圧倒的多数の一般の人々の生活、文化が無視されることになるでしょう。こうした問題に対して、民俗学は、口承文芸とその精神的基盤となる民間信仰を研究対象としてきました。この授業では、日本の社会に保持されている豊富な口承文芸と民間信仰を、現代を生きる私たちの問題としてとらえなおすことを目標とします。	北方、東北、東京（江戸）、沖縄などの口承文芸の歴史的・社会的背景を知り、そこに見られる世界観、宗教観をとらえながら、それらが近代・現代の文化とどのように接続しているのかを学ぶことによって、自分自身の生活・精神のあり方を客観的に分析できるようになることが目標です。	○	◎			
150008041	口承文芸と民間信仰	2	2・3・4年	鈴木 孝子	古来より日本人の宗教的感性の根底には、自然界また神聖なものに対する畏怖と崇拜が内在していたこのような宗教的感性を基盤に、先人たちは仏教を始め様々な宗教・文化を受容、吸収し豊かな精神性を育んできた。日本的な宗教性は、芸術・芸能の領域内で昇華され、民間信仰の中に本質が育まれている面があるのではないだろうか。教理経典にとらわれない自由な宗教性は、日本の芸術において見出されると想定される必要があろう。故に、先人たちの素直な心の叫びに耳を傾けることは、新たな発見となり、個人々の感性を磨く上で有意義な知的営為であると信じる。この授業では、日本の口承文芸また芸術の中に、日本的な宗教性がいかに反映されているかを吟味し、日本の伝統文化の概略を学んでゆくこととしたい。また、各時代の知識人による民俗学的研究にも目を配りつつ、当時の人々が日本的宗教性をどのように解釈して来たかも検討することとしたい。受講生にとってこの授業が日本の伝統文化、および日本人の思想形成の過程に改めて向き合い、自分自身と日本の文化との関わりを考え直す機会となれば幸いである。	この授業で学んだことを、授業内提出する感想文、記述式の期末試験において論述し、自分の考え意見を明瞭に論述できること。近代以前の日本の文化に関する概略を、比較文化的な視点から分析する能力を習得すること。	○	◎			

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	-

<ディプロマ・ポリシー (DP) >

DP 1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP 2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP 3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP 4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業の概要、ねらい	到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎：特に関係する ○：関係する			
							DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
150008042	多民族・多文化社会	2	2・3・4年	未定	アメリカ大統領選挙で共和党のトランプ大統領政権が誕生したことによって、アメリカでは移民問題が重要な問題として大きく取り上げられている。すでに多くの移民問題に直面してきたオーストラリアでは、自由保守連合政権が、市民になるための市民権テストを継続して行っている。またカナダも同様に多文化主義を採用し続けている。S. カースルスとM. J. ミラーは『国際移民の時代』のなかで、シチズンシップの概念から世界の国々を、帝国モデル、民族あるいはエスニックモデル、共和制モデル、多文化モデルの4モデルに分類し、多くの国々がグローバル化に伴って多文化主義社会に向かっていると示唆している。戦後オーストラリアは、移民受け入れの拡大とともに多民族国家、多文化主義社会へと姿を変えてきた。多文化主義を国是とし、党派を超えて多文化主義社会の構築へと向かった。1989年に国の政策として掲げた『多文化社会への全国的課題』では、移民の文化的独自性、社会正義、経済的効率を基本理念とし、機会の平等と参加、公用言語の奨励、ゲッターやスラムの発生防止、積極的差別是正措置の実施に加え、主流社会の異文化や異言語への寛容性の強化などが相まり、1999年の『新課題』では民主主義と人権重視型の多文化主義が強調されている。2005年シドニー南部クロナラ・ビーチでのレバノン系住民と白人の大規模な暴動や2011年中国系およびインド系留学生が襲撃される事件も相次いで起きているが、多文化主義が基本概念であり続けている。今やエブリデー多文化主義社会と呼ばれる社会が世界に拡大されつつある。多文化社会での市民権テストの実施によって望まざる移民が生まれる可能性が高まっている。市民になりたくてもなれない者が世界中に増加する危険性が強まっている。多文化・多民族に対する懸念が渦巻くなかで、オーストラリアの多文化政策が再び注目され始めている。オーストラリアの狭く多民族・多文化主義が世界の国々とのように異なるのか、国を超えた政策として世界の手本となりうるのか、今後の世界の多文化主義の在り方を比較検討する必要がある。授業では映画やドキュメンタリーなどの映像を通して、オーストラリアだけではなく世界の多民族・多文化社会に眼を向けていきたいと思う。	多民族国家と多文化主義社会現在のオーストラリアは「世界中からの移民独自の文化が共存する多文化主義社会」というイメージだが、アメリカやカナダと同様に先住民もいる多民族国家であり、先住民の問題も抱えている。先住民も含む白人以外の国民の社会貢献も視野にいれる歴史観が要求されるようになってきている。多文化主義社会がかかえる世界の様々な問題に焦点をあて、オーストラリアとその他の国を比較し、その課題を検討し可能な方向性を探る。		◎	○	
150008043	比較文化演習1-I	2	3年	赤松 美和子	本授業は、卒業論文の準備をすることを目的としています。担当者は担当論文について内容をまとめ、発表します。担当者以外の受講者は指定された論文を予め精読した上で授業にのぞみ、内容について必ず質問してください。発表の仕方や論文の書き方など、研究、発表をする上で必要な方法技術を身につけ、卒業論文を書くための基礎力をつけましょう。	論文を読む技術を身につけ、卒業論文を書く準備をすることを目標としています。			○	◎
150008044	比較文化演習1-II	2	3年	赤松 美和子	本授業は、卒業論文の準備をすることを目的としています。担当者は担当論文について内容をまとめ、発表します。担当者以外の受講者は指定された論文を予め精読した上で授業にのぞみ、内容について必ず質問してください。発表の仕方や論文の書き方など、研究、発表をする上で必要な方法技術を身につけ、卒業論文を書くための基礎力をつけましょう。	論文を読む技術を身につけ、卒業論文を書く準備をすることを目標としています。			○	◎
150008045	比較文化演習2-I	2	3年	石川 照子	★テーマ：「ジェンダー研究」世界のさまざまな地域のジェンダーに関する問題について、多様な方法論を通して学んでゆきます。ジェンダーという概念を用いることによって、世界の諸地域のどのような状況や問題が、新たに現えてくるのでしょうか。そして世界をどのように再構築することができるのでしょうか。こうした問題意識をもって半年間共に学んでゆく中で、ジェンダー視点から見る力を育成します。	世界のさまざまな問題の考察を通じて、ジェンダー視点を十分に習得することを目標としています。			○	◎
150008046	比較文化演習2-II	2	3年	石川 照子	「ジェンダー研究」を中心とした卒論指導・・・論文の輪読を中心に、履修者の卒論指導を行います。	ジェンダーの学習を通して、卒論作業に関する知識と技術を習得することを目標としています。			○	◎
150008047	比較文化演習3-I	2	3年	井上 淳	本演習は、卒業論文を書くために必要な作業に慣れること、とりわけ卒論準備の最初の段階である「本や論文の読み方」を会得することをめざす。具体的には、他者（本や論文の筆者）の意見を読みその論理展開と主張・立場・意図を正確に理解できるようにすること、筆者の意見と自身の意見との相違を認識したうえで改めて自身の意見をまとめることができるようになることを目指す。今年度は、履修者予定者の関心と既履修科目を検討して、平和の問題、途上国支援、食糧問題、そしてEU（ヨーロッパ連合）について書かれた教科書を扱う。ただし、あくまで冒頭記述の力を会得するための訓練材料に過ぎないので、これらのトピックに直接関心がなくても心配せずに「資料の読み方」と「国際関係ゼミに所属するために必要な基礎事項」を鍛錬してもらいたい。なお、後期から本格的に各自の関心あるテーマで学びを深めてもらえるよう、前期中に各自の関心テーマについて考える機会も提供する。さいごに、演習選択時に配布された冊子（申告書）をいまいちどきちんと読んでおき、教員が担当する国際政治経済論（全コースの学生対象）や文化研究（ヨーロッパコースの学生のみ）を受講すること。指定した授業を受けない学生が毎年数名いるが、そうした人は毎年ほぼ確実に、ゼミから脱落する、卒業論文の審査（2名で審査される）に通らなくなりそうになる、などといった状況に陥っている。政治経済社会のゼミに所属しているのにそうした授業を履修していなければ、実力がつくわけがない。そのあたりは心しておくこと。	4年生の12月に卒業論文を提出するための準備をすることが、ゼミでおこなう主な作業になります。ただ、やみくもに本や論文を読んだところで、最低30冊以上ともいわれる「卒業論文執筆に必要な資料数」をきちんと読みこなすことはできませんし、不完全な理解のまま論文を書いては説得力ある話にはなりません。本、論文を写しただけでは卒業論文として受理されません。ましてや、このゼミは複数のコースから多様な関心をもった学生が集まっています。まずは、自身の関心あるテーマについて文章で表現することができるようにしただけで、関心テーマに関係する本や論文をきちんと理解する力を身につけなければなりません。そこでこの授業では、国際政治やEU（ヨーロッパ連合）に関する新書を題材にして、「どのように話の流れをくみとるのか」「どのように筆者の意見を正確に把握するのか」というスキルを身につける訓練をします。毎週、本の2,3章を履修者にあてて内容を報告してもらい、他の履修者には質問を投げかけてもらいます。その作業のなかに「論文や本の読み方のコツ」があることを体感してもらいます。それと同時に、図書館ツアーを別途おこない、自身の関心があるテーマについてどのような文献があるのかを調べてもらい、少しずつ読んでおいてもらいます。後期から本格的に「自分の学びたいこと」を追究してもらうための準備です。以上を通じて、就職活動がはじまる前に、関心があるテーマについてある程度明確にしたうえで、そのテーマに関する論文や資料を読み知識がついている状態になることをめざします。			○	◎
150008048	比較文化演習3-II	2	3年	井上 淳	本演習は、各自の研究テーマと問題意識をほりさげること、そして卒業論文執筆作業を体感してもらうことをねらいとする。学期末に小論文（10,000字）を執筆することを目標に、各自関心のあるテーマで文献を調査、その成果をプレゼンテーションしてもらう。いざ卒業論文を書くときに資料収集、情報整理、論文執筆の方法に悩むことがないよう、作業に慣れておくのが最大のねらいである。詳しくは、演習選択時に配布された冊子（申告書）を参照すること。なお、教員が担当する国際政治経済論（全コースの学生対象：I, IIの両方を履修のこと）、ヨーロッパ文化研究（他コースの学生は履修の必要なし）なども履修すること。指定した授業を受けない学生が毎年数名いるが、そうした人は毎年ほぼ確実に、ゼミから脱落する、卒業論文の審査（2名で審査される）に通らなくなりそうになる、などといった状況に陥っている。政治経済社会のゼミに所属しているのにそうした授業を履修していなければ、実力がつくわけがない。そのあたりは心しておくこと。	演習のIである程度文献をきちんと読む力を備えた後は、実際に自身が関心をもつテーマについて書かれた本や論文を読み、その内容について報告してもらいます。複数回の報告を経て、学期末に提出する1万字程度の論文の構想を発表し、実際の論文執筆をしてもらいます。4年生で卒業論文執筆にとりかかるとしても、今関心をもっているテーマが卒業になりそうかどうかかわからないし、まとまった字数の論文を書いたこともほとんどないと思います。この学期に取り組んだことが卒論の土台になるにしてもならないにしても、一度論文らしい論文を書いてみる、というのが、この授業の目標です。ひとつのテーマにしたがって必要な文献を集め、自身の伝えたいことを効果的に伝えることができる構成を考え、実際に執筆してみましょう。なお、それだけでなく個別作業に偏りがちなので、別途チーム作業を要する課題を課して、グループワークにも慣れてもらいます。（昨年度まではチームでテーマを決めて社会見学を実施、その結果を報告してもらっています）上記2つの作業を通じて、卒業に必要な卒業論文作成にかかわるスキルを身につけるとともに、4年生として卒業後に問われるであろうディスカッション能力の向上に努めます。			○	◎
150008051	比較文化演習5-I	2	3年	行田 勇	謎解きの言語学シリーズ 発展編・我々が普段なにげなく使っている「ことば」のもつ様々な「謎」を解き明かすことを目標とする。また、「ことば」にかかわる様々な現象について考え、その解決を探るための方法論を身につける。「ことば」は、精密な規則性、いわゆる文法規則のもとに成り立っている。「文法」と聞くと、大方の人は、中学校や高校時代に「苦勞して暗記」した悪夢がすぐによみがえってしまうのではないだろうか。しかし、文法というものは、言語を使う際に、我々が知らず知らずのうちに従っている規則性のことなのである。確かに「三人称単数現在の-s」も規則だが、この授業で扱うのは、もっと広い意味で、「言語の背後にある様々な規則性」を明らかにすることである。「謎解きの言語学シリーズ」の中間に当たる講座である。言語科学入門（1・2年）→本講座（3年）→比較文化ゼミ（4年ゼミ）	「ことば」に関わる分野の中から様々なテーマを広く学び、言語に対する関心を高めることを目標とする。			○	◎

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	-

<ディプロマ・ポリシー（DP）>

DP 1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP 2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP 3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP 4	特に比較文化の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業の概要、ねらい	到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎：特に関係する ○：関係する			
							DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
150008052	比較文化演習 5 - II	2	3年	行田 勇	謎解きの言語学シリーズ 発展編・我々が普段なにげなく使っている「ことば」のもつ様々な「謎」を解き明かすことを目標とする。また、「ことば」にかかわる様々な現象について考え、その解決を探るための方法論を身につける。「ことば」は、精密な規則性、いわゆる文法規則のもとに成り立っている。「文法」と聞くと、大方の人は、中学校や高校時代に「苦学して暗記」した悪夢がすぐによみがえってしまうのではないだろうか。しかし、文法というものは、言語を使う際に、我々が知らず知らずのうちに従っている規則性のことなのである。確かに「三人称単数現在の-s」も規則だが、この授業で扱うのは、もっと広い意味で、「言語の背後にある様々な規則性」を明らかにすることである。「謎解きの言語学シリーズ」の中間に当たる講座である。 言語科学入門（1・2年）→本講座（3年）→比較文化セミナー（4年ゼミ）	「ことば」に関わる分野の中から様々なテーマを広く学び、言語に対する関心を高めることを目標とする。			○	○
150008053	比較文化演習 6 - I	2	3年	原 研二	この授業では、ドイツ・オーストリア・スイス・文化圏を中心に文化史上のポイントを学びます。テーマの立て方、比較の仕方、考えをまとめていくやり方を育成します。1) 何がドイツ文化? 2) ルネサンス/カーニバル文学 3) マニエリスム文化 4) 30年戦争 5) 牧歌文化運動—オペラ・宮廷文学・宮廷美術 6) フランス革命の影響 7) 19世紀文化革新運動および時代順に中世から1800年頃まで、美術・バレエ・オペラを素材にしなが、時代のさまざまな見方を提供します。	この授業では文化史上のポイントを学び、メモをとることにより、主体的にテーマをまとめることができるようになることを目標としています。			○	○
150008054	比較文化演習 6 - II	2	3年	原 研二	表面に見える世界から隠れた世界へ。この授業では折口の方法、フレイザーの方法、パシュールへの共感、フロイトの示唆、群衆論、進化論について深く学び、広い視野を育成することを目的としています。	この授業では代表的な隠密学を学び、身近な問題へ応用し考察することにより、自分のもの見方ができるようになることを目標としています。			○	○
150008055	比較文化演習 7 - I	2	3年	佐藤 美	熟語をとおり、わたしたちのモノのみかたを再考する。漢字で表記されたモノの名前や概念をとりあげ、辞書や百科事典の説明を精読しながら、わたしたちが当然だとおもっているモノのみかた、とりわけ伝統、自然、身体・こころ、想像世界などにたいするまなざしをゆさぶってみたいとおもいます。	辞書、事典を駆使して調べる能力、調べたことを発表する能力の修得。			○	○
150008056	比較文化演習 7 - II	2	3年	佐藤 美	後期は担当者をきめて、日本語でかかれた論文を各自あらかじめえらんでよみ、その内容をまとめて、発表をしてもらいます。論文の形式やルールをともに、卒業論文のテーマさがしのきっかけをつくるつもりです。	卒業論文執筆のために資料を収集して、要約できること。			○	○
150008057	比較文化演習 8 - I	2	3年	渡邊 顕彦	古代ギリシアと現代ギリシアについて、わかりやすい教科書を基に、包括的に学んでいきます。また古代ギリシアの近現代欧米やその他世界における受容についても考えていきます。夏休み中に訪れる関西の美術館等にある古代ギリシア・ローマ美術についても学んでいきます。	この授業では、古代ギリシア・ローマの文化と歴史について学び、その今日的意義について考察することにより、広く歴史文化を学習研究することの意義を実感できるようになることを目的としています。			○	○
150008058	比較文化演習 8 - II	2	3年	渡邊 顕彦	前期にひきつづき、古代ローマについて、わかりやすい教科書を基に、その歴史、文化、文学を学んでいきます。欧米、特に西ヨーロッパの形成に多大な影響を与えた古代ローマの包括的な理解につとめます。また、4年次の卒業論文について、最後にガイダンスを行います。古代地中海文化の現代にもたらす影響について、複数回の校外授業を行う可能性があります。	この授業では、古代ギリシア・ローマの文化と歴史について学び、その今日的意義について考察することにより、広く歴史文化を学習研究することの意義を実感できるようになることを目的としています。			○	○
150008059	比較文化演習 9 - I	2	3年	安藤 聡	マイケル・ポンドの『くまのバディントン』シリーズの第1巻を原文で読みます。また、各受講生が英国文化の諸相について調査し発表することを、テキストの講読と並行して行います。	作品の講読を通して英語の読解力を鍛えると同時に、小説や児童文学の読み方を習得し、作品に描かれた英国における生活様式を分析し、英国文化に対する理解を深めることを目標とします。			○	○
150008060	比較文化演習 9 - II	2	3年	安藤 聡	前期に引き続き『くまのバディントン』シリーズ第1巻を読みます。また、受講生による研究発表は、次年度の卒業論文に向けてテーマを絞ることを目標とします。	前期と同じ			○	○
150008061	比較文化演習 10 - I	2	3年	佐藤 円	21世紀を迎えた現代においても、「人種」や「民族」をめぐる対立や紛争は依然として世界各地で続いている。それでは、なぜ人々は今なお「人種」や「民族」にこだわり続け、それを理由に敵対するのであろうか。あるいは、そもそも「人種」や「民族」とはいかなるものなのであろうか。この演習では、このような本質的な問いに対する答えを探るために、現在世界各地で発生している、あるいは過去に発生した「人種」や「民族」に関わる諸問題を取り上げ、それらを文化的、社会的、政治的に比較検討する。またその作業を通して、4年次に執筆する卒業論文のテーマを探る機会を提供する。	この演習では、文献や映像を通して学んで得た知識を使って自己の意見を述べあい、大学の演習らしい創造的な議論を展開できるようになることが目標である。			○	○
150008062	比較文化演習 10 - II	2	3年	佐藤 円	21世紀を迎えた現代においても、「人種」や「民族」をめぐる対立や紛争は依然として世界各地で続いている。それでは、なぜ人々は今なお「人種」や「民族」にこだわり続け、それを理由に敵対するのであろうか。あるいは、そもそも「人種」や「民族」とはいかなるものなのであろうか。この演習では、このような本質的な問いに対する答えを探るために、現在世界各地で発生している、あるいは過去に発生した「人種」や「民族」に関わる諸問題を取り上げ、それらを文化的、社会的、政治的に比較検討する。またその作業を通して、4年次に執筆する卒業論文のテーマを探る機会を提供する。	この演習では、前期の演習で学んだ知識を活用しながら、各自の卒業論文のテーマを確定させることが目標である。			○	○
150008063	比較文化演習 11 - I	2	3年	銭 国紅	テーマ：中国を知る、アジアを知る二十一世紀はアジアの世紀と言われているほど、世界におけるアジアの存在がかつてないほど大きくなっている。しかしアジアとアジア（日本）、アジアと世界との関わりがどうだったのか、これからどうなるべきかについては、まだまだ知らされていない部分が多い。日本でも近代以来西洋の視点からのみものを見、アジアの視点の確立を怠ったために、歪んだ世界像・アジア像がいまだに横行しているのが実情である。したがってアジア（中国）とアジア（日本）、アジアと欧米との間の相互認識を捉えなおし、日本にとってアジアとは何かを考え、アジアのアイデンティティを明らかにし、アジア比較文化の視点を確立することが、このセミナーの狙いである。具体的には、アジア比較文化研究を志すものに必要「原点」とも呼ぶべき資料を読みながら、多文化主義、文化相対論とは何かを問いつける通文化的研究の楽しさを味わってもらう上、参加者全員が自ら面白いと思うことをテーマに発表し、議論してもらう。学期末にはセミナーでの研究発表や議論を元に、レポートを作成する。	この授業では、比較文化研究の奥深さを学び、アジアをめぐる比較文化論資料を考察することにより、議論に取り上げられた関係資料に見る歴史的意義と今日的意義を理解することができるようになることを目標としています。			○	○
150008064	比較文化演習 11 - II	2	3年	銭 国紅	テーマ：日本とアジアを比較する二十一世紀はアジアの世紀と言われているほど、世界におけるアジアの存在がかつてないほど大きくなっている。しかしアジアとアジア（日本）、アジアと世界との関わりがどうだったのか、これからどうなるべきかについては、まだまだ知らされていない部分が多い。日本でも近代以来西洋の視点からのみものを見、アジアの視点の確立を怠ったために、歪んだ世界像・アジア像がいまだに横行しているのが実情である。したがってアジア（中国）とアジア（日本）、アジアと欧米との間の相互認識を捉えなおし、日本にとってアジアとは何かを考え、アジアのアイデンティティを明らかにし、アジア比較文化の視点を確立することが、このセミナーの狙いである。具体的には、参加者全員に中国あるいは日本の歴史、文化、社会をめぐって、知りたいこと、面白いと思うことをテーマとして提出してもらう。各自の関心や問題意識を探り合うことによって、研究対象に対する参加者の認識や理解をさらに高めていく。学期末にはセミナーでの研究発表や議論を元に、レポートを作成する。	この授業では、比較文化研究の奥深さを学び、自らの思いを学問的な研究対象に高めていく作業を実行することにより、日本を含むアジア（特に中国）に対する知的な好奇心やアジア比較文化の初歩的な問題意識を持つことができるようになることを目標としています。			○	○
150008065	比較文化演習 12 - I	2	3年	武田 千夏	自分が追求したいテーマを1つ決めて（途中で変えてもかまわない）、それに沿って自分で本を選んで読んで、考えて、まとめていく、という訓練をします。ゼミで書評、あるテーマについて自分の考えをまとめたレポートを発表するとともに、仲間の発表に対しても、批判的にコメントを出すことが求められます。一年後には、自分の考えや感情を明確に表現できることを目標とします。（その結果、卒論のテーマも自分で考えられるようになるのが目標です。）	1年を通じて、俯瞰して物事を捉えられるようになること。自分についての理解を深めること。			○	○

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	-

<ディプロマ・ポリシー (DP)>

DP 1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP 2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP 3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP 4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業の概要、ねらい	到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎：特に関係する ○：関係する			
							DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
150008066	比較文化演習1 2 - II	2	3年	武田 千夏	前期に続いて、やや難解な本を読んで、自分で考えて、それを文章化していく訓練を続けます。前期とは異なるテーマを選んでいいですし、前期と同じテーマを別の視点からさらに追求するのでも構いません。自分が追求するテーマから見て意味のある文献を探し出すスキルも身につけていきます。さらに諸文献の中から、自分にとってとくに重要な核となるような文献を選別する力も身につけながら、自分のテーマを深めていきます。前期同様、ゼミで書評、自分の考えをまとめたレポートを発表するとともに、仲間の発表に対しても、批判的にコメントを出すことが求められます。後期の終わりまでには、さまざまな視点に対して、自分の個性を重んじながらも、明確でバランスの取れた意見を表明できるようになってもらいたいです。	物事を俯瞰して捉えることができる。自分についてより深く知る。			○	◎
150008067	比較文化演習1 3 - I	2	3年	高田 馨里	本演習授業では文献調査・研究史の整理・論文執筆という歴史学研究の基礎力を向上させることを目的としている。本演習Iでは、アメリカ合衆国の歴史、文化、政治、経済、社会問題に関して(1)共通の文献を講読しながら研究史を概観する。(2)受講生自らのトピックに関する先行研究文献・論文の調査を行う。(3)(1)(2)の作業に基づき、収集した文献・論文リストを作成し、内容に関して報告を行う。これらの歴史学研究の基本となる作業を身につけ、後期の演習IIに向け、準備を進める。	前半に、共通文献購読を通じて知識を身につけ、後半に、自分自身の研究テーマに取り組む。			○	◎
150008068	比較文化演習1 3 - II	2	3年	高田 馨里	演習IIでは、4年次卒業論文執筆に備えた、先行研究の整理と研究動向論文(卒業論文序章部分)を準備することを目的としています。前半では、前期に調査した文献リストとブックレポート、夏休みに読み込んだ文献・論文を整理し、卒業論文執筆に備えます。後半では、受講生の卒業論文テーマにそった資料調査を行い、実際に論文執筆を開始します。	研究テーマを確定する作業に入り、先行研究をまとめ、卒論執筆準備に入る。			○	◎
150008069	比較文化演習1 4 - I	2	3年	上野 未央	現代ヨーロッパ文化の源流としての中世以降のヨーロッパ文化史を学びます。テキストの読解、授業での発表を通して、ヨーロッパの文化と歴史についての基礎的な知識を身につけ、参加者それぞれが、これから研究対象として掘り下げていくテーマを見つけることを目指します。テキストとして使う『15のテーマで学ぶ中世ヨーロッパ史』には、近年歴史学の分野で注目されてきている生活文化を扱った論考が多く収められています。ファッション、食生活、音楽など、現代の日本に生きる私たちにも身近なキーワードを通して、中世のヨーロッパはどのような世界だったのかを学びます。中世から近代への歴史的変遷の中で個別のテーマをとらえること、異なる地域・時代と比較する視点を持つことを重視します。下に示すスケジュールは、あくまで予定であり、受講生の関心に応じて変更する可能性があります。また、スケジュールを調整し、校外学習を行う可能性もあります。	卒論のテーマとして掘り下げていくものを見つけることを目標とします。また、レポート作成を通して、文章を要約する力を身につけます。			○	◎
150008070	比較文化演習1 4 - II	2	3年	上野 未央	論文講義を行います。受講生の関心のあるテーマ(卒論で取り上げるテーマ)に沿った論文を数編選び、論文1本につき1~2名の報告者をおいてディスカッションを行います。研究論文を読み、論文の論点をつかみ、分からないところを調べてきて報告します。それによって、論文とはどのようなものか、史料はどのように使うのか、注はどのように付けるのか、といったことを学びます。	ゼミでは、卒論のテーマを決め、先行研究の検討を開始します。このゼミを通して、先行研究の論点をまとめる力を身につけます。			○	◎
150008071	比較文化演習1 5 - I	2	3年	米塚 真治	Christopher J. Armstrong, Anthony Piccolo, 板倉徹一郎『問題意識を持って読むアメリカ 15のトピック』をテキストとして使用する。テキストは、マスメディア、特に映画が、現在のアメリカ社会をどのように反映し、形成し、批判しているのかを、さまざまな角度から解説している。授業はおおよそ次のように進む。・テキストの当該トピックから連想する言葉や、知っていることを、全員が一つずつ挙げる。こうして、日・米あるいは自身の留学先におけるそれぞれの現状認識を交換する。・テキストの当該の章を、TOEFL形式の設問に解答しながら、パラグラフごとを読み進める。教員が参考資料を用いて適宜補足説明する。・発表者は当該トピックに関連する映画を探し(またはテキスト本文で採り上げられている映画を扱い)、配付資料を作成の上、いくつかのシーケンスを引用(映写)しながら40分程度のプレゼンを行う。・他の出席者は、プレゼンテーションからどのような問題意識を得たかを述べ、さらに議論を深める。以上によって、当該トピックに関するそれぞれの現状認識を相対化し、再確認し、更新することを図る。また、卒論執筆のための準備を行う。指導はおおむね以下の教科書に沿って行う。沼崎一郎『はじめての研究レポート作成術』岩波ジュニア新書。自他の文化比較を通じて問題解決をはかる能力や、社会集団において主導的役割を果たす能力の涵養をめざす。	1.卒論執筆に必須の能力である、研究対象および関連文献のクリティカル・リーディング、要約、引用、コメント力を身につけることができる。2.現代を歴史から、また日本を世界から見る視点を獲得することができる。			○	◎
150008072	比較文化演習1 5 - II	2	3年	米塚 真治	Christopher J. Armstrong, Anthony Piccolo, 板倉徹一郎『問題意識を持って読むアメリカ 15のトピック』をテキストとして使用する。テキストは、マスメディア、特に映画が、現在のアメリカ社会をどのように反映し、形成し、批判しているのかを、さまざまな角度から解説している。授業はおおよそ次のように進む。・テキストの当該トピックから連想する言葉や、知っていることを、全員が一つずつ挙げる。こうして、日・米あるいは自身の留学先におけるそれぞれの現状認識を交換する。・テキストの当該の章を、TOEFL形式の設問に解答しながら、パラグラフごとを読み進める。教員が参考資料を用いて適宜補足説明する。・発表者は当該トピックに関連する映画を探し(またはテキスト本文で採り上げられている映画を扱い)、配付資料を作成の上、いくつかのシーケンスを引用(映写)しながら40分程度のプレゼンを行う。・他の出席者は、プレゼンテーションからどのような問題意識を得たかを述べ、さらに議論を深める。以上によって、当該トピックに関するそれぞれの現状認識を相対化し、再確認し、更新することを図る。また、卒論執筆のための準備を行う。指導はおおむね以下の教科書に沿って行う。沼崎一郎『はじめての研究レポート作成術』岩波ジュニア新書。自他の文化比較を通じて問題解決をはかる能力や、社会集団において主導的役割を果たす能力の涵養をめざす。	1.卒論執筆に必須の能力である、研究対象および関連文献のクリティカル・リーディング、要約、引用、コメント力を身につけることができる。2.現代を歴史から、また日本を世界から見る視点を獲得することができる。			○	◎
150008075	比較文化演習1 7 - I	2	3年	貴井 一美	西洋美術、スペイン文化についての基本的知識を身につけることを目的とする。主にスペインの歴史・地理、文学、美術の視点からそれらを通史的に学ぶことで、スペイン文化を概観し、3年以降の各人の具体的なテーマ選択の幅を広げていく。テキストのテーマに即してそれぞれに担当者を決めて発表形式で進めていく。	次年度の卒論のための基礎知識をつけることを目標とする。			○	◎
150008076	比較文化演習1 7 - II	2	3年	貴井 一美	スペイン文化についての基本的知識を身につけることを目的とする。主にスペインの歴史・地理、文学、美術の視点からそれらを通史的に学ぶことで、スペイン文化を概観し、3年以降の各人の具体的なテーマ選択の幅を広げていく。前期と同様に担当を決めて発表という形で進めていく。	卒論のテーマを絞り込むための基礎知識を身につける			○	◎
150008077	比較文化演習1 8 - I	2	3年	JOHNSON, G.S.	テーマ:「近代女性の生涯を書く」女性の自伝と伝記文学目的はいくつかあります。一つは女性伝記文学という分野を通して、近代日本の歴史の中の女性に対する理解を深める事です。もう一つはその女性史の理解を世界に伝える事です。三つ目は文書を翻訳する能力を身に付けることです。	翻訳能力、分析する能力、と研究する能力を養う事。			○	◎
150008078	比較文化演習1 8 - II	2	3年	JOHNSON, G.S.	テーマ:「近代女性の生涯を書く」女性の自伝と伝記文学目的はいくつかあります。一つは女性伝記文学という分野を通して、近代日本の歴史の中の女性に対する理解を深める事です。もう一つはその女性史の理解を世界に伝える事です。三つ目は文書を翻訳する能力を身に付けることです。	翻訳能力、分析する能力、と研究する能力を養う事。			○	◎

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	-

<ディプロマ・ポリシー（DP）>

DP 1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP 2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP 3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP 4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業の概要、ねらい	到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎：特に関係する ○：関係する			
							DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
150008079	比較文化演習 1 9 - I	2	3年	上垣外 憲一	このクラスはゼミですので、学生との自由な対話を基本とします。その点ではシラバスに書くことはありませんが、四年次に卒業論文を書くことを目標として、かなりレベルの高い論文を作成することを指導します。まず春学期には、自身の考えをまとめるためにプレゼンテーションを、全員の前で発表して、それからレポートにまとめる、という段階を踏みます。原稿を見ないで、自分の考えを発表するプレゼンテーションは、就職試験の面接のためにも役立ちますから、それ自体も大切です。また論文の成否を決めるのは、最初のテーマ設定がとて大切で、自由な会話から、次第に自分の興味を絞り込んでいくということを始めに行わないと、いくら論文作成の形式を学んでも、実際の執筆の段階で熱意が湧かず、失敗の原因になります。したがって、この授業の最初の部分では学生との自由な会話を重視します。	卒論を自力で完全に書けるようにする。			○	◎
150008080	比較文化演習 1 9 - II	2	3年	上垣外 憲一	この授業では、四年次の卒業論文作成の準備段階として、4000字程度の小論文を作成することを目標とします。ゼミの本来の目的は学生との自由な対話にありますし、この授業もそうですが、四年次に近づいた分、論文をしっかりと書けるようになるという学習目標が少し重くなります。また、自分自身が一番興味を持っていることを書くということが大切です。自分が大学での学習に何を求めているのか、いつも意識して想像力を高めてください。	卒論の一章分（4000字）のレポートが、参考文献集めを含めてスムーズにできること。			○	◎
150008083	比較文化演習 2 1 - I	2	3年	久保 忠行	本演習では、卒業論文の執筆にむけて文献を精読し、各自の問題意識を深め最終的に自身の「問い」として抽出することを目的とする。キーワードは、多文化共生、開発援助と国際協力、移民・難民問題など、現代的なイシューをテーマとする文献を精読する。精読とあわせて各自の問題意識を深め、各自のテーマに沿った先行研究を収集にとりかかる。	1) 文献に書かれている内容を筆者の意図に沿って理解し、レジュメにまとめることができる。2) 筆者の意見に対する自分の意見を述べるができる。3) ディスカッションの場で建設的な意見を述べるができる。			○	◎
150008084	比較文化演習 2 1 - II	2	3年	久保 忠行	本演習では、卒業論文の執筆にむけて文献精読、文献調査をもとにして「研究ノート」を執筆することが目的である。	卒業論文執筆の準備として、1) 問いを立てる 2) 先行研究を収集する 3) 先行研究を批判的に検討する 4) 自分の考えを立論する 5) 研究ノートを書くことができるようになる。			○	◎
150008085	比較文化演習 2 2 - I	2	3年	安藤 恭子	この演習では、世界の文学・文化と関係の深い日本文学・文化からテーマを設定し、それらの関係性を明らかにすることで、それぞれの文化の特質を探ることを目標とします。前期は、発表の方法（調査、作品分析、レジュメ制作、プレゼンテーション）について講義し、4年生での卒業論文制作に向けて研究の基礎力を養います。その後、発表の準備をすすめるために、個人面談をおこないます。なお、取り上げるテーマは、面談をおこなったうえで最終決定します。受講するにあたって、取り上げたいテーマがあれば、積極的に希望を述べてください。	講義で確認したテーマ設定の方法、研究の進め方などを理解し、その理解を実践で生かしていくことが目標です。発表では、他者の意見を聞くことで自分自身に客観的になることを学び、また、他者に質問・意見を述べることで互いに高め合うことを学びます。			○	◎
150008086	比較文化演習 2 2 - II	2	3年	安藤 恭子	この演習では、世界の文学・文化と関係の深い日本文学・文化からテーマを設定し、それらの関係性を明らかにすることで、それぞれの文化の特質を探ることを目標とします。前期の演習を踏まえ、後期の演習では研究の成果の発表、参加者全員で質疑応答をおこないます。最後に、発表・質疑応答を踏まえ、論文制作を実践的に指導します。その際、論文の構成力・日本語の表現力の向上も目指し、文章の添削指導もおこないます。	研究発表の際、発表者は聞く側の立場に配慮することを忘れず、情報を整理し、主張を明確に示すことを学びます。聞く側は、発表のポイントを押さえ、発表者の利益になる建設的な質問をすることを学びます。最後に、発表、質疑応答を踏まえ、論文の一部の作成をおこないます。4年生での卒業論文の基盤を作ることが目標です。なお、文の構成力・表現力の向上も目指します。			○	◎
150008087	比較文化演習 2 3 - I	2	3年	城殿 智行	この演習は、映画・映像がもつ強い魅力について考え、比較映画論の基礎を学び、映像文化の幅広い歴史を知ることが、目標です。ヨーロッパ各国を代表する映画をとりあげ、それらを相互に、また日本やアジア・アメリカの映画と比較することで、映像に表象された各国文化の差異について、基礎的な理解を育みます。その過程で、単に各国の文化が異なっているだけではなく、各文化圏の表象・思考様式そのものが異なる様子を、映像メディアを通じて学ぶことにもなります。	履修後は、映画・映像研究に必要な基礎教養を身につけ、多文化に対する幅広い視野を養い、4年次における卒業論文の執筆に役立てることができるでしょう。			○	◎
150008088	比較文化演習 2 3 - II	2	3年	城殿 智行	この演習は、映画・映像がもつ強い魅力について考え、比較映画論の基礎を学び、映像文化の幅広い歴史を知ることが、目標です。ヨーロッパ各国を代表する映画をとりあげ、それらを相互に、また日本やアジア・アメリカの映画と比較することで、映像に表象された各国文化の差異について、基礎的な理解を育みます。その過程で、単に各国の文化が異なっているだけではなく、各文化圏の表象・思考様式そのものが異なる様子を、映像メディアを通じて学ぶことにもなります。	履修後は、映画・映像研究に必要な基礎教養を身につけ、多文化に対する幅広い視野を養い、4年次における卒業論文の執筆に役立てることができるでしょう。			○	◎
150008093	比較文化セミナー I	2	4年	赤松 美和子	本授業は、台湾の文学、文化、歴史、或いは20世紀以降の中国語圏における文学や文化に関するテーマについて卒業論文を書きたい方が、発表、討論、および個別指導を繰り返しながら、卒業論文を作成するためのセミナーです。	卒業論文のテーマを決め、数度の発表を繰り返し、8月31日までに10000字書くことを目標にしています。			○	◎
150008093	比較文化セミナー I	2	4年	安藤 恭子	このセミナーでは、卒業論文の制作をおとして、日本の文学・文化とその他の地域の文学・文化との関係について考察し、歴史的な交流・交渉の場として世界をとらえ直すことができるように指導します。参加者の問題のとらえ方がより広く、深くなるよう発表・議論をおこなう場としてのセミナーを展開します。3年生の演習で学び、実践したことを生かして、積極的な姿勢で取り組んで下さい。	自分の身近な現象に疑問・問題を発見し、広く世界的な視点でそれらについて考察することが目標です。それによって、自分自身と歴史・社会とのつながりを見出すことができるようになり、卒業論文に取り組んだ経験が卒業後の生き方の指針となり得ます。論文を書く意義、情報収集とその活用、論理的な考察、執筆に際しての論文構成・日本語の文章力など、卒業論文は社会に出てから必要なことを総合的に学ぶことができる課題であると理解して下さい。			○	◎
150008093	比較文化セミナー I	2	4年	安藤 聡	1. C・S・ルイスの『ナルニア国物語』第四巻『銀の椅子』を原文で読む。2. 英文学、英国文化に関して各自が興味のあるテーマを選んで発表する。	児童文学作品を鑑賞、批評する方法を身につけること、児童文学を通して英国文化に対する理解を深めること、研究発表や論文執筆の方法を習得することなどを目標にする。			○	◎
150008093	比較文化セミナー I	2	4年	石川 照子	卒論作成のための学習・作業と指導を行います。具体的には卒業論文作成の基礎的知識や技術の習得、卒論の中間報告を中心として、半年間の授業を進めてゆきます。特に「世界各国・地域のジェンダー問題」、「中国近現代史（歴史的事件や人物等）」、「現代中国及びその他のアジア諸国の政治・外交・国際関係・社会問題」に関するテーマを卒論で取り上げる学生の参加を歓迎しますが、その他のテーマについても排除はしません。	卒業論文作成の基礎的知識や技術の習得を目標にしています。			○	◎

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	-

<ディプロマ・ポリシー (DP)>

DP 1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP 2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP 3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP 4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業の概要、ねらい	到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎：特に関係する ○：関係する			
							DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
150008093	比較文化セミナー I	2	4年	井上 淳	12月初旬に提出することになる卒業論文の準備報告を通じて、よりよい卒業論文を作成するためにはどうすればよいのかをゼミのメンバーとともに検討、実践する。「卒業論文はレポートではない」とよく言われるが、どのような要件を満たせば卒業論文らしくなるのだろうか。手がかりのひとつは、卒業論文が指導教官に加えてもうひとりの審査員(副査)に読まれ、評価されるという事実にある。つまり、初めて卒論を読む副査(読者)に対して、一読で事実関係をはじめとする内容と自身の主張を理解させることができるかどうか、非常に重要になる。また、その力量は「卒業論文」に限らず、社会に出てからも不可欠である。この授業では、「卒業論文」の形式的な要件、一読で相手に理解してもらえる構成や表現について、自身の卒論報告、他者の報告の聴講をとおして考えてもらうことを目指している。前期末でテーマ、使う文献、どのような議論をどのような流れで展開するのかといった大枠を定める。(必要と希望に応じて夏休みに合宿を実施、そこでテーマ、論題、構成を確定させる)	この授業を通じて、卒業論文構想報告を通じて自他の卒業論文準備状況を把握すると同時に、「よい卒業論文を書くためには何が備わっている必要があるか」を自ら考えてもらう。そのうえで、自身で考えた「よい卒業論文の要件」に向かって自身がすべき作業をリストアップし、完成に近づけてもらう。より具体的には、卒業論文で「何を議論の対象にするのか」「その対象をどのような角度から分析するのか」「既存研究はどのような角度から分析して、なぜ自身は自身の角度を採用するのか」「自身の角度から分析した際、どのようなことがいえるのか」を明らかにするべく、文献購読を通じた卒業構想報告をおこなう。上記が早い段階で固まるようであれば、「何をどのような順序で書くか」つまり構成を考えてもらう。構想報告を通じて、いわゆるテーマと論題、構成(目次)を決めることを目指す。			○	○
150008093	比較文化セミナー I	2	4年	上野 未央	自分の関心のあるテーマについて研究をすすめ、卒業論文を書きます。「イギリス中世史」、「西欧中世史」あるいは「イギリス史」に関心のある人の受講を歓迎します。ゼミでは、論文作成にあたっての具体的な指導を行います。卒業論文の進捗状況を報告し、ディスカッションを行います。参加者どうしの活発な意見交換を通して、「人に伝わる」「おもしろい」論文を書くことを目指します。	参考文献を読み進めながら、卒論構成を完成させる。卒論執筆を開始し、卒論2章分を書き終えることを前期の目標とします。			○	○
150008093	比較文化セミナー I	2	4年	上垣外 憲一	卒論の準備と執筆開始就職指導は個別に適宜行います。	卒論の一章の長さを構成的に作成できるようにする。			○	○
150008093	比較文化セミナー I	2	4年	城殿 智行	3年次の「比較文化演習」で学んだ知識を基礎として、映画・映像に関する卒論を書く方に向けた、セミナーです。このセミナーは、様々な映画・映像文化に開かれた柔軟な感性を養いながら、同時に論理的な思考力を育み、その成果として、知的な感受性に満ちた卒業論文を完成させることを、目標とします。	履修後は、多文化共生社会の実現に寄与しうる人物にふさわしく、文化の垣根を越えた幅広い教養と思考力を身につけ、卒業後の社会的な活躍に役立てることができると期待しています。			○	○
150008093	比較文化セミナー I	2	4年	行田 勇	・3ラウンド・システム学習理論に従って、洋画を素材とした英語のリスニング教材を作成し、その効果を検証する。・問題発見能力や解決能力をさらに高めて、自らの頭脳を駆使した卒業論文を仕上げる。・「謎解きの言語学シリーズ」の総仕上げに当たる講座である。言語科学入門(2年)→比較文化演習5(3年ゼミ)→本講座(4年)	3ラウンド・システム学習理論に従って、洋画を素材とした英語のリスニング教材を作成し、自らの頭脳を駆使した卒業論文を仕上げる。			○	○
150008093	比較文化セミナー I	2	4年	久保 忠行	卒業論文の執筆にむけて、各自の問題意識にあわせて研究をすすめる。他の受講者との意見交換をとおして、自分なりの視点・切り口にもとづく卒業論文を執筆する。	夏休み明けには、1万字の草稿を仕上げる見直しをもつことができる。			○	○
150008093	比較文化セミナー I	2	4年	佐藤 円	このセミナーでは、3年次演習において学んだ「人種」と「民族」に関わる問題の知識に基づきながら、参加者の卒業論文完成を第一の目標として、それに必要な準備作業を担当教員の指導の下に段階的に進めていく。ただし、学期の初めには、共通テキストを使用して報告と討論を行い、卒業論文執筆に必要な学術的な議論を行う能力を鍛える機会を設けたい。	このセミナーでは、各自が選んテーマに沿った報告を行ったり、資料を探索したり、論文執筆に必要な各種の技能を学ぶことを通じて、夏休みまでに卒業論文の執筆が開始できる状態にまで準備を進めることを目標としている。			○	○
150008093	比較文化セミナー I	2	4年	佐藤 実	このセミナーでは卒業論文の作成をサポートします。卒業論文は、ある事柄について調べました、写しました、コピーしました。おわり。ではありません。卒業論文は、その調べた知識から何が言えるのか、その知識にたいしてどう考えるのか、という自分の意見や考えを自分なりに説明して書きしるすものなのです。それがなければ卒業論文の意味はまったくありません。だってあなたが書いてくれた知識はそっくりそのまま、あなたがあげてくれた参考文献を読めばあなたの卒業論文以上にわかりやすく書いてあるのですから。したがってある事柄を調べていくなかで、何が問題になるのか?ということ意識的に探していかなければいけません。これが意外とむずかしい。そのためにゼミ生全員の知恵を最大限に駆使して卒業論文を作成したいとおもいます。	卒業論文の完成。			○	○
150008093	比較文化セミナー I	2	4年	銭 国紅	本セミナーでは、中国と日本を巡ってどんな研究が可能なかを模索する。東アジア諸国の間では、古代では中国文明の影響を共有しているが、近代になってから、同じ西洋文明を取り入れたにもかかわらず、政治、経済から社会構造、文化意識、宗教、価値観に至るまで、さまざまな違いを見ている。しかし東アジア諸国の間はともかくとして、中国と日本との間でも、お互いに真剣に相手を見つめ、等身大に相手の文化を把握する作業はまだまだ足りない。そういう意味において東アジア圏内の比較文化研究、特に中国と日本についての比較研究は、早急に取り組まなければならない重要な緊急の課題になっていると言える。前期では両国の社会、歴史、文化、思想或いは芸術、宗教について、初歩的なテーマの設定、資料や参考文献の収集、論文の執筆、発表の仕方を学び、卒業論文製作の基本を身につけることをめざす。具体的には参加者全員に興味や関心のあるテーマを提出してもらい、それらのテーマを説明して参加者との質疑や議論を交える。一つのテーマを決めてから、資料や参考書を集める段階に入る。準備が整ったら、テーマについて一度発表し、そのための議論の時間を設ける。	この授業では、論文製作の初歩を学び、論文作法や文化研究理論の基本を考察することにより、自らの思いや問題意識を小論文に仕上げるための基礎知識を獲得することができるようになることを目標としています。			○	○
150008093	比較文化セミナー I	2	4年	高田 馨里	比較文化セミナーIでは、主に卒業論文執筆のための技術的指導をゼミ形式で行う。また中間報告では、卒論の進み具合について確認し、必要な文献等の調査を行う。執筆のためのライティングの時期には、それぞれが執筆したアカデミック・ライティング	卒業論文執筆に向けて準備する。夏休み明けまでに10000文字のレポートを作成する。			○	○
150008093	比較文化セミナー I	2	4年	武田 千夏	この授業の主目的は卒業論文の指導です。1つテーマを選んで、1年追求していきます。あるテーマについて、資料を集め、そのテーマの諸局面のメリット、デメリットについて計量しながら、自分の判断に必要な情報を抽出し、それらをより抽象度の高い考えに昇華させ、ロジカルな形に整理し直し、自分の立てた仮説に対して合理的な結論を導く、という一連の、論文を書くためのプロセスを重視します。ペーパーテストのように答えが決まっていなため、考えるプロセスは苦しみを伴う作業ではありますが、知識などを忘れてしまっても、長く記憶に残っていく貴重な体験となります。例えば、職場、プライベートで、岐路に立たされたときに何を選擇するか、などの状況における判断力を養うトレーニングとなりえます。本ゼミでは考えるプロセスを重視する一方、テーマについては比較的自由に選択できます。様々なトピックについて、各自が学習した内容を決められた形式に基づいて発表し、学生たちはお互いに活発に意見を言い合います。そのような時間を通じて、まったく関係ないように思われるトピック同士が実際にはつながっている、ということも理解していきます。例外一原則として、文学、美術関係の論文テーマは受け付けません。また履修の条件として、論文執筆に関するスケジュールを必ず守ってもらうことを約束してもらいます。授業に出席しない人、スケジュールを守れない人は履修しないで下さい。manabaによる連絡、メール指導を行いますのでパソコン状況を整えてください。(学校のパソコンで可)	1年を通じて、比較文化学部が規定した卒業論文の条件に適合する論文を仕上げていく。それに加えて自分の人間的成長にも貢献するような学習体験を目指す。			○	○
150008093	比較文化セミナー I	2	4年	貴井 一美	卒業論文執筆に向けて各人のテーマを発表し、それについてディベートをする。自らのテーマを、発表しそれについて他者の意見や質問を聞く事で、より客観的な視点に立って論文作成につなげる事を目的とする。さらには文献資料の検索や、執筆に関しての具体的な方法を学んでいく。	卒論を執筆するための準備を行う。			○	○

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	-

<ディプロマ・ポリシー（DP）>

DP 1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP 2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP 3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP 4	特に比較文化の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業の概要、ねらい	到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎：特に関係する ○：関係する			
							DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
150008093	比較文化セミナー I	2	4年	原 研二	この授業では、各自のテーマの洗い直すことにより、いろいろな比較文化テーマを提示できるようになることを目標にしています。	卒論の執筆計画を作成する			○	◎
150008093	比較文化セミナー I	2	4年	米塚 真治	Christopher J. Armstrong, Anthony Piccolo, 板倉徹一郎『問題意識を持って読むアメリカ 15のトピック』をテキストとして使用する。テキストは、マスメディア、特に映画が、現在のアメリカ社会をどのように反映し、形成し、批判しているのかを、さまざまな角度から解説している。授業はおおよそ次のように進む。・テキストの当該トピックから連想する言葉や、知っていることを、全員が一つずつ挙げる。こうして、日・米あるいは自身の留学先におけるそれぞれの現状認識を交換する。・テキストの当該の章を、TOEFL形式の設問に解答しながら、パラグラフごと読み進める。教員が参考資料を用いて適宜補足説明する。（4年においては上記二段階をmanabaへの提出や掲載をもって代え、代わりに関連映画のプレゼン回を増やすこともある）・発表者は当該トピックに関連する映画を探し（またはテキスト本文で採り上げられている映画を扱い）、配付資料を作成の上、いくつかのシークエンスを引用（映写）しながら40分程度のプレゼンを行う。・他の出席者は、プレゼンテーションからどのような問題意識を得たかを述べ、さらに議論を深める。以上によって、当該トピックに関するそれぞれの現状認識を相対化し、再確認し、更新することを図る。上記に加え、卒論作成に向けた個人指導・グループ指導などを行う。指導はおおむね以下の教科書に沿って行う。沼崎一郎『はじめての研究レポート作成術』岩波ジュニア新書。自他の文化比較を通じて問題解決をはかる能力や、社会集団において主導的役割を果たす能力の涵養をめざす。	1.卒論執筆に必須の能力である、研究対象および関連文献のクリティカル・リーディング、要約、引用、コメント力を身につけることができる。2.現代を歴史から、また日本を世界から見る視点を得ることができる。			○	◎
150008093	比較文化セミナー I	2	4年	渡邊 顕彦	3年演習に引き続き、古代ギリシア・ローマの実像やその伝統(受容)について調査発表を行う。卒業論文の書き方についても指導する。	この授業では、古代ギリシア・ローマの歴史と文化についてその基礎的な情報から今日的な意義まで学び、先端的な研究にも触れて考察することにより、研究というものの社会的な意義を理解することを目指し、研究することと論文を作成することを学習する。			○	◎
150008093	比較文化セミナー I	2	4年	JOHNSON, G.S.	テーマ：子供と教育、遊び、親、家族、ジェンダーなどの視点から児童の過去と現在を考察する。研究方法と論文の書き方を学習する為の科目である。その他のテーマの卒論を考えている学生は履修する前に担当教員と相談して下さい。方法：卒業論文作成に向けての学習と指導を行う。それぞれの学生が関心を持っている事から研究テーマを作り直すこと、情報収集の仕方や分析方法、議論の組み立て方などを指導する。また参考文献と脚注の使い方、盗作と引用の違いなどを学習する。卒論には学生が研究者の意見を引用することだけでなく、学生自身が研究者であるので、一次資料も利用が必要である。この科目を履修する学生は外国語の資料も卒論に利用するよう努力することを前提とする。				○	◎
150008094	比較文化セミナー II	2	4年	赤松 美和子	本授業は、台湾の文学、文化、歴史、或いは20世紀以降の中国語圏における文学や文化に関係するテーマについて卒業論文を書きたい方が、発表、討論、および個別指導を繰り返しながら、卒業論文を作成するためのセミナーです。	卒業論文を執筆することを目標にしています。			○	◎
150008094	比較文化セミナー II	2	4年	安藤 恭子	「比較文化セミナーI」に引き続き、このセミナーでは、日本の文学・文化とその他の地域の文学・文化との関係について考察し、歴史的な交流・交渉の場として世界をとらえ直すことを目標とします。積み重ねてきた調査・考察を論文というかたちにするために、情報の整理、論理的な構成など、個別の論文添削を中心に指導します。4年間の集大成として、知識・論理・日本語表現の力を総合的に高めます。	自分の身近な現象に疑問・問題について、比較文化・文学の研究手法を用いて考察し、世界的な広い視野を獲得することを目標とします。卒業論文を完成することによって、卒業後の社会の中で必要な知識・論理・日本語の表現力のすべてを学び、自らを高めていくことが重要です。			○	◎
150008094	比較文化セミナー II	2	4年	安藤 聡	比較文化セミナーIの続き	前期に同じ			○	◎
150008094	比較文化セミナー II	2	4年	石川 照子	前期に引き続き、卒論作成のための学習・作業と指導を行います。具体的には卒業論文作成の基礎的知識や技術の習得、卒論の中間報告を中心として、半年間の授業を進めてゆきます。特に「世界各国・地域のジェンダー問題」、「中国近現代史（歴史的事件や人物等）」、「現代中国及びその他のアジア諸国の政治・外交・国際関係・社会問題」に関するテーマを卒論で取り上げる学生の参加を歓迎しますが、その他のテーマについても排除はしません。	卒業論文作成の基礎的知識や技術の習得をもとに、実際に卒論執筆を進めていく力の習得を目標にしています。			○	◎
150008094	比較文化セミナー II	2	4年	井上 淳	12月初旬に提出することになる卒業論文の準備報告を通じて、よりよい卒業論文を作成するためにはどうすればよいのかをゼミのメンバーとともに検討、実践する。「卒業論文はレポートではない」とよく言われるが、どのような要件を満たせば卒業論文らしくなるのだろうか。手がかりのひとつは、卒業論文が指導教官に加えてもうひとりの審査員（副査）に読まれ、評価されるという事実にある。つまり、初めて卒論を読む副査（読者）に対して、一読で事実関係をはじめとする内容と自身の主張を理解させることができるかどうか、非常に重要になる。また、その力量は「卒業論文」に限らず、社会に出てからも不可欠である。この授業では、11月初旬に予定されている「論題提出」の前までにタイトルと構成、そしてストーリーを確定すること、そして12月初旬予定の「卒論提出日」までに論文を書き上げるだけでなく「卒業論文」で求められている形式的な要件を満たすと同時に一読で相手に理解してもらえる構成や表現を練ることを目指している。	前期あるいは夏合宿を通じておおまかなテーマ、論題、構成（流れ）、あらすじを決めた後、実際にそれぞれのパートを書いてみる、報告して聞き手の反応を確認する、パートを書き直してみる、全体が完成に近づいたらやはり報告して聞き手や読み手の反応を確認する、全体を書き直してみる、という作業を12月までに数度繰り返す。上記作業を通じて自他の執筆状況を確認してベースメイキングするとともに、「自分が主張したいこと、話の流れの意図が読み手に一読で伝わるだろうか」ということを常に意識してもらい、よりよい卒論の完成をめざす。			○	◎
150008094	比較文化セミナー II	2	4年	上野 未央	卒業論文の進捗状況を報告し、ディスカッションを行います。ゼミでの議論を経て、卒業論文をまとめます。	先行研究をおさえたうえで、オリジナリティのある論文を書くことがこの授業の到達目標です。			○	◎
150008094	比較文化セミナー II	2	4年	上垣外 憲一	卒論を完成することにつきます	卒論です。			○	◎
150008094	比較文化セミナー II	2	4年	城殿 智行	3年次の「比較文化演習」で学んだ知識を基礎として、映画・映像に関する卒論を書く方にむけた、セミナーです。このセミナーは、様々な映画・映像文化に開かれた柔軟な感性を養いながら、同時に論理的な思考力を育み、その成果として、知的な感受性に満ちた卒業論文を完成させることを、目標とします。	履修後は、多文化共生社会の実現に寄与しうる人物にふさわしく、文化の垣根を越えた幅広い教養と思考力を身につけ、卒業後の社会的な活躍に役立てることができるよう。			○	◎
150008094	比較文化セミナー II	2	4年	行田 勇	・3ラウンド・システム学習理論に従って、洋画を素材とした英語のリスニング教材を作成し、その効果を検証する。・問題発見能力や解決能力をさらに高めて、自らの頭脳を駆使した卒業論文を仕上げる。・「謎解きの言語学シリーズ」の総仕上げに当たる講座である。言語科学入門（2年）→比較文化演習5（3年ゼミ）→本講座（4年）	3ラウンド・システム学習理論に従って、洋画を素材とした英語のリスニング教材を作成し、自らの頭脳を駆使した卒業論文を仕上げる。			○	◎
150008094	比較文化セミナー II	2	4年	久保 忠行	前期で仕上げた1万字のレポートをもとに、卒業論文を完成させる。	11月中旬までに初稿を提出し、指摘箇所を修正のうえ12月に最終原稿として提出する。自身が立てた「問い」への回答をみつける。			○	◎
150008094	比較文化セミナー II	2	4年	佐藤 円	このセミナーでは、3年次演習において学んだ「人種」と「民族」に関わる問題の知識に基づきながら、参加者の卒業論文完成を第一の目標として、それに必要な準備作業を担当教員の指導の下に段階的に進めていく。	このセミナーでは、卒業論文の完成を目標としている。			○	◎
150008094	比較文化セミナー II	2	4年	佐藤 実	このセミナーでは卒業論文の作成をサポートします。卒業論文は、ある事柄について調べました、写しました、コピーしました。おわり。ではありません。卒業論文は、その調べた知識から何が言えるのか、その知識にたいしてどう考えるのか、という自分の意見や考えを自分なりに説明して書きしるすものなのです。それがなければ卒業論文の意味はまったくありません。だってあなたが書いてくれた知識はそっくりそのまま、あなたがあげてくれた参考文献を読めばあなたの卒業論文以上にわかりやすく書いてあるのですから。したがってある事柄を調べていくなかで、何が問題になるのか？ということ意識的に探していかなければいけません。これが意外とむずかしい。そのためにゼミ生全員の智恵を最大限に駆使して卒業論文を作成したいとおもいます。	卒業論文の完成			○	◎

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	-

<ディプロマ・ポリシー（DP）>

DP 1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP 2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP 3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP 4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業の概要、ねらい	到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎：特に関係する ○：関係する			
							DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
150008094	比較文化セミナーⅡ	2	4年	銭 国紅	本セミナーは、特に日本と中国の社会、文化、歴史に関する個別研究、比較研究を歓迎する。東アジア諸国の間では、古代では中国文明の影響を共有しているが、近代になってから、同じ西洋文明を取り入れたにもかかわらず、政治、経済から社会構造、文化意識、宗教、価値観に至るまで、さまざまな違いを見せている。しかし東アジア諸国の間はともかくとして、中国と日本との間でも、お互いに真剣に相手を見つめ、等身大に相手の文化を把握する作業はまだまだ足りない。そういう意味において東アジア圏内の比較文化研究、特に中国と日本についての比較研究は、早急に取り組みなければならぬ重要な課題になっていると言える。後期ではセミナーでの発表の結果を参考にしながら、最終的にそれを仮論文として仕上げていく。9月より仮論文のための中間発表を行う。	この授業では、論文作成の方法とプロセスを学び、小論文制作の実際を経験することにより、自らの思いや問題意識を卒業論文に仕上げるための実戦力を獲得することができるようになることを目標としています。			○	◎
150008094	比較文化セミナーⅡ	2	4年	高田 馨里	アカデミック・ライティングをしっかりと身に付け、適切な脚注を付した卒論完成にむけて、執筆を進める。また著作権を尊重し、自分自身の言葉で議論を展開する技術を身に付ける。前半では、ゼミ形式で、卒論の執筆を進め、後半では、個別指導によって卒業論文の完成を目指す。途中、中間報告で、ゼミ生同士の進捗状況確認し、互いにアドバイスしあい、ともによりよい卒業論文の完成を目指す。	卒論完成を目指して、執筆技術を身に付け、卒論を読みあう（ピアリーディング）を重視する。			○	◎
150008094	比較文化セミナーⅡ	2	4年	武田 千夏	卒業論文の指導がこの授業の主目的です。1つテーマを選んで、1年追求していきます。卒論を書くための方法、形式を重視します。「論文全体の概念的構成」を考えます。（convergent, linked and serial arguments）— それに加えて、あるテーマについて、資料を集め、そのテーマの諸局面のメリット、デメリットについて計量しながら、自分の判断に必要な情報を抽出し、それらをより抽象度の高い考えに昇華させ、ロジカルな形に整理し直し、合理的な結論を導く、という一連の、論文を書くためのプロセスを重視します。このプロセスは苦しみや伴うものではありませんが、知識などを忘れてしまっても、長く記憶に残っていく貴重な体験となります。例えば、岐路に立たされたときに何を優先するか、などの状況にも役に立つ、考えるスキルを身につけることができます。このように、本ゼミでは考えるプロセスを重視する一方、テーマについては比較的自由に選択できます。様々なトピックについて、各自が学習した内容を決められた形式に基づいて発表し、お互いに活発に意見を言い合います。そのような時間を通じて、まったく関係ないように思われるトピック同士が実際にはつながっている、ということも理解していきます。例外—自由なトピックを選択することができる、と書きましたが、原則として、文学、美術関係の論文テーマは受け付けません。また履修の条件として、論文執筆に関するスケジュールを必ず守ることを、約束してもらいます。★テキスト他なし★履修の希望条件授業に出席しない人、スケジュールを守れない人は履修しないで下さい。manabaによる連絡、またメール指導を行いますので、パソコン状況を整備してください。	1年を通じて、比較文化学部が規定した卒業論文の条件を満たす論文を書き上げる。加えて自分の人間成長にも貢献するような学習体験を目指す。			○	◎
150008094	比較文化セミナーⅡ	2	4年	貴井 一美	卒論の執筆に向けて、卒論の中間報告的な発表を行う。	より完成度の高い卒業論文の完成			○	◎
150008094	比較文化セミナーⅡ	2	4年	原 研二	本授業は論文の書き方とともに論を立てられるようになることを目的としています。	この授業では論の構成・テーマの勉強の仕方を学び、具体的に卒論のテーマと執筆計画を提出できるようになることを目標としています。			○	◎
150008094	比較文化セミナーⅡ	2	4年	米塚 真治	Christopher J. Armstrong, Anthony Piccolo, 板倉徹一郎『問題意識を持って読むアメリカ 15のトピック』をテキストとして使用する。テキストは、マスメディア、特に映画が、現在のアメリカ社会をどのように反映し、形成し、批判しているのかを、さまざまな角度から解説している。授業はおおよそ次のように進む。・テキストの当該トピックから連想する言葉や、知っていることを、全員が一つずつ挙げる。こうして、日・米あるいは自身の留学先におけるそれぞれの現状認識を交換する。・テキストの当該の章を、TOEFL形式の設問に解答しながら、パラグラフごとに読み進める。教員が参考資料を用いて適宜補足説明する。（4年においては上記二段階をmanabaへの提出や掲載をもって代え、代わりに関連映画のプレゼン回を増やすこともある）・発表者は当該トピックに関連する映画を探し（またはテキスト本文で採り上げられている映画を扱い）、配付資料を作成の上、いくつかのシークエンスを引用（映写）しながら40分程度のプレゼンを行う。・他の出席者は、プレゼンテーションからどのような問題意識を得たかを述べ、さらに議論を深める。以上によって、当該トピックに関するそれぞれの現状認識を相対化し、再確認し、更新することを図る。上記に加え、卒論構想発表会、卒論グループ指導・個人指導、題目発表会、卒論発表会などを行う。卒論指導はおおむね以下の教科書に沿って行う。沼崎一郎『はじめての研究レポート作成術』岩波ジュニア新書。自他の文化比較を通じて問題解決をはかる能力や、社会集団において主導的役割を果たす能力の涵養をめざす。	1.卒論執筆に必須の能力である、研究対象および関連文献のクリティカル・リーディング、要約、引用、コメントを身につけることができる。2.現代を歴史から、また日本を世界から見る視点を得ることができる。			○	◎
150008094	比較文化セミナーⅡ	2	4年	渡邊 顕彦	前期に引き続き、古代ギリシアとローマを主とする西洋古典伝統およびその需要について研究調査を行い成果を発表していく。	この授業では、古代ギリシア・ローマの歴史と文化についてその基礎的な情報から今日的意義まで学び、先端的な研究にも触れて考察することにより、研究というものの社会的な意義を理解することを目指します。			○	◎
150008094	比較文化セミナーⅡ	2	4年	JOHNSON, G.S.	方法：卒業論文作成に向けての学習と指導を行う。それぞれの学生が関心を持っている事から研究テーマに作り直すこと、情報収集の仕方や分析方法、議論の組み立て方などを指導する。また参考文献と脚注の使い方、盗作と引用の違いなどを学習する。卒論には学生が研究者の意見を引用することだけではなく、学生自身が研究者であるので、一次資料も利用が必要である。この科目を履修する学生は外国語の資料も卒論に利用するよう努力することを前提とする。合宿は可能である。	研究することと論文の作成仕方を学習する。			○	◎
150008096	現代中国語基礎セミナー A I（理解）	1	2・3・4年	石川 照子	初級の中国語以上の学習を終了した学生を対象とするクラスです。辞書を引ながら、現代中国に関するさまざまなテーマの文章を学んでいきます。読解力の養成を中心に、録音テープなどを用いた音声の反復練習も行います。	プリント教材に沿って、中国語の文法や表現を勉強してゆくと同時に、中国の政治、経済、社会、文化についての理解も深めていきます。本授業履修後には、専門的な文献資料を講読できる力を身につけることをめざします。授業は教材の講読が中心ですが、テープを用いての発音チェック等、音声面の能力を養うことも目標とします。	○	◎		
150008096	現代中国語基礎セミナー A I（理解）	1	2・3・4年	天神 裕子	この授業では、受講者の中国語のリスニング力を強化し、迅速な反応を養い、自然な日常会話につなげることがねらいです。このため毎回の授業では、各課の内容を聴いて書き取り、書いた文章のリポートとシャドウイング、文法練習問題などを通して、反応速度を高め、表現を定着させる学習を行います。	この授業では、主に中国語のリスニング力を強化し、聴いた内容に迅速に反応して会話できる能力を身につけることを目標としています。このため毎回の授業では、各課の内容を聴いて書き取り、書いた文章のリポートとシャドウイング、文法練習問題などを通して、反応速度を高め、表現を定着させる学習を行います。	○	◎		
150008097	現代中国語基礎セミナー A II（理解）	1	2・3・4年	石川 照子	中国語の一年間の初級学習と、半年の中級学習を終了した学生を対象とするクラスです。辞書を引ながら、現代中国に関するさまざまなテーマの文章を学んでいきます。読解力の養成を中心に、録音テープ・CDなどを用いた音声の反復練習も行います。	プリント教材に沿って、中国語の文法や表現を勉強してゆくと同時に、中国の政治、経済、社会、文化についての理解も深めていきます。本授業履修後には、専門的な文献資料を講読できる力を身につけることをめざします。授業は教材の講読が中心ですが、テープを用いての発音チェック等、音声面の能力を養うことも目標とします。	○	◎		

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	-

<ディプロマ・ポリシー（DP）>

DP 1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP 2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP 3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP 4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業の概要、ねらい	到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎：特に関係する ○：関係する			
							DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
150008097	現代中国語基礎セミナー A II（理解）	1	2・3・4年	天神 裕子	この授業では、受講者の中国語のリスニング力を強化し、迅速な反応を養い、自然な日常会話につなげることがなっています。このため毎回の授業では、各課の内容を聴いて書き取り、書いた文章のリポートとシャドウイング、文法練習問題などを通して、反応速度を高め、表現を定着させる学習を行います。	この授業では、主に中国語のリスニング力を強化し、聴いた内容に迅速に反応して会話できる能力を身につけることを目標としています。このため毎回の授業では、各課の内容を聴いて書き取り、書いた文章のリポートとシャドウイング、文法練習問題などを通して、反応速度を高め、表現を定着させる学習を行います。	○	◎		
150008098	現代中国語基礎セミナー B I（表現）	1	2・3・4年	銭 国紅	本セミナーは中国語のコミュニケーションの基礎を学んだ学生が次の段階に進むために設定されたものである。現在、中国語を使って人と人との実践的なコミュニケーションができる人材が切実に求められている。このセミナーは言語習得の目的の一つをコミュニケーションに置き、単なる書物上の語学ではなく、人との交流に使える外国語の習得を担いとする。	この授業では、中級レベルの中国語の表現を学び、興味を持ちやすい話題や用例を大量に覚えることにより、異文化への理解を深め、中国人と中国語でコミュニケーションを取ることができるようになることを目標としています。	○	◎		
150008098	現代中国語基礎セミナー B I（表現）	1	2・3・4年	張 玉萍	発音に注意しながら、中国語会話を楽しく進めていく。読み、書き、聞き取りなどをペアやグループなど様々な形で練習することを通して、中国語できちんと自己表現できるようにする。同時にテキストの内容に合わせて中国の歴史、文化、風俗習慣などを日本と比較しながら紹介し、中国および中国語に対する理解を深めていく。	中国語の発音と基礎知識の習得ができる。中国語で簡単な日常会話ができる。中国語の「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を伸ばしていくための基礎作りができる。	○	◎		
150008099	現代中国語基礎セミナー B II（表現）	1	2・3・4年	銭 国紅	本セミナーは中国語のコミュニケーションの基礎を学んだ学生が次の段階に進むために設定されたものである。現在、中国語を使って人と人との実践的なコミュニケーションができる人材が切実に求められている。このセミナーは言語習得の目的の一つをコミュニケーションに置き、単なる書物上の語学ではなく、人との交流に使える外国語の習得を目的とする。	この授業では、中級レベルの中国語の表現を学び、興味を持ちやすい話題や用例を大量に覚えることにより、異文化への理解を深め、中国人と中国語でコミュニケーションを取ることができるようになることを目標としています。	○	◎		
150008099	現代中国語基礎セミナー B II（表現）	1	2・3・4年	張 玉萍	発音に注意しながら、中国語会話を楽しく進めていく。読み、書き、聞き取りなどをペアやグループなど様々な形で練習することを通して、中国語できちんと自己表現できるようにする。同時にテキストの内容に合わせて中国の歴史、文化、風俗習慣などを日本と比較しながら紹介し、中国および中国語に対する理解を深めていく。	中国語の発音と基礎知識の習得ができる。中国語で簡単な日常会話ができる。中国語の「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を伸ばしていくための基礎作りができる。	○	◎		
150008100	現代中国語基礎セミナー C I（総合）	1	2・3・4年	張 玉萍	発音に注意しながら、中国語会話を楽しく進めていく。読み、書き、聞き取りなどをペアやグループなど様々な形で練習することを通して、中国語できちんと自己表現できるようにする。同時にテキストの内容に合わせて中国の歴史、文化、風俗習慣などを日本と比較しながら紹介し、中国および中国語に対する理解を深めていく。	中国語の発音と基礎知識の習得ができる。中国語で簡単な日常会話ができる。中国語の「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を伸ばしていくための基礎作りができる。	○	◎		
150008101	現代中国語基礎セミナー C II（総合）	1	2・3・4年	張 玉萍	発音に注意しながら、中国語会話を楽しく進めていく。読み、書き、聞き取りなどをペアやグループなど様々な形で練習することを通して、中国語できちんと自己表現できるようにする。同時にテキストの内容に合わせて中国の歴史、文化、風俗習慣などを日本と比較しながら紹介し、中国および中国語に対する理解を深めていく。	中国語の発音と基礎知識の習得ができる。中国語で簡単な日常会話ができる。中国語の「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を伸ばしていくための基礎作りができる。	○	◎		
150008102	現代中国語中級セミナー I	1	3・4年	趙 怡	「映像を通して教室で中国を探索」というキャッチフレーズの教科書（DVD付き）を使います。著者が自ら上海、北京、西安、そして四川省や雲南省などで撮影した美しい映像と、有名なアナウンサーたちが吹き込んだ音声を受講生と一緒に堪能しながら、自然な中級レベルの中国語をマスターさせることに目指します。文法学習と会話、聴解、読解の技能をバランスよく向上させると同時に、中国の文化や社会事情についてもより理解してもらいたいと考えています。	無料ダウンロードできる音声用ファイルや付属のDVDを利用しながら、自宅での学習も一段と楽しくなるはず。時には字幕を見ながら自らナレーターにチャレンジすることもできます。文法、会話、聴解、読解などの面をカバーできる多様なドリルをこなせば、語学力が自然と向上できるはず。一年間の学習を通して、中国語検定試験3～2級またはHSK3～5級相当な語学力を身につけましょう。	○	◎		
150008103	現代中国語中級セミナー II	1	3・4年	趙 怡	「映像を通して教室で中国を探索」というキャッチフレーズの教科書（DVD付き）を使います。著者が自ら上海、北京、西安、そして四川省や雲南省などで撮影した美しい映像と、有名なアナウンサーたちが吹き込んだ音声を受講生と一緒に堪能しながら、自然な中級レベルの中国語をマスターさせることに目指します。文法学習と会話、聴解、読解の技能をバランスよく向上させると同時に、中国の文化や社会事情についてもより理解してもらいたいと考えています。	無料ダウンロードできる音声用ファイルや付属のDVDを利用しながら、自宅での学習も一段と楽しくなるはず。時には字幕を見ながら自らナレーターにチャレンジすることもできます。文法、会話、聴解、読解などの面をカバーできる多様なドリルをこなせば、語学力が自然と向上できるはず。一年間の学習を通して、中国語検定試験3～2級またはHSK3～5級相当な語学力を身につけましょう。	○	◎		
150008104	現代英語中級セミナー A I（理解）	1	2・3・4年	井上 淳	※履修登録前に必ずシラバスを一読すること。また授業期間中も、授業のすすめかたやねらい、成績評価についての情報を確認する場合には、各自でシラバスを参照すること。また、本授業はmanabaを使って予習や小テストを行うため、それ相応の努力がないと単位取得が困難になる※本講座は、まとまった分量の英語をある程度の速度と正確性をもって読み取る訓練をおこなうこと、イギリスについて現地語（英語）で理解してみようことを目指している。週1回の講義内ではあるが、時間を区切って言い訳のきかない状態で訓練を積み重ねる。最終的には、たとえばEU（European Union）の公式サイト{ http://europa.eu/about-eu/eu-history/index_en.htm }を抵抗なく読み、なおかつ1段落あたり2分程度で内容を理解したうえで日本語で概要を説明できるようになることを目指す。したがって履修者のレベルには、「辞書と時間さえ使えば上のwebページに書かれていることを訳すことができる（基本的な文法や熟語についてはおさえられている）」というレベルを想定している（それ以下、あるいはそれ以上の水準の学生には本講義の内容は向きません）。なお、毎回出席管理システムによる出席をとり、「manaba」を使って予習や小テストをおこなう。	この授業では、特定のトピックについて書かれた400words前後の中長文を3-4分程度で黙読して大意を把握できたうえで、精読や和訳の発表も（できれば辞書なしで）できるようになること、そして英語を通じてイギリスの歴史、社会、文化、政治経済、教育について基礎的な知識を習得することをめざす。一定程度の分量をある程度の速度と正確性をもって理解するためには、ある種のコツがある。そのコツをひとつひとつ積み上げつつも、英語を通じて英語圏の国々のことを理解する。履修者は毎回の予習、予習確認としてのmanabaの小テスト、授業内の和訳確認、テキスト内容確認終了後の追加課題を通じて、上記目標に到達することができるようになる。	○	◎		
150008104	現代英語中級セミナー A I（理解）	1	2・3・4年	上野 未央	現代イギリスの社会・文化について書かれた英文を読みながら、英語を学びます。教科書では、イギリスのEU離脱の問題や移民問題、スコットランドの歴史、イギリス発祥のスポーツなど、イギリスを知るための幅広いテーマが取り上げられています。これらのテーマについて書かれた英文を丁寧に読むことで、英文の理解力を高めるとともに、現代のイギリスについて学びます。英語の学習にとどまらず、イギリス文化への理解を深めるために、新聞記事や映像資料なども活用します。授業では、重要単語の確認のためのボキャブラリー・テストを毎回行います。その後、易しいリスニング問題でウォームアップしてから、英文読解を行います。	英文読解力とリスニング力を高めることを目標とします。またボキャブラリー・テストを通して、語彙を増やします。	○	◎		
150008104	現代英語中級セミナー A I（理解）	1	2・3・4年	佐藤 円	このセミナーは、英語を専門言語科目として選択した比較文化学部の全てのコースに所属する学生に向けたものであるため、担当教員の専門とする地域（アメリカ合衆国）に関わるテキストは使用せず、現代日本社会や日本の歴史について英語で書かれた論説をテキストにして参加者と共に読んでいく。論説の著者は日本人ではなく、そのような著者から見た日本の姿を英語で学ぶことは、日本を相対化して観察する目を養うことにもなり、これまで知らなかった、あるいは気がつかなかった「日本」を発見することにもなるだろう。このセミナーでは、毎回出席者全員を順不同に指名しながら、指定された部分の英文和訳と内容の説明を行わせるという形で進める。毎回のセミナーでどこまで購読するかは参加者の能力によって決まるので、明確なスケジュールをシラバスで提示できないが、初回にオリエンテーションを行うので、受講希望者はその際に詳しい説明を聞いてほしい。	このセミナーでは、英語を専門言語科目として選択した比較文化学部の2年次以降の学生を対象に、英語で書かれた学術的な文献（論文や書物）の読み方を指導することによって、論理的な英文の読解力を養うことを目標としている。	○	◎		

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	-

<ディプロマ・ポリシー（DP）>

DP 1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP 2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP 3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP 4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業の概要、ねらい	到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎：特に関係する ○：関係する			
							DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
150008104	現代英語中級セミナー A I (理解)	1	2・3・4年	米塚 真治	ねらい現在TOEIC400点～500点を取得できる水準にある学生をターゲットとする。センテンス・レベルのリスニングと、語源を意識した単語の習得に重点を置く。扱う映像はオンラインで視聴でき、教室外での予習復習が強く奨励される。語学の習得を通じて、国際理解や専門知識の活用に関わる諸能力の涵養をめざす。概要テキストの著者はこれまでに、3分程度の短いテレビ番組を利用する語学教材を数多く生み出してきた。その中には映画の紹介番組を題材としたシリーズも含まれており、2014年に刊行された『ハリウッド・イングリッシュ---VOA-TV シネマサイト』もその一つである。素材となっているVOAの映画紹介番組は、批評性はさほど強くないものの、短いコメントと出演者や監督などへのインタビューによって、各作品の一側面を確実に捉えている。映画の断片（テンポ良く編集された、短い映像と台詞の集積）によって、あらすじも簡潔に紹介してある。短いインタビューと台詞を集めている点が、センテンス・レベルのリスニングという授業目的に合致する。key vocabularyの定着にも意を用いてあり、ナレーション部分の語彙レベルが比較的高いことと相まって、語彙の習得にも効果が高いと考えられる。各ユニット末では出演者のバイオグラフィも紹介され、ハリウッド映画とそのスター・システムについても理解を深めることができる。	受講者は、主にリスニングと語彙の強化により、少なくともTOEIC500点～600点を取得できる水準へと自らの実力を向上させることが到達目標となる。	○	◎		
150008104	現代英語中級セミナー A I (理解)	1	2・3・4年	野村美由紀	授業の概要この授業では、社会科学、文学、自然科学、論説文、随筆、新聞、演説など、様々なジャンルの英文を読んでいます。英文を精読することによって、正確に英文を理解することを目指します。1課が終わる毎に、単語や熟語の小テストを行ない、英語の語彙力を増やしていきます。単語、熟語、英作文の練習、文法の確認することにより、英語を使えるようにしていきたいと思えます。 毎回1課が終わる毎に、授業のはじめに小テストを行います。（範囲は前の回の授業で指定します）それから、教科書の方に入り、本文の英文を聞き、単語や熟語を確認した後、本文を音読し、1文ずつ正確に日本語に訳していきます。その後で、紛らわしい語句や内容把握の設問を解いて、英作文を練習します。ねらい1 内容のあるまとまった量の英文を読み聴き、Scanning, Skimming能力を養うとともに、読んだ内容について口頭及び筆記でわかりやすく表現する方法を練習する。2 正確な語の発音、ストレス、リズム、イントネーションを用い、意味を正確に伝えるための音読練習を行う。3 語彙力を増強する。	1 まとまった量の英文から、ScanningやSkimmingなどの方法で情報を的確に読み取ることができるようになる。2 基本的な語彙や表現を使って正確に文字や音声でコミュニケーションできるようになる。3 読解、聴解に必要な語彙を習得する。	○	◎		
150008105	現代英語中級セミナー A II (理解)	1	2・3・4年	井上 淳	※履修登録前に必ずシラバスを一読すること。また授業期間中も、授業のすすめかたやねらい、成績評価についての情報を確認する場合には、各自でシラバスを参照すること。また、本授業はmanabaを使って予習や小テストを行うため、それ相応の努力がないと単位取得が困難になる※本講座は、まとまった分量の英語をある程度の速度と正確性をもって読み取る訓練をおこなうこと、アメリカについて現地語（英語）で理解してやることを目指している。週1回の講義内ではあるが、時間を区切って言い訳のきかない状態で訓練を積み重ねる。最終的には、たとえばEU (European Union) の公式サイト({http://europa.eu/about-eu/eu-history/index_en.htm})を抵抗なく読み、なおかつ1段落あたり2分程度で内容を理解したうえで日本語で概要を説明できるようになることを目指す。したがって履修者のレベルには、「辞書と時間さえ使えば上のwebページに書かれていることを訳すことができる（基本的な文法や熟語についてはおさえられている）」というレベルを想定している（それ以下、あるいはそれ以上の水準の学生には本講義の内容は向きません）。なお、毎回出席管理システムによる出席をとり、「manaba」を使って予習や小テストをおこなう。	この授業では、特定のトピックについて書かれた400words前後の中長文を3-4分程度で黙読して大意を把握できたうえで、精読や和訳の発表も（できれば辞書なしで）できるようになること、そして英語を通じてアメリカの歴史、社会、文化、政治経済、教育について基礎的な知識を習得することをめざす。一定程度の分量をある程度の速度と正確性をもって理解するためには、ある種のコツがある。そのコツをひとつひとつ積み上げつつも、英語を通じて英語圏の国々のことを理解する。履修者は毎回の予習、予習確認としてのmanabaの小テスト、授業内の和訳確認、テキスト内容確認終了後の追加課題を通じて、上記目標に到達することができるようになる。	○	◎		
150008105	現代英語中級セミナー A II (理解)	1	2・3・4年	上野 未央	現代イギリスの社会・文化について書かれた英文を読みながら、英語を学びます。教科書では、イギリスに渡った日本人について、英国王室の歴史、女性参政権運動の歴史など、イギリスを知るための幅広いテーマが取り上げられています。これらのテーマについて書かれた英文を丁寧に読むことで、英文の理解力を高めるとともに、イギリスの文化について学びます。英語の学習にとどまらず、イギリス文化への理解を深めるために、新聞記事や映像資料なども活用します。 授業では、重要単語の確認のためのボキャブラリー・テストを毎回行います。その後、易しいリスニング問題でウォームアップしてから、英文読解を行います。	英文読解力とリスニング力を高めることを目標とします。またボキャブラリー・テストを通して、語彙を増やします。	○	◎		
150008105	現代英語中級セミナー A II (理解)	1	2・3・4年	佐藤 円	このセミナーは、英語を専門言語科目として選択した比較文化学部の全てのコースに所属する学生に向けたものであるため、担当教員の専門とする地域（アメリカ合衆国）に関わるテキストは使用せず、現代日本社会や日本の歴史について英語で書かれた論説をテキストにして参加者と共に読んでいく。論説の著者は日本人ではなく、そのような著者から見た日本の姿を英語で学ぶことは、日本を相対化して観察する目を養うことにもなり、これまで知らなかった、あるいは気がつかなかった「日本」を発見することにもなるだろう。 このセミナーでは、毎回出席者全員を順不同に指名しながら、指定された部分の英文和訳と内容の説明を行わせるという形で進める。毎回のセミナーでどこまで購読するかは参加者の能力によって決まるので、明確なスケジュールをシラバスで提示できないが、初回にオリエンテーションを行うので、受講希望者はその際に詳しい説明を聞いてほしい。	このセミナーでは、英語を専門言語科目として選択した比較文化学部の2年次以降の学生を対象に、英語で書かれた学術的な文献（論文や書物）の読み方を指導することによって、論理的な英文の読解力を養うことを目標としている。	○	◎		
150008105	現代英語中級セミナー A II (理解)	1	2・3・4年	米塚 真治	ねらい現在TOEIC400点～500点を取得できる水準にある学生をターゲットとする。センテンス・レベルのリスニングと、語源を意識した単語の習得に重点を置く。扱う映像はオンラインで視聴でき、教室外での予習復習が強く奨励される。語学の習得を通じて、国際理解や専門知識の活用に関わる諸能力の涵養をめざす。概要テキストの著者はこれまでに、3分程度の短いテレビ番組を利用する語学教材を数多く生み出してきた。その中には映画の紹介番組を題材としたシリーズも含まれており、2014年に刊行された『ハリウッド・イングリッシュ---VOA-TV シネマサイト』もその一つである。素材となっているVOAの映画紹介番組は、批評性はさほど強くないものの、短いコメントと出演者や監督などへのインタビューによって、各作品の一側面を確実に捉えている。映画の断片（テンポ良く編集された、短い映像と台詞の集積）によって、あらすじも簡潔に紹介してある。短いインタビューと台詞を集めている点が、センテンス・レベルのリスニングという授業目的に合致する。key vocabularyの定着にも意を用いてあり、ナレーション部分の語彙レベルが比較的高いことと相まって、語彙の習得にも効果が高いと考えられる。各ユニット末では出演者のバイオグラフィも紹介され、ハリウッド映画とそのスター・システムについても理解を深めることができる。	受講者は、主にリスニングと語彙の強化により、少なくともTOEIC500点～600点を取得できる水準へと自らの実力を向上させることが到達目標となる。	○	◎		

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	-

<ディプロマ・ポリシー（DP）>

DP 1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP 2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP 3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP 4	特に比較文化の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業の概要、ねらい	到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎：特に関係する ○：関係する			
							DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
150008105	現代英語中級セミナー A II (理解)	1	2・3・4年	野村美由紀	授業の概要この授業では、社会科学、文学、自然科学、論説文、随筆、新聞、演説など、様々なジャンルの英文を読んでいます。英文を精読することによって、正確に英文を理解することを目指します。1課が終わる毎に、単語や熟語の小テストを行ない、英語の語彙を増やしていきます。単語、熟語、英作文の練習、文法の確認することにより、英語を使えるようにしていきたいと思ひます。 毎回1課が終わる毎に、授業のはじめに小テストを行います。（範囲は前の回の授業で指定します）それから、教科書の方に入り、本文の英文を聞き、単語や熟語を確認した後、本文を音読し、1文ずつ正確に日本語に訳していきます。その後で、紛らわしい語句や内容把握の設問を解いて、英作文を練習します。ねらい1 内容のあるまとまった量の英文を読み聴き、Scanning, Skimming能力を養うとともに、読んだ内容について口頭及び筆記でわかりやすく表現する方法を練習する。2 正確な語の発音、ストレス、リズム、イントネーションを用い、意味を正確に伝えるための音読練習を行う。3 語彙力を増強する。	1 まとまった量の英文から、ScanningやSkimmingなどの方法で情報を的確に読み取ることができるようになる。2 基本的な語彙や表現を使って正確に文字や音声でコミュニケーションできるようになる。3 読解、聴解に必要な語彙を習得する。	○	◎		
150008106	現代英語中級セミナー B I (表現)	1	2・3・4年	高田 馨里	現代英語中級セミナーBIでは、Reading,Writing, and Speakingのすべてを鍛えることを目標に、プレゼンテーション技術を学ぶ。よいプレゼンテーションは、内容についてよく調べ(research)、情報をわかりやすくまとめ(preparation)、それを発表する (presentation)ことで自分自身の意思を聴衆にわかりやすく伝えることで実現する。それゆえ、この授業では、調査・準備・発表というプロセスを繰り返し行うことで、受講生の総合的な英語力の向上を目指す。プレゼンテーションのテーマは、(1) 都市紹介(自分の暮らす都市や町の紹介)、(2) 特定の場所[例えばテーマパークや駅ビル、大学構内、空港など]のレイアウトの紹介、(3) 国の紹介[自分の関心のある国について紹介する]、(4) 自分で選ぶテーマについてのプレゼンテーション、である。プレゼンテーションの補助として、パワーポイントを使用する。さまざまな資料を「適切」に使う技術も同時に学ぶ。	読み、書き、発表することで英語の総合力を養成し、表現力を身に付ける。	○	◎		
150008106	現代英語中級セミナー B I (表現)	1	2・3・4年	渡邊 顕彦	英語を含むインド・ヨーロッパ諸語文法の基礎を学びつつ、古代ローマ文化について英文解説を読み、英語で感想を書いていくことにより実用的な英作文のスキルをみがきます。	この授業では、古典語を含む基礎的なインド・ヨーロッパ諸語の文法を学び、英語や英語圏文化の中にある古代ローマ的な要素について考察することにより、英語のより深い理解と表現力を得ることを目標にして	○	◎		
150008106	現代英語中級セミナー B I (表現)	1	2・3・4年	JOHNSON, G.S.	This course is designed to integrate and extend competencies especially in listening and speaking. This is a challenging course with the theme of workplace English for students who intend to use English for research and personal and professional communication.	Students will extend competencies in professional and personal use of English.	○	◎		
150008107	現代英語中級セミナー B II (表現)	1	2・3・4年	高田 馨里	現代英語中級セミナーBIIでは、Reading,Writing, and Speakingのすべてを鍛えることを目標に、プレゼンテーション技術を学ぶ。よいプレゼンテーションは、内容についてよく調べ(research)、情報をわかりやすくまとめ(preparation)、それを発表する (presentation)ことで自分自身の意思を聴衆にわかりやすく伝えることで実現する。それゆえ、この授業では、調査・準備・発表というプロセスを繰り返し行うことで、受講生の総合的な英語力の向上を目指す。プレゼンテーションのテーマは、(1) 国や地域、(2) 映画や本など自由に選択する。	最終プレゼンテーションのためのイントロダクション、ボディ、コンクルージョンを作成する。	○	◎		
150008107	現代英語中級セミナー B II (表現)	1	2・3・4年	渡邊 顕彦	前期にひきつづき、英語を含むインド・ヨーロッパ諸語文法の基礎を学びつつ、古代ローマ文化について英文解説を読み、英語で感想を書いていくことにより実用的な英作文のスキルをみがきます。	この授業では、古典語を含む基礎的なインド・ヨーロッパ諸語の文法を学び、英語や英語圏文化の中にある古代ローマ的な要素について考察することにより、英語のより深い理解と表現力を得ることを目標にして	○	◎		
150008107	現代英語中級セミナー B II (表現)	1	2・3・4年	JOHNSON, G.S.	This course is designed to integrate and extend competencies especially in listening and speaking. This is a challenging course with the theme of workplace English for students who intend to use English for research and personal and professional communication.	Extend competencies especially in listening and speaking.	○	◎		
150008108	現代英語中級セミナー C I (総合)	1	2・3・4年	安藤 聡	この科目は「総合」ですが、英語の四技能を限られた授業時間で満遍なく扱うことは不可能なので、特に読解力を集中的に訓練することにします。最初に「読むための文法」として必要な項目を、実際にテキストを読み進めながら整理し、その後は精読と多読に努めます。今年度のテキストは、日本でも大学教員歴があるJohn Dougillのエッセイです。『ロミオとジュリエット』、『嵐が丘』、『シャーロック・ホームズ』など英文学史上の名作や人気作品を紹介する内容ですが、英語に特有の発想や表現方法、英国的な価値観や考え方などにも目を向けたいと思ひます。	新聞や雑誌、あるいは初歩的な専門書などを英語で読める程度の読解力の習得を目標とします。	○	◎		
150008108	現代英語中級セミナー C I (総合)	1	2・3・4年	行田 勇	CALLの英語(中級)・本授業では、「三ラウンド・システム理論」という学習の効率化を目指して日本人学習者のために開発された科学的学習理論に従って作成されたCALL(Computer-Assisted Language Learning)教材を用いて、英語のリスニング能力の向上を目指す。・三ラウンド・システム理論は、伝統的学習法に比べて約10倍の学習効果が実証されている。(初級レベルの学習者の場合、正味約20時間の学習時間でTOEICのスコアが約100点上昇)また、初・中級レベルの学習者には特に効果的であるといわれているので、「英語をやり直そう」と考えている人には最適な学習法といえる。・本授業を通じて自らすすんで学習する態度を身につけ、自律的な英語学習を習慣化することを目的とする。	「三ラウンド・システム理論」という学習法に従って、真のコミュニケーション能力のための読解力の向上を目指す。	○	◎		
150008108	現代英語中級セミナー C I (総合)	1	2・3・4年	久保 忠行	テキストの読解・理解に加えて、ペアワークをとおした発話やロールプレイングを繰り返すことを通して、総合的な英語力の向上を目指す。	テキストで紹介されている語彙、言い回し、表現などを使いこなすことができるようになる。	○	◎		
150008108	現代英語中級セミナー C I (総合)	1	2・3・4年	鶴沢 文子	英語四技能のうち、特に読解力の向上に力を入れる。随時、文法の重要事項に留意し、段落ごとの内容をクラス全体で確かめ、理解困難な箇所は、精読、という形で読み進めていく。読解力の向上のみならず、アメリカの歴史についての知識を深めていくのが本講座のねらいである。	英語で書かれた雑誌、新聞、論文などを自力で読んで、理解できる程度の読解力の習得を目標とする。	○	◎		
150008108	現代英語中級セミナー C I (総合)	1	2・3・4年	野村美由紀	授業の概要この授業は、指定されたテキストに沿って進められ、リーディング、リスニングの練習を行うとともに、実践的なスピーキング・ライティングの能力の向上も図る。授業内で小テストを実施して、英語の語彙の増大を目指し、授業内容の理解を確かめる。授業のねらい1. 英語の語彙の増大を図る2. 英語の使い方を学び、覚えた英語を実際に使えるようにする3. 実践的な場面で使用できる英語コミュニケーション能力を身につける4. リーディング・リスニングにおいて英検やTOEIC試験などの資格試験に対応できる英語力を身につける	到達目標1. 大まかな概要を理解しながら聴くことができる。2. スキャニング・スキミングによりまとめながら読んだり、スキャニングにより必要な情報を獲得しながら読んだりすることができる。3. 口頭で基本的なやり取りをおこなったり、一貫性のあるまとまった文章を書いたりすることができる。4. リーディング・リスニングにおいて英検やTOEIC試験などの資格試験に対応できる英語力を身につける	○	◎		
150008109	現代英語中級セミナー C II (総合)	1	2・3・4年	安藤 聡	前期に引き続き読むための文法、著者との対話などに留意してテキストを読み進めます。また、後期はパラグラフ・リーディングの初歩的な演習を行います。予定通りの頁数を毎回読むと、12回目あたりで教科書を読み終えることになるので、それ以後は印刷物を配布して授業を進めます。	前期に同じ	○	◎		
150008109	現代英語中級セミナー C II (総合)	1	2・3・4年	行田 勇	CALLの英語(中級)・本授業では、「三ラウンド・システム理論」という学習の効率化を目指して日本人学習者のために開発された科学的学習理論に従って作成されたCALL(Computer-Assisted Language Learning)教材を用いて、英語のリスニング能力の向上を目指す。・三ラウンド・システム理論は、伝統的学習法に比べて約10倍の学習効果が実証されている。(初級レベルの学習者の場合、正味約20時間の学習時間でTOEICのスコアが約100点上昇)また、初・中級レベルの学習者には特に効果的であるといわれているので、「英語をやり直そう」と考えている人には最適な学習法といえる。・本授業を通じて自らすすんで学習する態度を身につけ、自律的な英語学習を習慣化することを目的とする。	「三ラウンド・システム理論」という学習法に従って、真のコミュニケーション能力のための読解力の向上を目指す。	○	◎		

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	-

<ディプロマ・ポリシー（DP）>

DP 1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP 2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP 3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP 4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業の概要、ねらい	到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎：特に関係する ○：関係する			
							DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
150008109	現代英語中級セミナーCⅡ（総合）	1	2・3・4年	久保 忠行	前期からの継続である。テキストの読解・理解に加えて、ペアワークとおした発話とロールプレイングを繰り返すことを通じて、総合的な英語力の向上を目指す。	テキストで紹介されている語彙、言い回し、表現などを使いこなすことができるようになる。	○	◎		
150008109	現代英語中級セミナーCⅡ（総合）	1	2・3・4年	鶴沢 文子	前期に引き続き、文法の重要事項に留意し、段落ごとの内容をクラス全体で確かめ、アメリカの歴史についての知識を深めていくのが本講座のねらいである。	英語で書かれた書物を自力で読んで、理解できる程度の読解力の習得を目標とする。	○	◎		
150008109	現代英語中級セミナーCⅡ（総合）	1	2・3・4年	野村美由紀	授業の概要この授業は、指定されたテキストに沿って進められ、リーディング、リスニングの練習を行うとともに、実践的なスピーキング・ライティングの能力の向上も図る。授業内で小テストを実施して、英語の語彙の増大を目指し、授業内容の理解を確かめる。授業のねらい1. 英語の語彙の増大を図る2. 英語の使い方を学び、覚えた英語を実際に使えるようにする3. 実践的な場面で使用できる英語コミュニケーション能力を身につける4. リーディング・リスニングにおいて英検やTOEIC試験などの資格試験に対応できる英語力を身につける	到達目標1. 大まかな概要を理解しながら聴くことができる2. スキャニング・スキミングによりまとめながら読み取り、スキャニングにより必要な情報を獲得しながら読み取りすることができる3. 口頭で基本的なやり取りをおこなったり、一貫性のあるまとまった文章を書いたりすることができる4. リーディング・リスニングにおいて英検やTOEIC試験などの資格試験に対応できる英語力を身につける	○	◎		
150008110	現代英語上級セミナーⅠ	1	3・4年	安藤 聡	日本人学習者用の教科書ではなく、英語圏で一般読者向けに出版されているペーパーバックを読みます。今年度は東欧から英国に移住して企業で働きながら文筆活動をする若い女性を書いたエッセイ（イングランド文化論）をテキストに選びました。最初の数回で「読むための文法」の基本事項を再確認しながら精読し、その後はパラグラフの要点を読み取る練習をしつつ、多読に努めます。	ある程度本格的な内容を持つ本を英語で読めるようになることが目標です。英語的な発想や英語の背景にある英国（特にイングランド）文化への理解を深めることをも目指します。	○	◎		
150008110	現代英語上級セミナーⅠ	1	3・4年	行田 勇	CALLの英語（上級）・真のコミュニケーション能力のための「聴解力の養成」を第一の目標とする。・言語を習得するためには、当然のことながら、その言語にできるだけ多く触れる必要がある。ある調査によると、米国の子供は6歳になるまでに約1万7千時間、18歳になるまでには約5万時間も英語を聞いているらしい。それに対して、日本人の英語学習者が中・高の6年間で英語そのものに触れているのは、1千時間にも満たないと推定されている。つまり、日本人が学校で受ける英語教育では、母語話者の実に1/25～1/50の時間しか生の英語に触れていないのだ。このギャップを少しでも埋めるために、本授業ではできるだけたくさん音声英語に触れてもらう。・とはいつても、ただ単に何度も繰り返し長時間聞くだけでは英語力はつかない。適切な学習方法によって学ばなければならない。しかも、英語力を身につけるということは、険しい高い山を一步一步登っていくようなもので、「たったの1ヶ月でネイティブ並の英語力」などということはありません。ところが、科学的な学習方法に従えば、その高い山を大幅に低くして、学習時間を大幅に短縮することは不可能なことではない。・本授業では、指導の効率化を目指して日本人学習者のために開発された「三ラウンド・システム理論」という学習法に従って、英語のリスニング能力の向上を目指す。	「三ラウンド・システム理論」という学習法に従って、真のコミュニケーション能力のための聴解力の向上を目指す。自らすすんで学習する態度を身につけ、自律的な英語学習を習慣化することができるようにする。	○	◎		
150008110	現代英語上級セミナーⅠ	1	3・4年	米塚 真治	Target:The course is at intermediate level, targeting students with a TOEIC scores 500-600 or equivalent.Aims and objectives:The course is designed so that students can improve their listening comprehension. It also includes activities to develop competence in writing and speaking about current topics.BBC World News is the BBC's international news television, launched in 1991 as the British equivalent of CNN. In Japan it is available through satellite and cable TV networks. It covers a wide range of issues both national and international, such as health, education, and the environment.The coursebook, Seeing the World through the News 5, has selected 15 items that are about three minutes long. The videos are made accessible online to encourage students to study out of class. Background information is given in Japanese.Students will watch, answer questions about, and discuss the subject matter of the news.The course will be conducted in English, and there will be activities where students communicate in English.	Outcomes:By the end of the second semester you should improve your TOEIC score to at least 600-700 points or equivalent.	○	◎		
150008110	現代英語上級セミナーⅠ	1	3・4年	野村美由紀	授業の概要毎回1課が終わる毎に、授業のはじめに小テストを行います。（小テストの範囲は前の回の授業で指定します）それから教科書の方に進んで、基本文の語彙、文法、構文の確認をしてから、部分英作文、誤文訂正、並び替え問題、和文英訳、長文英作文、自由英作文の練習をしていきます。英語の発音にも注意して、英語で表現できるように練習していきます。授業のねらいこの授業では、様々な英文を作文し、問題演習することによって、英語理解力、英語語彙力、英語表現力を養うことを目的としています。	1 単語・熟語などの英語の語彙力を増強する。2 正確に英語を理解し発する力を身につける。3 英語を書き、話すための英語の文法力を付ける。4 英語の発音や英作文の練習することにより、英語が使えるようになる。	○	◎		
150008111	現代英語上級セミナーⅡ	1	3・4年	安藤 聡	前期に引き続き、パラグラフ・リーディングの演習を通して多読に努めます。最終的な目標は辞書がなくても読めるようになることと、読むことを楽しめるようになることです。英語で読んでいることを意識せずに読めるようになりましょう。	前期と同じ	○	◎		
150008111	現代英語上級セミナーⅡ	1	3・4年	行田 勇	CALLの英語（上級）・真のコミュニケーション能力のための「聴解力の養成」を第一の目標とする。・言語を習得するためには、当然のことながら、その言語にできるだけ多く触れる必要がある。ある調査によると、米国の子供は6歳になるまでに約1万7千時間、18歳になるまでには約5万時間も英語を聞いているらしい。それに対して、日本人の英語学習者が中・高の6年間で英語そのものに触れているのは、1千時間にも満たないと推定されている。つまり、日本人が学校で受ける英語教育では、母語話者の実に1/25～1/50の時間しか生の英語に触れていないのだ。このギャップを少しでも埋めるために、本授業ではできるだけたくさん音声英語に触れてもらう。・とはいつても、ただ単に何度も繰り返し長時間聞くだけでは英語力はつかない。適切な学習方法によって学ばなければならない。しかも、英語力を身につけるということは、険しい高い山を一步一步登っていくようなもので、「たったの1ヶ月でネイティブ並の英語力」などということはありません。ところが、科学的な学習方法に従えば、その高い山を大幅に低くして、学習時間を大幅に短縮することは不可能なことではない。・本授業では、指導の効率化を目指して日本人学習者のために開発された「三ラウンド・システム理論」という学習法に従って、英語のリスニング能力の向上を目指す。	「三ラウンド・システム理論」という学習法に従って、真のコミュニケーション能力のための聴解力の向上を目指す。自らすすんで学習する態度を身につけ、自律的な英語学習を習慣化することができるようにする。	○	◎		
150008111	現代英語上級セミナーⅡ	1	3・4年	米塚 真治	Target:The course is at intermediate level, targeting students with a TOEIC scores 500-600 or equivalent.Aims and objectives:The course is designed so that students can improve their listening comprehension. It also includes activities to develop competence in writing and speaking about current topics.BBC World News is the BBC's international news television, launched in 1991 as the British equivalent of CNN. In Japan it is available through satellite and cable TV networks. It covers a wide range of issues both national and international, such as health, education, and the environment.The coursebook, Seeing the World through the News 5, has selected 15 items that are about three minutes long. The videos are made accessible online to encourage students to study out of class. Background information is given in Japanese.Students will watch, answer questions about, and discuss the subject matter of the news.The course will be conducted in English, and there will be activities where students communicate in English.	Outcomes:By the end of the second semester you should improve your TOEIC score to at least 600-700 points or equivalent.	○	◎		

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	-

<ディプロマ・ポリシー（DP）>

DP 1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP 2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP 3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP 4	特に比較文化の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業の概要、ねらい	到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎：特に関係する ○：関係する			
							DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
150008111	現代英語上級セミナーⅡ	1	3・4年	野村美由紀	授業の概要毎回1課が終わる毎に、授業のはじめに小テストを行います。（小テストの範囲は前の回の授業で指定します）それから教科書の方に進んで、基本文の語彙、文法、構文の確認をしてから、部分英作文、誤文訂正、並び替え問題、和文英訳、長文英作文、自由英作文の練習をしていきます。英語の発音にも注意して、英語で表現できるように練習していきます。授業のねらいこの授業では、様々な英文を作文し、問題演習することによって、英語理解力、英語語彙力、英語表現力を養うことを目的としています。	1 単語・熟語などの英語の語彙力を増強する。2 正確に英語を理解し発する力を身に付ける。3 英語を書き、話すための英語の文法力を付ける。4 英語の発音や英作文の練習することにより、英語が使えるようになる。	○	◎		
150008112	現代フランス語基礎セミナーAⅠ（理解）	1	2・3・4年	稲垣 正久	平易なフランス語で書かれた文章を読み、読解力の向上を図ります。同時に辞書に引き方も徹底的に訓練します。	仏和辞典があればある程度文章を読解できるレベルの理解力の習得を目指します。	○	◎		
150008112	現代フランス語基礎セミナーAⅠ（理解）	1	2・3・4年	松井 美知子	このクラスはフランス語をすくなくとも1年学習した学生さんを対象とし、初級文法を復習しながら、中級へと進み、「まとまった内容のフランス語の文章を読みこなせるようにする」ことを目的とします。Jaques Demy 監督の名作、「シェルブールの雨傘」を鑑賞し、台本を読みます。フランス語は、外国人学習者のためのものではなく、難しい点もありますが、字幕を頼りに出来ますし、文法の詳細な注もついていきます。なお、文法の事項については随時、学習、復習していきます。映画を見ながら、自然なフランス語の会話文に触れることができます。はじめに文法事項の復習をしますので、2年生の学生さんも大丈夫です。たのしく勉強していきましょう。	テキストを通して文法を学習し、仏検4級（さらに3級）の文章を辞書を用いて読解できるようになる。口語のフランス語に触れる。	○	◎		
150008112	現代フランス語基礎セミナーAⅠ（理解）	1	2・3・4年	CARIO, V.C.	やさしいフランス語で書いたテキストからフランスの日常会話を学んで、そして文章をフランス語で書く練習する。	日常会話を身に付けること。	○	◎		
150008113	現代フランス語基礎セミナーAⅡ（理解）	1	2・3・4年	稲垣 正久	前期に準じます。テキストを読みます。	前期に準じます。	○	◎		
150008113	現代フランス語基礎セミナーAⅡ（理解）	1	2・3・4年	松井 美知子	ひきつづき、映画、「シェルブールの雨傘」を鑑賞、台本を読んで行きます。（時間の都合で一部映画を見るのみで進んでいきます）（その他の点は前期と同様）楽しくフランス語を学んでいきましょう。	せりふ、ト書きを読みながら、中級文法程度の文章（仏検4級～3級）を辞書を用いて読解できるようになる。	○	◎		
150008113	現代フランス語基礎セミナーAⅡ（理解）	1	2・3・4年	CARIO, V.C.	やさしいフランス語で書いたテキストからフランスの日常会話を学んで、そして文章をフランス語で書く練習する。	日常会話を身に付けること。	○	◎		
150008114	現代フランス語基礎セミナーBⅠ（表現）	1	2・3・4年	松丸 和弘	この授業は、1年次において初級フランス語Ⅰ・Ⅱ習得を終えた学生を対象とします。「漫画」のフランス語訳を使って、日本語でふだん日常的に使われている単語や簡単な言い回しがフランス語ではどう表現されるのか学びます。	既習の文法事項の確認をすることから始めますが、テキストのなかで使用されているさまざまな表現を応用しながらフランス語の理解力を高め、仏検4～3級レベルの文法と語彙を使って簡単な自己表現ができるようにすることを目標とします。	○	◎		
150008114	現代フランス語基礎セミナーBⅠ（表現）	1	2・3・4年	CARIO, V.C.	授業の目的は、会話の練習や文法と語彙力を高めることです。	日常会話を身に付けること。	○	◎		
150008115	現代フランス語基礎セミナーBⅡ（表現）	1	2・3・4年	松丸 和弘	この授業は、1年次において初級フランス語Ⅰ・Ⅱ習得を終えた学生を対象とします。「漫画」のフランス語訳を使って、日本語でふだん日常的に使われている単語や簡単な言い回しがフランス語ではどう表現されるのか学びます。	既習の文法事項の確認をすることから始めますが、テキストのなかで使用されているさまざまな表現を応用しながらフランス語の理解力を高め、仏検4～3級レベルの文法と語彙を使って簡単な自己表現ができるようにすることを目標とします。	○	◎		
150008115	現代フランス語基礎セミナーBⅡ（表現）	1	2・3・4年	CARIO, V.C.	授業の目的は、会話の練習や文法と語彙力を高めることです。	日常会話を身に付けること。	○	◎		
150008116	現代フランス語基礎セミナーCⅠ（総合）	1	2・3・4年	武田 千夏	授業の目的は、会話の練習や文法と語彙力を高めることによって、フランス語を上達させることです。	初級レベルのフランス語の教科書を使って、これまでに学んで来たフランス語を総復習するとともに、さらにブラッシュアップして、フランス語の会話力を身につける。	○	◎		
150008116	現代フランス語基礎セミナーCⅠ（総合）	1	2・3・4年	松丸 和弘	この授業はフランス語Ⅰ・Ⅱ（さらにできれば現代フランス語セミナーAかB）の学習をすでに終了した学生を対象とします。初級クラスにおいて既に学習した内容を復習しながら、「物語」を理解するのに必要な時制である直説法単純過去などさらに高度な文法事項を学び、フランス語とフランス文化を理解し表現する総合的能力を獲得することをねらいとしています。	近代化とは西欧化であったにも関わらず、日本人が唯一受容できなかったものが聖書であり、キリスト教でした。フランス文化、ひいては西洋文明の背景を理解するためにも必須である聖書の物語とキリスト教への入門的かつ概略的な基礎知識を獲得することを目標とします。	○	◎		
150008117	現代フランス語基礎セミナーCⅡ（総合）	1	2・3・4年	武田 千夏	前期に続いて、会話の練習や文法と語彙力を高めることによって、日常会話を身につける。	前期で学んだことをもとに、後期ではさらに高度なレベルのフランス語を目指す。フランス語検定（3～4級）の取得を目指す。	○	◎		
150008117	現代フランス語基礎セミナーCⅡ（総合）	1	2・3・4年	松丸 和弘	この授業はフランス語Ⅰ・Ⅱ（さらにできれば現代フランス語セミナーAかB）の学習をすでに終了した学生を対象とします。初級クラスにおいて既に学習した内容を復習しながら、「物語」を理解するのに必要な時制である直説法単純過去などさらに高度な文法事項を学び、フランス語とフランス文化を理解し表現する総合的能力を獲得することをねらいとしています。	近代化とは西欧化であったにも関わらず、日本人が唯一受容できなかったものが聖書であり、キリスト教でした。フランス文化、ひいては西洋文明の背景を理解するためにも必須である聖書の物語とキリスト教への入門的かつ概略的な基礎知識を獲得することを目標とします。	○	◎		
150008118	現代フランス語中級セミナーⅠ	1	3・4年	CARIO, V.C.	フランス語の口頭表現を学習し、身につけた表現?語句を用いる練習をして、語学力を向上させる。	日常会話を身に付けること。	○	◎		
150008119	現代フランス語中級セミナーⅡ	1	3・4年	CARIO, V.C.	前期に引き続き、異なるテーマの語彙やパターンを使い、教師と、学生同士ペアでフランス語で会話をし、上達を確認する。	日常会話を身に付けること。	○	◎		
150008120	現代ドイツ語基礎セミナーAⅠ（理解）	1	2・3・4年	綱島 寿秀	ドイツの文化について、自分の興味の対象をよりよく理解するために必要なドイツ語の力を養う。映像なども利用し、話し言葉・書き言葉の両方に触れながら、いろいろな場面で応用ができるように、文法をきちんと身につけてゆく。	文法を復習・補足しながら、ドイツ語を読みこなす力を身につけてゆきます。	○	◎		
150008120	現代ドイツ語基礎セミナーAⅠ（理解）	1	2・3・4年	中居 実	本セミナーで講読するテキストはみな、比較的平易な、親しみやすい文章で書かれていますし、しかもそのほとんどが、いくばくかの懐かしさを感じさせる作品ばかりだと思えます。それは、今回はとくに、ドイツ語圏の伝統的な魅力であるメルヒェンの流れを汲むような作品を中心に、教材を選んだからです。このような、飽きの来ない、再読に耐えうる良い文章を、繰り返し何度も読むことを通して、ドイツ語とドイツ文化への理解を深めます。	ドイツ語の読解力を飛躍的に伸ばし、ドイツ語文化圏への理解を深めること。	○	◎		
150008121	現代ドイツ語基礎セミナーAⅡ（理解）	1	2・3・4年	綱島 寿秀	ドイツの文化について、自分の興味の対象をよりよく理解するために必要なドイツ語の力を養う。ビデオ・DVDなど映像の助けを借りて、前期よりさらに複雑なドイツ語を読み解いてゆく。	ドイツ語を理解する力を養い、卒業論文の作成準備など、これから先に必要となるドイツ語の足場をしっかりとしたものにしてください。	○	◎		
150008121	現代ドイツ語基礎セミナーAⅡ（理解）	1	2・3・4年	中居 実	本セミナーで講読するテキストはみな、比較的平易な、親しみやすい文章で書かれていますし、しかもそのほとんどが、幾ばくかの懐かしさを感じさせる作品ばかりだと思えます。それは、今回はとくに、ドイツ語圏の伝統的な魅力であるメルヒェンの流れを汲むような作品を中心に、教材を選んだからです。このような、飽きの来ない、再読に耐えうる良い文章を、繰り返し何度も読むことを通して、ドイツ語とドイツ文化への理解を深めます。	ドイツ語の読解力を飛躍的に伸ばし、ドイツ語文化圏への理解を深化する。	○	◎		
150008122	現代ドイツ語基礎セミナーBⅠ（表現）	1	2・3・4年	ビョルン ノイマン	日常生活の会話の練習	ドイツ語での生のやり取りに慣れることを目指します。	○	◎		
150008123	現代ドイツ語基礎セミナーBⅡ（表現）	1	2・3・4年	ビョルン ノイマン	会話の練習	簡単な会話のマスター	○	◎		
150008124	現代ドイツ語基礎セミナーCⅠ（総合）	1	2・3・4年	ビョルン ノイマン	ドイツ地誌学的ハンドブックを作りましょう！	日本語・ドイツ語でドイツについてレポート・発表	○	◎		

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	-

<ディプロマ・ポリシー（DP）>

DP 1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP 2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP 3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP 4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業の概要、ねらい	到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎：特に関係する ○：関係する			
							DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
150008125	現代ドイツ語基礎セミナー C II（総合）	1	2・3・4年	ビヨルン ノイマン	好きなドイツ文化を詳しく見ましょう！	日本語・ドイツ語でドイツについてレポート・発表	○	◎		
150008126	現代ドイツ語中級セミナー I	1	3・4年	鈴木 桂子	この授業ではドイツ語初級で修得した文法知識を応用して、より複雑な文構造を分析する方法を学び、ドイツ語の読解力をつけることを、第一の目的としています。そのために、これまでに接してきた比較的短い文章ではなく、長文に根気よく取り組む習慣を養っていきます。講読の基本テキストには、E.Zettl著 "Portraits. Grosse Menschen in ihrer Zeit"を用います。18世紀以降の音楽、教育、文学の分野から、3人をとりあげます。彼らの生涯や作品の特色をテキストから理解し把握することが第2の目的です。この授業では、さらに、講読テキスト以外に資料をとおして、彼らが生きた時代背景についても理解を深めていきます。時代との関連において、彼らの功績について考察することを第3の目的とします。なお、授業では、毎回、準備してきた訳の発表を課します。	この授業では、次の3点を到達目標としています。1) 読解力をつける方法を学ぶことで、複雑な文章の内容が理解できること。2) 日常的なテーマではない、文化史を扱うテキストに接することで、新しい語彙を修得し、文化についての深い内容が把握できるようになること。3) 文化と時代について考察することにより、より広い視野で日本とドイツの文化比較ができるようになること。	○	◎		
150008127	現代ドイツ語中級セミナー II	1	3・4年	鈴木 桂子	前期に引き続き、ドイツ語初級で修得した文法知識を応用して、より複雑な文構造を分析する方法を学び、ドイツ語の読解力をつけることを、第一の目的とします。そのために、これまでに接してきた比較的短い文章ではなく、長文に根気よく取り組む習慣を養っていきます。講読の基本テキストには、E.Zettl著 "Portraits. Grosse Menschen in ihrer Zeit"を用いますが、それ以外に、他のドイツ語文献から引用したテキストもついで、文学と芸術の分野から、3人をとりあげます。彼らの生涯や作品の特色をテキストから、また美術作品については画像からも理解し把握することが第2の目的です。この授業では、さらに、講読テキスト以外に資料をとおして、彼らが生きた時代背景についても理解を深めていきます。時代との関連において、彼らの功績について考察することを第3の目的とします。なお、授業では、毎回、準備してきた訳の発表を課します。	この授業では、次の3点を到達目標としています。1) 読解力をつける方法を学ぶことで、複雑な文章の内容が理解できること。2) 日常的なテーマではない、文化史を扱うテキストに接することで、新しい語彙を修得し、文化についての深い内容が把握できるようになること。3) 文化と時代について考察することにより、より広い視野で日本とドイツの文化比較ができるようになること。	○	◎		
150010001	比較文学論 I	2	2・3年	安藤 恭子	この講義のテーマは、「<イメージ>と<文学>」です。歴史・社会の中でつくられた<イメージ>が言葉をつくり、言葉が<イメージ>をつくり、文化となって人間の意識をつくります。<文学>という言葉の織物を読み解くことによって、文化的な問題を考察することがこの講義の目標です。具体的には、日本の近・現代文学を主に取り上げて分析します。日本の文化が他の国々の文化と交流・混合して成り立っていることに目を向け、比較文学・文化的な方法によって現象を読み解く実践をおこないます。	さまざまな文学にふれる機会をもち、「感想」レベルを超えて、自分ならではの「感想」を抱くのかについて疑問をもつことが大切です。比較文学・文化の方法を学び、身近な問題、さらに自分自身の認識の問題に気づき、「あたりまえ」と思っている日常を問い直すことができるようになることが目標です。	○	◎		
150010002	比較文学論 II	2	2・3年	安藤 恭子	「比較文学論I」に続き、「日本」「近代」「文学」それらすべてが当たり前にあるものではなく、世界の動向の中で構成された歴史的なものであること。そのことを問い直すことがこの授業の目標です。「比較文学論II」では、近代の「日本」に輸入され、既存の文化と衝突・混交しながら、人々にあらたな世界認識をもたらした「学」「思想」などを取り上げ、それらが言葉の織りなす文学にどのように織り込まれたのかを探ります。	<病><恋愛>などのそれぞれのトピックスについて学ぶだけでなく、それらの関連性についても考察し、海外の文化の移入が日本に何をもちたのかという問題を、歴史・社会の構造的な問題としてとらえることを学びます。それによって、現代の自分自身の日常にも深く入り込んでいるさまざまな観念について知り、比較文化・文学研究の意義について考えられるようになることが目標です。	○	◎		
150010003	フランス語 V	1	2年	稲垣 正久	一年次に学習した文法事項を復習しつつ、「読む」「書く」「話す」「聞く」といった基本的言語行為を繰り返し練習することで、総合的に語学力を高めることを目指します。	仏検4級合格レベルの語学力を身に付けること。	◎	○		
150010003	フランス語 V	1	2年	松井 美知子	本授業は、以下のポイントを中心に、1年生で学んだ基礎文法知識を、さらに広め、深化させていく。文法=1年生で学習した知識を練習問題などによってさらに確かなものにすると同時に、1年生で使った文法の教科書の19課から21課までを（受動態、ジェロンディフ、条件法、接続法など）新たに学習する。読解=平易な文章（仏検4級程度）を読み取り、内容を理解できるようにする。仏検4～5級程度のボキャブラリーを覚える。1年生のテキストの終了後は、中級文法のテキスト、「パリ・ブルゴーニュ」を使用します。このテキストは、文法を学習しつつ、Dialogueのオラルでその内容を定着させ、短いLectureで確認するようになっており、仏検4級、3級の予想問題も収録されています。文法事項に関しては復習的なところも出てきますので、これをオラルで定着させ、実際に運用できるようにする、実用的なテキストです。パリ、ブルゴーニュの美しいビデオも用意されています。楽しく勉強していきましょう。	1年を通じて、仏検4級程度を受験できるフランス語の能力に到達することを目標とする。	◎	○		
150010003	フランス語 V	1	2年	松丸 和弘	この授業はフランス語I・IIの学習をすでに終了した学生を対象とします。1年時の初級クラスにおいて既に学習した内容を復習しながら、さらに高度な文法事項を学び、フランス語を理解し表現する実践的能力を獲得することをねらいとしています。	後期のフランス語VIと合わせて受講することで、1年間を通して仏検4級が受験可能なフランス語レベルに到達することを目標とします。	◎	○		
150010004	フランス語 VI	1	2年	稲垣 正久	フランス語Vに引き続き、総合的に語学力の向上を目指します。	フランス語Vに準じます。	◎	○		
150010004	フランス語 VI	1	2年	松井 美知子	本授業は、以下のポイントを中心に、1年生で学んだ基礎文法知識を、さらに広め、深化させていく。文法=1年生で学習した知識を練習問題などによってさらに確かなものにすると同時に、1年生で使った文法の教科書の19課から21課までを（受動態、ジェロンディフ、条件法、接続法など）新たに学習する。読解=平易な文章（仏検4級程度）を読み取り、内容を理解できるようにする。仏検4～5級程度のボキャブラリーを覚える。引き続き、中級文法のテキスト、「パリ・ブルゴーニュ」を使用します。このテキストは、文法を学習しつつ、Dialogueのオラルでその内容を定着させ、短いLectureで確認するようになっており、仏検4級、3級の予想問題も収録されています。Lectureは短いものであり、この時点では中級文法を一通り終わっているため、フランスの文化を扱った別のテキストを随時読んでいきます。（プリントを配る）文法事項に関しては復習的なところも出てきますので、これをオラルおよびディクテ（書き取り）で定着させ、実際に運用できるようにする。パリ、ブルゴーニュの美しいビデオも用意されており、楽しく学べるようになっていきます。	1年を通じて、仏検4級程度を受験できるフランス語の能力に到達することを目標とする。	◎	○		
150010004	フランス語 VI	1	2年	松丸 和弘	この授業はフランス語I・IIの学習をすでに終了した学生を対象とします。1年時の初級クラスにおいて既に学習した内容を復習しながら、さらに高度な文法事項を学び、フランス語を理解し表現する実践的能力を獲得することをねらいとしています。	前期のフランス語Vと合わせて受講することで、1年間を通して仏検4級が受験可能なフランス語レベルに到達することを目標とします。	◎	○		
150010005	ドイツ語 V	1	2年	綱島 寿秀	1年次のドイツ語の授業で、初等文法を学び始めたわけですが、その知識をさらに確かなものとしながら、未習得の事から補足するのがこのクラスのねらいです。したがって文法内容は、若干新しいことはあるものの、1年次に覚えたことの復習と補足が中心となります。いろいろな練習や読解を通してそれに習熟し、語彙をふやしながらい、ドイツ語を正しく聞き、話し、読み、書く応用力を身につけます。そしていつか、ドイツ語が作り出す独特の深みのある世界に触れる、その準備をします。	文法を復習しながら練習を重ね、前期は特に動詞を中心に進めてゆきます。	◎	○		

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	-

<ディプロマ・ポリシー（DP）>

DP 1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP 2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP 3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP 4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業の概要、ねらい	到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎：特に関係する ○：関係する			
							DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
150010005	ドイツ語V	1	2年	西野 路代	1年次での学習事項をもとに、さらに深くドイツ語を学んでいきます。ドイツ語の文法は、「動詞に関すること」、「名詞に関すること」、「語順・構文に関すること」に大まかに分けられます。1年次で学習した個々の文法事項をこうした大きな括りで再度とらえ、体系的にドイツ語文法を俯瞰していきたく思います。ぐっと既習事項が整理されるはず。そのようにして身につけた確かなドイツ語文法の力をもとに、さらに発展的にドイツ語を学んでいきましょう。随時、映画やインターネットのニュースなどを用いて、ドイツの社会や文化についても学習していきたく思います。	まずは初級文法を完成させることを目指します。初級文法の全体像をとらえ、正しいドイツ語文法の知識に基づいてドイツ語を扱えるようになることが目標です。	◎	○		
150010006	ドイツ語VI	1	2年	網島 寿秀	ドイツ語Vからひき続き、1年次にひととおり見渡したドイツ語の文法の知識をより確かなものとするのがこのクラスのねらいです。そして、さまざまな練習や読解を通して、ドイツ語の知識をしっかりと身につけ、語彙をふやしなが、ドイツ語を正しく聞き、話し、読み、書く応用力を養います。そして近い将来には、ドイツ語が作り出す独特の深みのある世界に親しむことができるよう、その背景にあるものにもすこしづつ触れてゆきます。	文法を復習しながら練習を重ね、後期は名詞・形容詞からはいりその他の文法項目を総ざらいします。	◎	○		
150010006	ドイツ語VI	1	2年	西野 路代	これまでの学習を通して、ドイツ語を理解するために必要な文法事項をひととおり身につけたことになるわけですが、今度はその文法の知識を臨機応変に使いこなしていくことを考えていきます。童話、ニュース、インターネット、映画…など、さまざまな媒介を通してたくさんのドイツ語に触れていきましょう。授業ではあくまで正しい文法の知識に基づく丁寧なドイツ語の理解を目指します。自分の感覚や思い込み、単語の意味の羅列によるものではなく、文法の理解を通じてドイツ語が持つ構造をしっかりと捉えたいと、テキストの内容を理解する力を養いたいと思います。また、地誌や文化、社会、歴史などドイツに関するテキストに触れることによって、ドイツ語理解を深めるためのバックグラウンドともなるさまざまな知識も身につけて欲しいと思います。	正しいドイツ語文法の理解に基づき、辞書を使いながらも、ドイツ語のテキストから必要な情報を得ることができるようになることが目標です。	◎	○		
150010007	スペイン語V	1	2年	貴井 一美	初級文法の内容を復習しながらスペインに関する文章を購読していきます。初級文法の基礎をしっかりと固めると同時に、読むこと、話すこと、書くことを通じてスペイン語を実際に身につけることを目標としています。	スペイン文化についてスペイン語で理解する。	◎	○		
150010008	スペイン語VI	1	2年	貴井 一美	スペイン語3に引き続き、スペイン語の基礎となる初級文法を中心に学んでいきます。スペイン語3よりもさらに表現や会話を加えて実際に使えるスペイン語習得を目指します。	日常の簡単なフレーズをスペイン語で読み、書き、話す。	◎	○		
150010009	ロシア語V	1	2年	齊藤 毅	前年度の「ロシア語I、II」および「ロシア語III、IV」と同じ教科書を用い、後期の「ロシア語VI」と合わせて1年間で、ロシア語の初級文法、語彙、基本表現をしっかりと身につけることをねらいとします。文字の筆記体や、辞書の引き方など、これからさらにロシア語学習を続けてゆくために必要な練習を行ないます。1年次に習ったことの復習や、発音練習にも多く時間を割きます。授業の進め方は皆さんの習熟度を見ながら調節しますので、下のスケジュールは大まかな目安と考えてください。	ロシア語の初級文法、および基本語彙・表現を身につけることを目標にします。	◎	○		
150010010	ロシア語VI	1	2年	齊藤 毅	前期の「ロシア語V」の続編の授業です。詳しくは「ロシア語V」の欄を見てください。	「ロシア語V」の欄を見てください。	◎	○		
150010011	中国語V	1	2年	石川 照子	1年次で学習した文法や表現をブラッシュアップして、さらに豊かな読解力、表現力等を育成します。	中国語のより豊かな読解力と表現力等を習得することを目標にしています。	◎	○		
150010011	中国語V	1	2年	天神 裕子	この授業では、中級中国語の文法、表現および文化の違いを学び、それらを踏まえたうえで、実際に中国語話者とコミュニケーションできる学生を育成することをねらいとしています。そのため、授業では教科書その他の練習問題や単語テスト、本文のシャドウイングや暗唱等を通して文法、表現の定着をはかり、また日本と中国及び中華圏の文化の相違などを随時教科書や資料などを使い理解してもらい、コミュニケーションの裏付けとします。	この授業では、中国語中級レベルの文法事項を学び、また文化的背景の違いを盛り込んだ会話文を暗唱することで、中国語話者とコミュニケーションできる会話力を身につけることを目標としています。	◎	○		
150010012	中国語VI	1	2年	石川 照子	1年次及び2年次前期で学習した文法や表現をブラッシュアップして、さらに豊かな読解力、表現力等を育成します。	中国語のより豊かな読解力と表現力等を習得することを目標にしています。	◎	○		
150010012	中国語VI	1	2年	天神 裕子	この授業では、中級中国語の文法、表現および文化の違いを学び、それらを踏まえたうえで、実際に中国語話者とコミュニケーションできる学生を育成することをねらいとしています。そのため、授業では教科書その他の練習問題や単語テスト、本文のシャドウイングや暗唱等を通して文法、表現の定着をはかり、また日本と中国及び中華圏の文化の相違などを随時教科書や資料などを使い理解してもらい、コミュニケーションの裏付けとします。	この授業では、中国語中級レベルの文法事項を学び、また文化的背景の違いを盛り込んだ会話文を暗唱することで、中国語話者とコミュニケーションできる会話力を身につけることを目標としています。	◎	○		
150014001	韓国語V	1	2年	金 愛慶	韓国語Iと韓国語IIの課程を終了した学生を対象にしたクラスである。より高度な韓国語の文法と表現をほぼ一通り勉強し、それらを活用した会話の練習を行う。また、読み、書き、聞きとり全般の実力を養成して、ネイティブスピーカーとある程度意思疎通が可能になることを目指す。	韓国語で簡単なコミュニケーションが取れるレベルの実力を身につけることを到達目的とする。	◎	○		
150014002	韓国語VI	1	2年	金 愛慶	韓国語講座の最後の課程で、より高度な応用表現の練習に進む。授業の中では意志表現に必要な語彙と文法をたくさん学習することになるので、学生の皆さんには積極的に授業に臨むことで学習した内容が実力としてしっかりと見につくように努めてもらいたい。	この授業の全課程が終わった段階で、各自独学でより高いレベルの韓国語習得を継続してゆける実力がついているようにしたい。	◎	○		
151208001	アジア研究入門A I（文化と社会）	2	2年	佐藤 実	この講義では、中国の伝統的な世界観についてかんがえたいとおもいます。世界観とは、この世界をどういうものとしてみているのかということです。この中国の伝統的世界観は東アジアのもののみかたにおおきな影響をあたえています。この講義を通じて、これからアジアコースで学ぶ事柄に通底する思想をかんがえたいとおもいます。	中国の伝統的な世界観を理解する。	○	◎		
151208002	アジア研究入門A II（文化と社会）	2	2年	佐藤 実	この講義では「自然」というキーワードをめぐって、老荘思想とよばれる中国の伝統的な思想を中心に紹介します。「自然」であるというのはどういうことか。ナチュラルメイクは「自然」な化粧なのか。ナチュラルフードは「自然」な食べ物なのか。かんがえてみたいとおもいます。	「自然」という漢語の本来の意味を理解し、我々の自然観を再考できる知識を身につけること。	○	◎		
151208003	アジア研究入門B I（思想と宗教）	2	2年	銭 国紅	中国を知り、中国的思惟、中国的考え方を探ることを目的とする。授業は多数の原文や映像の資料を使い、一部の資料を訳したりすることも予定している。具体的には過去や現在の中国を示す中国語資料を訳し、それに対する問題提起と批評を試みる。さらにそれに関連する映像資料をも鑑賞し、映像の意味とその裏にある社会的、文化的背景との関係を探る。	この授業では、中国の文化、思想、宗教を学び、日中思想、文化、宗教の関連性を考察することにより、自分の言葉で、日中の文化、思想、宗教の特徴と異質を説明することができるようになることを目標としています。	○	◎		
151208004	アジア研究入門B II（思想と宗教）	2	2年	銭 国紅	中国を知り、中国的思惟と考え方を探ることを目的とする。授業は多数の原文や映像の資料を使い、一部の資料を訳したりすることも予定している。具体的には過去や現在の中国人の思惟や考え方を示す中国語資料を訳し、それに対する問題提起と批評を試みる。さらにそれに関連する映像資料をもいくつか鑑賞し、映像の意味とその裏にある社会的、文化的背景との関係を探る。	この授業では、中国の文化、思想、宗教を学び、それらの文化、思想、宗教と日本との関係を考察することにより、自分の言葉で、日中思想、文化、宗教の本質特徴を説明することができるようになることを目標にしています。	○	◎		
151208005	アジア研究入門C I（文学と芸術）	2	2年	赤松 美和子	東アジアにおける日本文化の受容と再生産「アジア研究入門C I（文学と芸術）」では、日本の現代文学、ドラマ、映画、J-POP、化粧品、ファッション誌などの東アジアにおける受容、再生産の考察をめぐって、同時代の東アジアへの理解を深めること、また日本文化を相対化し考えることを目的としています。	本授業では、日本と東アジアの関係を、文化の伝播を通して共時的に理解する視座を身につけることを目標としています。	○	◎		

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	-

<ディプロマ・ポリシー（DP）>

DP 1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP 2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP 3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP 4	特に比較文化の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業の概要、ねらい	到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎：特に関係する ○：関係する			
							DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
151208006	アジア研究入門C II（文学と芸術）	2	2年	赤松 美和子	本授業では、古楽府「木蘭辞」が、現在までの1500年に渡って、どのように伝承、受容、再生産され続けたのかを考察します。「木蘭辞」は、約1500年前に創作されたと考えられますが、20世紀以降も、京劇や映画などの題材として再生産され続けました。中国の文学、芸術を、「木蘭辞」の変容を通して、漢詩からディズニー映画まで、様々な形式で味わうと共に、20世紀以降、「木蘭辞」が書き換えられ再生産され続けた意味を、中国の近現代史と合わせて考察し、文化としての中国を相対化し、理解することも目的としています。また、「木蘭」にみられる異装（男装・女装）という行為の文化比較や、リボンの騎士、セーラームーン、プリキュアに至る女性戦士アニメ物語の歴史についても考察します。	本授業では、文化としての中国を通時的に理解するとともに、ジェンダーに関する文化表象の変遷を比較文化的に理解することを目標としています。	○	◎		
151208009	アジア文化研究B I（政治と経済）	2	3・4年	石川 照子	テーマ：「アジアの女性労働」「アジア」「女性」「ジェンダー」をキーワードとして、教材に沿ってそれらを考えてゆく力を育成します。具体的には、まず近現代日本の家族と女性について学びます。その上で、特に東アジアの女性・ジェンダーの問題について、労働に焦点を当てて比較・検討してゆきます。	「アジアの女性労働」の考察を通じて、改めてアジアという地域の特色や課題を理解する力を身に付けることを目標としています。		◎	○	
151208010	アジア文化研究B II（政治と経済）	2	3・4年	石川 照子	「上海 過去・現在・未来」中国は現在めざましい発展を遂げつつあります。しかしその一方で、格差の拡大、環境の悪化等の問題も深刻化しつつあります。こうした複雑で多層的な現代中国社会を、中国最大の経済都市上海について学ぶことを通じて理解する力を育成していきます。	上海の過去・現在について学び、未来を展望する中で、現代中国に対するより深い知識と理解を得て、さらに未来の中国についても検討してゆく力を身に付けることを目標としています。		◎	○	
151208011	アジア文化研究C I（芸術と思想）	2	3・4年	佐藤 実	この授業では、伝統中国が音楽をどのようなものとしてとらえていたか（楽論といいます）を読んでいきます。中国の楽論は紀元前からあるのですが、音楽だけではなく、書道や絵画にまでも影響をあたえています。そして、実はわたしたちの日常的なかんがえかたにつながるものでもあります。漢文でかかれた楽論を中心に中国の古典をよんでいきます。某大学の学園祭でヘヴィメタ禁止令がでたことがあるのですが、どうしてそうなるのでしょうか。	古典中国語に親しみ、中国古代における音楽観を理解すること。	○	◎		
151208012	アジア文化研究C II（芸術と思想）	2	3・4年	佐藤 実	この授業では、幸福をことほぐための図案あるいはモチーフについてまなびます。東アジアの伝統には吉祥画というジャンルがあります。一見、ただの動物や植物あるいはモノを描いているだけのように思える画であっても、それには幸せになることを祈るあるいは喜ぶ意味がこめられています。たとえば、松竹梅はなぜ貴ばれるのでしょうか。二つトリをモチーフにした絵がなぜ好まれるのでしょうか。泥棒はなぜ唐草模様の風呂敷を使うのでしょうか。東アジアの伝統的図案を解説した名著、野崎誠近『吉祥図案解題』を一つずつ読んでいき、これまで何も気にしていなかった絵柄が特別な意味をもつ伝統の中に我々が生きていることを再発見できればと思います。	古典中国語と近代日本文語文に親しみ、散見する吉祥図案の成立の仕方、そして意味を知る。	○	◎		
151208013	アジア文化研究D I（歴史と風土）	2	3・4年	銭 国紅	中日両国の西洋化とそれを生み出す精神的文化的風土を思考することを目的とする。近代中国と近代日本におけるグローバル化の歩みの比較を試み、その本質と特徴を明らかにするとともに、西洋だけでなく、日本からも刺激を受けた近代中国の等身大な姿を見つめ再評価する。前期では、久米邦武『米欧回覧実記』第5巻を近代語訳し、日本人のヨーロッパ像とアジア像を比較し、そこから何か見えるかを考える。具体的には生（原文）の資料を読み、初歩的な漢文調日本語を読解する一方、現在の中国・日本の新聞やマスコミに出ている関連記事や話題をも取り上げ、歴史と現在との関係性を思考する。	この授業では、歴史と風土からアジアの近代を学び、日本の「近代」と中国の「近代」との比較を試みることにより、自分の言葉で日中近代の相互関係や本質特徴を説明することができるようになることを目標としています。	○	◎		
151208014	アジア文化研究D II（歴史と風土）	2	3・4年	銭 国紅	中日両国の西洋化とそれを生み出す精神的文化的風土を思考する。近代中国と近代日本におけるグローバル化への歩みの比較を試み、その本質と特徴を明らかにするとともに、西洋だけでなく、日本からも刺激を受けた近代中国の等身大な姿を見つめ再評価する。後期は中国の米欧訪問記や日本訪問記を日本語に訳し、中国人の世界観や文明観を分析し、その意味するところを把握する。具体的には生（原文）の資料を読み、初歩的な学術中国語を読解する一方、現在の中国・日本の新聞やマスコミに出ている関連記事や話題をも取り上げ、歴史と現在との関係性を思考する。	この授業では、歴史と風土からアジアの近代を学び、日本の「近代」と中国の「近代」との比較を試みることにより、自分の言葉で日中近代の相互関係や本質特徴を説明することができるようになることを目標としています。	○	◎		
151210001	アジア文化研究A I（近代文学）	2	3・4年	赤松 美和子	本授業は、台湾の文学や映画を実際に読んだり見たりしながら、『台湾を知るための60章』を副読本として、台湾との関係をキーワードに20世紀の東アジアにおける日本について考察します。台湾文学を中心に、日本の植民地であった地域において日本語を使って書かれた文学を読むことを通じて、日本語とは、母語とは、日本文学とは何なのか、再認識してほしいと考えています。さらに、植民地統治者であった日本が戦後の台湾においてどのように表象されていったのかも合わせて分析します。また、戦後、台湾に渡ってきた国民党により中華民国が継続された後の台湾における「中国」に関する作品を通して、東アジアにおける歴史、政治への理解も深めます。受講者それぞれが20世紀の東アジアおよび東アジアにおける日本について、自分の見方を構築することを目的としています。	本授業は、受講者それぞれが20世紀の東アジアおよび東アジアにおける日本についての見方を構築し自分の言葉で語れることを目標としています。	○	◎		
151210002	アジア文化研究A II（近代文学）	2	3・4年	赤松 美和子	本授業は、台湾の文学や映画を実際に読んだり見たりしながら、『台湾を知るための60章』を副読本として、民主化と多文化をキーワードに20世紀の東アジアについて考察します。民主化以降の台湾の多文化と中華圏に関する文学や映画を通して、東アジアにおける歴史、政治への理解も深めながら、受講者それぞれが20世紀21世紀の東アジアに対する見方を構築することを目的としています。	本授業は、受講者それぞれが20世紀21世紀の東アジアに対する見方を構築し自分の言葉で語れることを目標としています。	○	◎		
151210003	アジア文化研究E I（宗教と文学）	2	3・4年	上垣外 憲一	宗教と文学の関わりは大変深いものがあります。「神話」を宗教的文学とみなせば、宗教と文学の関わりは、まだ文字のない部族社会からはじまっているのです。この授業では、宗教と文学の関わり、「古い」部分、つまり時代区分で言えば、歴史以前、古代、中世を扱います。主に日本における説話文学についてお話ししますが、日本の説話文学は、インド、中国、朝鮮と密接に結ばれており、視野はアジア大に拡大していきます。ひろく日本の宗教的説話を、海外の説話と比較しながら考えたいという受講者を歓迎します。	自分自身で、宗教と文学の関係に関するテーマを見つけて自ら考えるようになる。	○	◎		
151210004	アジア文化研究E II（宗教と文学）	2	3・4年	上垣外 憲一	この授業は、日本の時代で言えば、近世から近代、現代までの宗教と文学を講義します。日本のことも多いですが、それ以上に西洋近代における宗教と文学の問題を取り扱います。日本の近代は、基本的に西洋の近代化の反映であり、西洋で起こった「宗教VS文学」問題の理解なしには、日本や中国の近代の状況を理解できないからです。話の舞台が「東奔西走」しますが、それが近現代の世界の特徴でもあるのです。視野を広くして、講義の行く先についてきてください。	宗教と文学の関係を、自分の体験と合わせて考えることができること。	○	◎		
151308001	ヨーロッパ(研究入門A I（文化と社会）	2	2年	渡邊 顕彦	古代ギリシアの文化遺産を学ぶための手がかりとして、古典文学およびギリシア神話の基本テキスト『オデュッセイア』を読み解きます。また同作品を翻訳したアメリカ映画「オー・ブラザー」の鑑賞とディスカッションを通し、ギリシア古典の現代にいたる意義について考えます。要するに西洋における古典的教養の半分を成す古代ギリシア文学を、その再構築可能な「実像」と、現代における受容という二つの側面から検討し、理解に努めることがこの授業の目的です。	この授業では、『オデュッセイア』の内容、成立環境および成立以降の受容を学び、ヨーロッパ文化の源としての古代ギリシアについて考察することにより、ヨーロッパの時間的・空間的広がりや理解することが出来るようになることを目標としています。	○	◎		
151308002	ヨーロッパ(研究入門A II（文化と社会）	2	2年	渡邊 顕彦	古代ローマの文化遺産を学ぶための第一歩として、ラテン文学の基本テキスト『ガリア戦記』を日本語訳で読解します。また『ガリア戦記』を基に製作されたフランスの映画やほか古代ローマを部分的に扱う映像作品を基にローマ帝国の現代における意義について考えます。要するに西洋における古典的教養の半分を成すラテン文学を、その再構築可能な「実像」と、現代における受容という二つの側面から理解することがこの授業の目的です。	この授業では、『ガリア戦記』を学び、古代ローマの歴史とその後世に及ぼした影響を考察することにより、ヨーロッパの時間的・空間的広がりや理解することができるようになることを目標としています。	○	◎		

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	-

<ディプロマ・ポリシー (DP)>

DP 1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP 2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP 3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP 4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業の概要、ねらい	到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎：特に関係する ○：関係する			
							DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
151308003	ヨーロッパ研究入門 B I (思想と宗教)	2	2年	上野 未央	キリスト教は、ヨーロッパの政治や社会と密接に関わり合ってきました。この授業では、ヨーロッパ文化を学ぶための基礎として、キリスト教とヨーロッパの人々との関わりを歴史的に考察します。15世紀ごろまでのヨーロッパにおけるキリスト教の歴史を見ていきますが、理解を深めるために、中世を舞台にした映画なども利用する予定です。授業後にはコメントを提出してもらい、授業をふりかえる機会を設けるとともに、次の授業の導入で、いくつかのコメントを紹介し、いろいろな意見を紹介していきたいと思います。コメントを利用して受講生の関心・理解度を反映させながら授業を進めていきます。	比較文化学部ヨーロッパ文化コースで学習を進めていくにあたり、ヨーロッパにおけるキリスト教に関する基本的なことがらを学ぶことを目標とします。	○	○		
151308004	ヨーロッパ研究入門 B II (思想と宗教)	2	2年	上野 未央	16世紀ヨーロッパのキリスト教について概観したあとで、聖母マリアに焦点を当てます。聖母マリアをめぐる歴史を学ぶことで、ヨーロッパ文化の底流を学ぶことをねらいとしています。聖母マリアは今なお、世界中で崇敬対象となっています。この授業では、聖母マリアまつわる伝説や、マリアを賛美した歌、マリアを描いたステンドグラス・絵画など、様々な史料を提示しながら、聖母マリア崇敬の変容と、その背景にある歴史について考察します。主に宗教改革期までを取り上げますが、講義の最後では、日本に伝えられた聖母マリア像、現代のマリア崇敬についても考察したいと思います。また、毎回コメント・シートを提出してもらって、受講生の関心や理解度を考慮して授業を進めます。	聖母マリア崇敬の歴史を学ぶことを通じて、キリスト教の歴史について、基本的な事項を学ぶことを目標とする。	○	○		
151308005	ヨーロッパ研究入門 C I (イギリス文学と芸術)	2	2年	安藤 聡	イギリス文学史の各時代を代表する作家とその主要作品を選び、毎時間原則として一作家一作品を採り上げ、可能な限り多様な角度から分析します。文学史上の必読作品を一通り網羅することよりも、各時代に典型的に現れた作品を鳥瞰することで、イギリス文学とイギリス文化史 (特に絵画) の全体像を捉えることが目標です。取り上げる予定の作家と作品は以下のとおりですが、時勢や受講者の関心の所在に応じて変更することもあり得ます。	英国文学全般 (と英国絵画との関連) に対する理解を深めることと、文学作品を鑑賞し批評する方法を習得することを目標とします。	○	○		
151308006	ヨーロッパ研究入門 C II (イギリス文学と芸術)	2	2年	安藤 聡	英国の児童文学 (特にファンタジー) の中から代表的な作品を選び、時代背景や文化的背景との関わりをも視野に入れつつ、その主題をさまざまな角度から分析します。英国には優れたファンタジー作品が非常に多いので、その中から特徴的な作品をいくつか抽出して、原則として毎時間一作品を取り上げて考察します。取り上げる作品は以下の通りですが、時勢や受講生の関心の所在に応じて変更することもあり得ます。	子供の頃とは異なった視点で児童文学を「再発見」し、児童文学を大人の目で鑑賞、批評する方法を習得することと、児童文学を通して英国文化に対する理解を深めることを目標とします。	○	○		
151308007	ヨーロッパ研究入門 D I (フランス文学と芸術)	2	2年	神田 浩一	「人間の誕生」と「芸術の誕生」との間にはイコールで結べるほどの強い結びつきがあります。実際に芸術活動を行う生き物は人間だけです。したがって芸術を知ることとは人間を知ることに通じるはずですが、本講義では、本来的には、人間と密接に結びついたものであったはずの芸術活動が、社会システムの一部に組み込まれ卑小化してしまった20世紀の芸術を中心に取り上げていきます。そこには「制度化された「芸術」に対する批判を見て取ることができるでしょう。そして、その「制度としての芸術」への抗議を通して、20世紀以前の芸術活動も見ていきます。導きの糸としては、20世紀前半のフランスに発生した「シュルレアリスム」を中心に据えて、20世紀の文学と芸術活動を考察していきます。また20世紀の芸術活動を理解するために参照となった過去の作品も見ていくことで他の時代の芸術作品にも触れていきたいと思います (授業のテーマとは別枠で毎回の授業時に20世紀の代表的な作品を紹介します)。芸術について考え、芸術作品に触れることは、大学生となった皆さんがものを考え、認識を深める絶好の機会になるはずですが、	大きく2つあります。1. 20世紀の芸術運動の大きな流れを把握しそれを説明できるようになる。2. 芸術を享受する精神を身につけて人生を豊かなものとする。	○	○		
151308008	ヨーロッパ研究入門 D II (フランス文学と芸術)	2	2年	神田 浩一	前期の続きとなります。具体的なスケジュールは、およそ次のように予定しています。前期の授業をふまえ、学生のみさんの意見を取り上げて、後期は。映画、漫画、ポップスなどのいわゆる「サブカルチャー」を中心に取り上げます。また前期に引き続き、「芸術」に親しむために、実際の「創作活動」も行います。(以下に示すのはあくまでもおおまかなスケジュールであり、受講生の関心・理解度に応じて変更する可能性があります)。	大きく2つあります。1. 20世紀の芸術運動の大きな流れを把握しそれを説明できるようになる。2. 芸術を享受する精神を身につけて人生を豊かなものとする。	○	○		
151308009	ヨーロッパ研究入門 E I (ドイツ文学と芸術)	2	2年	原 研二	この授業ではドイツ・オーストリア・スイス・文化圏を中心に文化史上のポイントを学び、テーマの立て方、比較の仕方、考えをまとめていくやり方を育成することを目的とします。1) 何がドイツ文化? 2) ルネサンス/カーニバル文学 3) マニエリスム文化 4) 30年戦争 5) 牧歌文化運動—オペラ・宮廷文学・宮廷美術 6) フランス革命の影響 7) 19世紀文化革新運動および時代順に中世から1800年頃まで、美術・バレエ・オペラを素材にしなが、時代のさまざまな見方を提供する。	この授業では自分の興味を積極的に養い、明確にする。	○	○		
151308010	ヨーロッパ研究入門 E II (ドイツ文学と芸術)	2	2年	原 研二	今学期は19世紀、20世紀の文化史を学ぶ。とくに第1次世界大戦を予兆する芸術、破壊的オペラ、挑発的バレエを中心に考察し、現代に至るモダンな潮流を概観することにより、視野の広い文化観と自分個人の関心を涵養することを目的としています。	この授業では一目瞭然にテーマの分かるノートを取りかたを学び、この技術を手がかりに主体的にテーマを描き出せるようになることを目標としています。	○	○		
151308011	ヨーロッパ文化研究 A I (地中海文明とヨーロッパ)	2	3・4年	貫井 一美	ギリシアに始まるヨーロッパ美術の特徴について学びます。地中海の文化がどのようにヨーロッパ文化に継承されているかに留意して、地中海世界のギリシア、ローマ、ビザンティン美術の特徴を概観し、その後、それらがヨーロッパのキリスト教美術やルネサンス以降の美術にどのような影響を与えたかを外観します。	西洋美術史の流れを理解すること	○	○		
151308012	ヨーロッパ文化研究 A II (地中海文明とヨーロッパ)	2	3・4年	貫井 一美	スペインの美術 (主として絵画) の歴史を軸に、ヨーロッパとスペインの美術の相違点や共通点、影響関係を学ぶことを目的とする。中世から20世紀までのスペイン美術の代表的な芸術家とその作品を取り上げ、時代によって変わっていくスペインの美術を概観したい。	スペイン美術の流れを通してヨーロッパ文化の諸相を学ぶ	○	○		
151308013	ヨーロッパ文化研究 B I (政治と経済)	2	3・4年	井上 淳	※履修登録前に必ずシラバスを一読すること。本授業は予習、発言・発表が求められると同時にmanabaをよく使用します。※今年度、試みとしてヨーロッパ、EUに関係するゲストを授業にお迎えできないか、打診中です。※メディア等でよく目にする「EU (ヨーロッパ連合)」は、現代ヨーロッパを理解するためにも、国際社会の動向、ひいてはビジネス環境を理解するためにも、知らなくてはならない存在である。EUの動向は、ヨーロッパ各国の政治経済はもちろん、アメリカや日本、途上国、国連など、他者にもかなりの影響を与えており、「知りませんでした」では済まされない。この授業は、EUの基礎とつなげEU発展の歴史を学びの対象にする。なぜ「統合」そして「EU」がヨーロッパに必要なものか、EUは何をしてきたのか、といった、EUについての基礎的な理解を深める。第二次世界大戦直後、1950年代、60年代…と年代ごとにヨーロッパがどのような課題に直面し、そうした課題をどのように統合に結びつけたのかを理解してもらいたい。※ことがうまく運ばば、EUや現代ヨーロッパについてよく知るゲストを招いて話を聞く機会をもうける予定です。	この授業では、ヨーロッパの特定の国を学ぶのではなく、ヨーロッパ諸国が集団的に問題に取り組んでいるEU (ヨーロッパ連合) についての理解を深めます。EUは30近いヨーロッパの国が加盟した組織で、日常の貿易、文化交流、気候変動対策などで日本、世界と深い関わりをもち、大きな影響を与えています。そして、ヨーロッパ諸国が加盟しているからには、加盟国にかわって (あるいは加盟国のために) 何かをしている存在なのです。いったいEUとはどのような組織なのかを学ぶために、この授業では第二次世界大戦後に注目し、EUの歴史的発展を学びます。1950年代、60年代…とそれぞれの時代になぜEUが必要とされてきたのかを学びます。教材を使って予復習、授業での学びを積み上げた結果、戦後から現代にいたる諸時代の特徴、ヨーロッパが直面した課題、EUが何をしているのかを関連づけて理解し、自分でEUの発展につき体系的に説明できるようにすることをめざします。		○	○	

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	-

<ディプロマ・ポリシー（DP）>

DP 1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP 2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP 3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP 4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業の概要、ねらい	到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎：特に関係する ○：関係する			
							DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
151308014	ヨーロッパ文化研究B II（政治と経済）	2	3・4年	井上 淳	※履修登録前に必ずシラバスを一読すること。本授業は予習、発言・発表が求められると同時にmanabaを使用するため、受け身の授業がよいと思う人には向きません。※「ヨーロッパ文化研究B I」では、EU（ヨーロッパ連合）発展の経緯に対する基礎的な理解を深めてきた。その知識を踏まえて、本講義ではテーマごとのEUの取り組みを学ぶ。EUがどのような原理のもと運営されているか、誰が何をどのように決めているのか、何がEUの仕事なのか、国とEUとで役割や仕事がつぶつからないのか、統合と各国の多様性は矛盾しないのか、などといったトピックについて、なるべく多くのテーマに触れながら、現代ヨーロッパ情勢に対する理解を深めてもらいたいと考えている。文化研究BIで時系列的な理解を深め、本講義のBIIでトピック別の理解を深めることによって、現代ヨーロッパ（EU）に対する理解に厚みを持たせること、メディアでとりあげられるEUについて分かるようになることが、本講義の究極的な目標である。また、講義期間の中盤で欧州のエネルギー問題についての本を輪読し、日本と欧州のとりくみを比較する。	文化研究BIでEUの歴史について理解を深めたことを踏まえて、この授業では、トピックごとのEUの取り組みを学びます。どのようにEUが運営されているのかという具体例を学んだほうが、EUが何かを理解することができる場合も多いからです。とりわけEUはヨーロッパ諸国によって生み出された国際組織です。そこにはルールがあります。EUがどのようなルールに基づいて運営されているのかをテーマごとにみていくことは、実社会で使わなくても、EUの運営論理のなかに「ヨーロッパ的」なるものがあることを理解することは、比較文化学部の学生にとって大きな発見になるでしょう。とりわけ、授業中盤で扱うエネルギー事情についての話題は、日本とヨーロッパ諸国に文化的、社会的にどのような差があるのかを探究するきっかけを与えてくれます。授業の教材の予復習と授業参加を通して、EUの分野ごとの運営を理解するだけでなく、そこに根ざしているヨーロッパ的な価値観をとらえることができるようになります。	○	◎	○	
151308015	ヨーロッパ文化研究C I（芸術と思想）	2	3・4年	泉 美知子	この（通年）授業では、美術館について、その成立の歴史から今日のあり方までを学びます。前期は、ヨーロッパな著名な美術館をさまざまなテーマのもとに取り上げて、美術館の歴史や理念の基本的知識を学びます。美術館という制度が、ヨーロッパの文化的な歴史のなかでどのように成立し、近代社会のなかでその理念がどのように育まれてきたのか、コレクションや文化財保護の問題を絡めて学びます。さらに、日本における美術館制度の受容や発展についてみていきます。	美術館の成り立ちを説明できるようになる	○	◎		
151308016	ヨーロッパ文化研究C II（芸術と思想）	2	3・4年	泉 美知子	この（通年）授業では、美術館について、その成立の歴史から今日のあり方までを学びます。後期は、世界の美術館の状況を知り、今日の社会において（とりわけ日本において）、美術館がどのような場所であるべきかについて考えることを到達目標とします。ここ数年、ヨーロッパの大美術館を取り上げた映画ドキュメンタリーの公開が続きました。またルーヴル美術館のバンド・デシネ（フランス語でマンガを意味する）プロジェクトによって、多くのマンガ作家が美術館をテーマにした作品を発表しています。前期で学んだ知識を踏まえて、後期の授業では、美術館を今日の文脈で考察することを目標とし、美術館に関する批評を読解したうえで、美術館を取り上げた映画やドキュメンタリー、マンガといった作品群を通して、美術館という対象をクリティカルにとらえます。	今日の美術館について議論できるようになる	○	◎		
151308017	イギリス文化研究I（歴史と風土）	2	3・4年	安藤 聡	ローマ時代から現在までの、イングランドを中心とした英国史を概観します。各時代を満遍なく扱うのは不可能なので、以下の14の時代に焦点を当てて、文化的な背景を重視しつつ、現在の英国が形成された過程の理解に努めます。	ヨーロッパ文化や英語を学ぶ上で重要な英国史に関する知識を整理し、現在の英国文化を理解するための基礎となることを目標とします。	○	◎		
151308018	イギリス文化研究II（歴史と風土）	2	3・4年	安藤 聡	中世から現在までの英国庭園の歴史を、とくに文学や美術との関連を重視しながら概観することによって、比較文化論的な視点から（イタリア、フランス、オランダとの比較を通して）英国文化の本質的な要素を浮き彫りにしたいと思えます。本講義の結論を先に述べれば、英国文化のエッセンスを表わすキーワードは「不規則性」と「多様性」と「中庸」です。このことを、各時代の代表的な庭園と絵画、文学作品などの分析を通して論証します。	庭園を通して英国文化の本質を理解することを目標とします。	○	◎		
151308019	フランス文化研究I（歴史と風土）	2	3・4年	武田 千夏	近年ヨーロッパでは個々の国民国家ではなく、ヨーロッパをひとつのまとまりとして捉えるアプローチが主流となりつつあります。これは世界のグローバル化、ヨーロッパ全体の動き（EUなど）と連動していますが、同時にこのような手法は決して新しいものではありません。19世紀フランスを代表する歴史学者、そして政治家としても知られるF.ギゾーは『ヨーロッパ文明史』の名のもと、ヨーロッパ中世、宗教改革などを通過したヨーロッパは、次第に、議院代表制に基づく近代へと突入した、と主張し、フランス革命をヨーロッパ的視点から捉えました。逆説的ですが、欧州の一国について理解するためには、同時にその国としての成り立ちについても知る必要があります。フランスは、海を隔てたイギリス、また隣接するドイツ、イタリア、ベルギー、オランダなどと異なる史的特徴を持っています。フランスは今日ヨーロッパの中でも出生率の高さで際立っていますが、それがなぜかと考えたとき、ヨーロッパではなくフランスに固有の歴史に遡らないと理解できません。またフランス国内を見ても地方の独自性が際立っています。自動車で一時間ドライブしただけで、異なる食文化が根付いた地域の生活を垣間みることができ、フランス語が国語となる以前には、フランス語以外に、複数の言語（patois）が存在していました。このようにフランスについて理解する際、地方、国、ヨーロッパ（そして世界）などの複合的な視点を持つことが望まれます。授業では、周辺諸国の事情も視野に入れつつ、フランス史の主要な政治、社会、文化の流れ（ケルト、ガロローマ、中世フランス、絶対王政、フランス革命などの政治的特徴、そして今日のフランスをより直接的に形成した19、20世紀、そしてフランスといえは文化）をおおまかに掘り訓練をすると同時に、どのようにして現代フランスの社会、政治、文化が形成されてきたのかについて、多角的に取りあげます。授業は教員の講義を中心に進めていきますが、文献の購読、学生による反応も重視します。さらに、意外に知られていない現代のフランスの素顔を紹介するためにDVD you tubeなどの映像も紹介します。グルメ、おしゃれ、きれいなどの画一的なイメージを乗り越えて、フランスの真の魅力を紹介していきます。積極的にフランスについて学ぼうという気概を持った学生を歓迎します。	フランスの通史に精通するとともに、複雑な社会、文化、政治的要因の絡んだ現代フランスの事情について理解できるようにする。		◎	○	
151308020	フランス文化研究II（歴史と風土）	2	3・4年	武田 千夏	最近、ヨーロッパ史を個々の国民国家ではなく、ひとつのまとまりとして捉えるアプローチが主流となりつつあります。これはヨーロッパ全体の動き（EUなど）と連動していますが、このような手法は決して新しいものではありません。19世紀フランスを代表する歴史学者、そして自由主義的政治家としても知られF.ギゾーは『ヨーロッパ文明史』の名のもと、ヨーロッパ中世、宗教改革などを通過したヨーロッパは、次第に、議院代表制に基づく近代へと突入した、と主張し、フランス革命をヨーロッパ的視点から捉えました。逆説的ですが、欧州の一国について理解するためには、同時にその国としての成り立ちについても知る必要があります。フランスは、海を隔てたイギリス、また隣接するドイツ、イタリア、ベルギー、オランダなどと異なる史的特徴を持っています。フランスは今日ヨーロッパの中でも出生率の高さで際立っていますが、それがなぜかと考えたとき、ヨーロッパではなくフランスに固有の歴史に遡らないと理解できません。またフランス国内を見ても、実は地方の独自性が際立っています。自動車で一時間ドライブしただけで、異なる食文化が根付いた地域の生活を垣間みることができ、フランス語が国語となる以前には、フランス語以外に、複数の言語（patois）が存在していました。このようにフランスについて理解する際、地方、国、ヨーロッパなどの複合的な視点を持つことが必要となります。授業では、周辺諸国の事情も視野に入れつつ、フランス史の主要な政治、社会、文化の流れ（ケルト、ガロローマ、中世フランス、絶対王政、フランス革命、そして今日のフランスをより直接的に形成した19、20世紀）をおおまかに掘り訓練をすると同時に、どのようにして現代フランスの社会、政治、文化が形成されてきたのかについて、多角的に取りあげます。授業は、教員の講義を中心に進め、同時に文献の購読、それについての議論も行います。さらに、意外に知られていない現代のフランスの素顔を紹介するためにDVD you tubeなどの映像もたくさん紹介します。グルメ、おしゃれ、きれいなどの画一的なイメージを乗り越えて、フランスの真の魅力を紹介していきます。	1年を通じて、フランスの通史に精通するとともに、複雑な社会、文化、政治的要因が絡んだ今日のフランスの事情について理解できるようにする。		◎	○	
151308021	ドイツ文化研究I（歴史と風土）	2	3・4年	西野 路代	みなさんはドイツという国にどのようなイメージをもっているでしょうか。戦前の西洋文化の輸入先として日本にとってドイツは影響力のある国でもありますが、いまや世界の大国としての存在感も放っています。しかし、統一国家としての歴史は浅く、ヨーロッパの中央に位置するという地理的条件も影響し、分断と統合の激動の歴史を展開してきた国でもあるのです。この授業では特に現代史に焦点をあてますが、まずはドイツ史全体をたどりつつ、二つの世界大戦を含む激動の時代に至るまでの流れを見ていきたいと思います。この1、2年だけでも世界情勢は大きな動きを見せているといえますが、今まさに起きている変化について考えるうえでドイツ史はさまざまな示唆を含んでいるといえるでしょう。	第一次世界大戦を経て第二次世界大戦に至るまでのドイツ史を概観することにより、ドイツおよびヨーロッパがたどってきた歴史的背景を理解するとともに、現代の世界情勢にも興味・関心に向け、現代社会のさまざまな問題について考えることのできる視点をもつことが目標です。	○	◎		

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	-

<ディプロマ・ポリシー (DP)>

DP 1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP 2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP 3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP 4	特に比較文化学の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業の概要、ねらい	到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎：特に関係する ○：関係する			
							DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
151308022	ドイツ文化研究Ⅱ (歴史と風土)	2	3・4年	西野 路代	前期はドイツ史をたどりつつ第二次世界大戦にいたるまでの流れを概観してきましたが、後期はドイツ戦後史に焦点をあてます。戦後のドイツも、東西ドイツ分断、ベルリンの壁建設、壁の崩壊、ドイツ再統一など、時代に大きく揺り動かされます。また、第二次世界大戦への反省からドイツが取り組んできた「過去の克服」というテーマは、国際社会で戦争責任について語られるときに現代でもしばしば取り上げられるものでもあります。ドイツ戦後史には現代に生きる私たちが考えるべき問題が数多く含まれているといえるでしょう。こうした問題を考えるためにも、ドイツ戦後史における個々の出来事に対する理解を深めることがこの授業のねらいです。	ドイツ戦後史を理解するとともに、現代の世界情勢の動きを興味、関心をもって見つめる目を養うことが目標です。	○	◎		
151308023	ロシア文化研究Ⅰ (歴史と風土)	2	3・4年	齋藤 毅	後期の「ロシア文化研究Ⅱ」と合わせて1年間で、ロシア帝国、ソヴィエト連邦、そして現在のロシア連邦の歴史をたどりながら、今日もなお「ユーラシア国家」として、国際社会の中で重要な位置を占めているロシアという国の風土がどのように形成されてきたのかを考えます。ロシアのみならず、西欧、東欧、カフカス・中央アジアなどの旧ソ連地域、中国をはじめとするアジア、そして私たちが暮らす日本などとの関わりにも、つねに目を配りますので、この授業には「ロシアを中心に見た世界史入門」という側面もあります。ポイントとなるテーマは次の通りです。 (1) ヨーロッパとアジアの間にまたがる、ロシアの「ユーラシア国家」としての性格は、どのように形成されてきたのか (前期の主要テーマ)。(2) 世界初の「社会主義国家」であるソヴィエト連邦は、どのような背景から生まれ、どのように崩壊していったのか (後期の主要テーマ)。(3) ソ連崩壊後、現在のロシア連邦は、国際社会の中でどのようなポジションにあるのか。(4) 私たちの国、日本は、これまでロシアとどのような関係を有してきたのか。これからどのような関係を築いてゆけばよいか。	最終的に、ロシアに関するニュース、新聞記事、専門書などを自力で理解できる程度の、ロシアについての基本的知識を身につけることを目標とします。	○	◎		
151308024	ロシア文化研究Ⅱ (歴史と風土)	2	3・4年	齋藤 毅	前期の「ロシア文化研究Ⅰ」の続きの授業です。前期の授業を受講していることを前提に授業を進めます。詳しくは「ロシア文化研究Ⅰ」の欄を見てください。	「ロシア文化研究Ⅰ」の欄を見てください。	○	◎		
151408001	アメリカ研究入門AⅠ (文化と社会)	2	2年	佐藤 円	アメリカの文化と社会の特質を一言で表すならば、「多様性」という言葉を使うことが適当であろう。なぜなら、アメリカ社会は世界中から集まった非常に多様な人々から構成されており、その多様な人々がそれぞれの出身地から持ち込んだ個性豊かな文化は、必ずしも主流とされる文化に同化吸収されることなく、様々な形で社会に影響を与え続けているからである。しかし日本では、このアメリカの文化的・社会的多様性について、これまで十分に理解されてきたとは言い難い。そこでこの講義では、人口統計などを利用してアメリカ社会の人種的・民族的多様性について解説し、それがアメリカの文化や社会、そしてアメリカ文化研究に与える影響を考察していく。	この講義では、アメリカ社会がいかに人種・民族的に多様であるかを学び、それがアメリカ文化に及ぼす影響について検討することによって、アメリカ文化のダイナミズムをより多角的に理解できるようになることを目標としている。		◎	○	
151408002	アメリカ研究入門AⅡ (文化と社会)	2	2年	佐藤 円	アメリカの文化と社会の特質を一言で表すならば、「多様性」という言葉を使うことが適当であろう。なぜなら、アメリカ社会は世界中から集まった非常に多様な人々から構成されており、その多様な人々がそれぞれの出身地から持ち込んだ個性豊かな文化は、必ずしも主流とされる文化に同化吸収されることなく、様々な形で社会に影響を与え続けているからである。しかし日本では、このアメリカの文化的・社会的多様性について、これまで十分に理解されてきたとは言い難い。そこでこの講義では、アメリカの文化的・社会的多様性がいかなる歴史環境の下で形成されてきたのか、アメリカへ人類が最初に移り住んだ時代から現代に至るまで順を追って説明し、この問題に関する受講者の理解を深めていきたい。	この講義では、アメリカの歴史を学び、アメリカの発展に関わってきた多様な人々の営みを検討することを通して、アメリカ文化のダイナミズムをより多角的に理解できるようになることを目標としている。		◎	○	
151408003	アメリカ研究入門BⅠ (思想と宗教)	2	2年	高田 馨里	アメリカ合衆国に暮らす人々は、信仰があつといわれる。また、政治と宗教の関係も非常に密接である。それゆえ、アメリカの思想と宗教を学ぶことは、アメリカ人の日々の暮らしから政治問題までも理解することにつながる。本授業では、アメリカ合衆国の歴史と現在における思想と宗教を取り上げ、「アメリカ的価値観」や「アメリカ的信条」の源泉が歴史的にどのように形成されてきたのかを概観する。また、宗教がどの程度アメリカ社会の変動と相互連関していたのかを理解することが本授業のねらいである。時代は、植民地時代から20世紀初頭までを対象とし、アメリカ史の基礎を学びながら、アメリカの思想と宗教について理解を深めていく。	植民地時代から19世紀後半のアメリカにおける思想と宗教を歴史を通じて理解する。	○	◎		
151408004	アメリカ研究入門BⅡ (思想と宗教)	2	2年	高田 馨里	20世紀のアメリカ合衆国の思想と宗教を知ることは、20世紀のアメリカ政治を理解することにつながる。1920年代に登場する福音派の役割は注目に値する。また、人種差別撤廃を目指した公民権運動に、黒人教会が果たした役割は大きい。さらに、1970年代に政治化した「キリスト教右派」は、様々な政策に影響を及ぼす傾向を強めてきた。本授業では、アメリカ合衆国の歴史と現在における思想と宗教を取り上げ、「アメリカ的価値観」や「アメリカ的信条」の源泉が歴史的にどのように形成されてきたのかを概観する。また、宗教が20世紀のアメリカ社会の変動といかに相互連関していたのかを理解することが本授業のねらいである。	20世紀から現代にいたるアメリカの思想と宗教を歴史から学ぶ。	○	◎		
151408005	アメリカ研究入門CⅠ (文学と芸術)	2	2年	米塚 真治	「歴史はすべて主観的である」と19世紀アメリカの思想家エマーソンは言っています。「客観的な歴史」になど意味はない。歴史とは、個人が過去の人になりきって、その生活を追体験してみ、それで初めて意味を持つのだ。そもそも人間とは、自分がどこから来たかを知ることによって、これからどこへ行くのかを知ろうとする存在ではないか? —彼はそう語るのです。エマーソンの見方に従えば、過去の人々が書いた文学作品や芸術作品に触れることは、歴史の中に「主観的」に入り込む (そして私たちの将来を見通す) ための恰好のチャンスになるのではないのでしょうか。テキストと配付プリントを併用し、おおむね時代背景、文学思潮、個々の文学者、作品引用という流れで解説してゆきます。解説の際には、現在の事象や現在の日本への言及も頻繁になされるはずですが、それはたんに皆さんの理解を補助するためではなく、授業の目的 (私たち自身が生き延びる術を知ること) そのものです。以上を通じて自他の文化比較や多文化共生に関わる諸能力の涵養をめざします。	1. 受講者はアメリカ合衆国の文化史・社会史上のエピソードと、後世に名を残す人々の思想に大量に触れることができ、アメリカ文化を深く理解するための具体的材料を手に入れる。2. 困難を生き抜いた実在・架空の人々のさまざまな発想に触れることで、自分自身の将来を見通し、サバイバルするためのヒントを手に入れることができる。	○	◎		
151408006	アメリカ研究入門CⅡ (文学と芸術)	2	2年	米塚 真治	「歴史はすべて主観的である」と19世紀アメリカの思想家エマーソンは言っています。「客観的な歴史」になど意味はない。歴史とは、個人が過去の人になりきって、その生活を追体験してみ、それで初めて意味を持つのだ。そもそも人間とは、自分がどこから来たかを知ることによって、これからどこへ行くのかを知ろうとする存在ではないか? —彼はそう語るのです。エマーソンの見方に従えば、過去の人々が書いた文学作品や芸術作品に触れることは、歴史の中に「主観的」に入り込む (そして私たちの将来を見通す) ための恰好のチャンスになるのではないのでしょうか。テキストと配付プリントを併用し、おおむね時代背景、文学思潮、個々の文学者、作品引用という流れで解説してゆきます。解説の際には、現在の事象や現在の日本への言及も頻繁になされるはずですが、それはたんに皆さんの理解を補助するためではなく、授業の目的 (私たち自身が生き延びる術を知ること) そのものです。以上を通じて自他の文化比較や多文化共生に関わる諸能力の涵養をめざします。	1. 受講者はアメリカ合衆国の文化史・社会史上のエピソードと、後世に名を残す人々の思想に大量に触れることができ、アメリカ文化を深く理解するための具体的材料を手に入れる。2. 困難を生き抜いた実在・架空の人々のさまざまな発想に触れることで、自分自身の将来を見通し、サバイバルするためのヒントを手に入れることができる。	○	◎		

<学部・学科・専攻名>

学部名	比較文化学部
学科名	比較文化学科
専攻名	-

<ディプロマ・ポリシー（DP）>

DP 1	自他の文化の比較を通じて、国際理解を深め、柔軟、かつ主体的に問題解決をはかる能力。
DP 2	多文化共生の時代に専門知識を活用して社会に貢献する能力。
DP 3	多文化共生の時代に求められる新たな文化を創造する能力。
DP 4	特に比較文化の講義や演習、卒業論文を通じて主体性を養い、社会集団においても主導的役割を果たしていく能力。

科目コード	科目名	単位	配当年次	担当者	授業の概要、ねらい	到達目標	各DPと授業の到達目標との関係 ◎：特に関係する ○：関係する			
							DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
151408007	アメリカ文化研究 A I（伝統と倫理）	2	3・4年	羽鳥 修	アメリカ合衆国（以下、アメリカ）は、一方で世界に名だたる物質文明の国であり、他方では現在もなお「宗教的な」国でもあります。こうしたアメリカがもつ「二つの顔」を私たちはどのように理解したらよいのでしょうか。例えば、アメリカは一方で独立宣言において「すべての人間の平等」を謳いながら、他方では奴隷制を継続したし、奴隷制廃止後には人種差別を容認していた歴史をもつ。こうした矛盾する理解困難なアメリカについて、本授業ではアメリカの歴史を辿りながら、伝統の形成過程と伝統が変化する過程を考察することを目指します。	歴史資料（史料）を丹念に読み、歴史的事象の「解釈」する力を養成する。また、一つひとつの歴史的事象が、どのように関連しているのか、同時に歴史事象が現在とどのように関わっているのかを総合する力を身に付ける。	○	◎		
151408008	アメリカ文化研究 A II（伝統と倫理）	2	3・4年	羽鳥 修	アメリカ合衆国（以下、アメリカ）は、一方で世界に名だたる物質文明の国であり、他方では現在もなお「宗教的な」国でもあります。こうしたアメリカがもつ「二つの顔」を私たちはどのように理解したらよいのでしょうか。例えば、アメリカは一方で独立宣言において「すべての人間の平等」を謳いながら、他方では奴隷制を継続したし、奴隷制廃止後には人種差別を容認していた歴史をもつ。こうした矛盾する理解困難なアメリカについて、本授業ではアメリカの歴史を辿りながら、伝統の形成過程と伝統が変化する過程を考察することを目指します。	歴史資料（史料）を丹念に読み、歴史的事象の「解釈」する力を養成する。また、一つひとつの歴史的事象が、どのように関連しているのか、同時に歴史事象が現在とどのように関わっているのかを総合する力を身に付ける。	○	◎		
151408009	アメリカ文化研究 B I（価値観と夢）	2	3・4年	JOHNSON, G.S.	このクラスは19世紀と20世紀前期のアメリカにおける日本に関する見方を紹介する。アメリカは日本を鏡、目標、理想、脅威などとしてみなした時期がある。過去と最近の資料を参考にする。資料、映像などを分析する。その歴史を通して、アメリカの価値観と夢を考える。	歴史意識と資料の分析能力を上達することは目標である。	○	◎		
151408010	アメリカ文化研究 B II（価値観と夢）	2	3・4年	JOHNSON, G.S.	このクラスは20世紀中期、後期のアメリカにおける日本に関する見方を紹介する。アメリカは日本を鏡、目標、理想、脅威などとしてみなした時期がある。過去と最近の資料を参考にする。資料、映像などを分析する。その歴史を通して、アメリカの価値観と夢を考える。	歴史意識と資料の分析能力を上達することは目標である。	○	◎		
151408011	アメリカ文化研究 C I（歴史と風土）	2	3・4年	佐藤 円	「アメリカとはいかなる国か」「アメリカ人とは何者か」という問いは、当のアメリカ人によって、はるか建国の時代から連綿と問われ続けられている。また近年では、その問いの答えを建国以前の植民地時代や、それ以前の時期にまでさかのぼって求める議論も盛んである。この自国や自己のアイデンティティに対する強いこだわりこそ、アメリカがきわめて人工的に創造された国家であることの証であると言える。しかしその一方で、この問いに対して明確な答えを出すことは、必ずしも容易ではない。そこでこの講義では、一つの試みとして、アフリカ系アメリカ人（黒人）という存在に焦点を当て、彼らの視点からアメリカの歴史を振り返ることによって、「アメリカとはいかなる国か」「アメリカ人とは何者か」という問いの答えを探っていく。	この講義では、アフリカ系アメリカ人の歴史的な経験を学び、マイノリティの立場からアメリカの成り立ちを考察することを通して、現代のアメリカ社会が抱える人種問題と、多様なアメリカ人を一つの国民にまとめるという課題がもつ今日的意義についてより深く理解できるようになることを目標としている。	○	◎		
151408012	アメリカ文化研究 C II（歴史と風土）	2	3・4年	佐藤 円	「アメリカとはいかなる国か」「アメリカ人とは何者か」という問いは、当のアメリカ人によって、はるか建国の時代から連綿と問われ続けられている。また近年では、その問いの答えを建国以前植民地時代や、それ以前の時期にまでさかのぼって求める議論も盛んである。この自国や自己のアイデンティティに対する強いこだわりこそ、アメリカがきわめて人工的に創造された国家であることの証であると言える。しかしその一方で、この問いに対して明確な答えを出すことは、必ずしも容易ではない。そこでこの講義では、一つの試みとして、アフリカ系アメリカ人（黒人）という存在に焦点を当て、彼らの視点からアメリカの歴史を振り返ることによって、「アメリカとはいかなる国か」「アメリカ人とは何者か」という問いの答えを探っていく。	この講義では、アフリカ系アメリカ人の歴史的な経験を学び、マイノリティの立場からアメリカの成り立ちを考察することを通して、現代のアメリカ社会が抱える人種問題と、多様なアメリカ人を一つの国民にまとめるという課題がもつ今日的意義についてより深く理解できるようになることを目標としている。	○	◎		
151408013	アメリカ文化研究 D I（政治と経済）	2	3・4年	高田 馨里	本授業の目的は、様々なアメリカ合衆国の政治・経済問題を取り上げ時事問題と関連させながら、比較の視点を重視して、現代国際社会と現代日米関係を読み解く力を養成することを目的とする。授業ではアメリカ合衆国の始まりから20世紀半ば、現代の国際経済秩序を形成したアメリカ政治経済政策について理解できるよう講義を進める。またしばしば行方グループ・ディスカッションでは、アメリカの政治や経済と時事問題とを関連付けながら、国際秩序の起点やルールについて学ぶ。またアメリカ政治・経済のみならず、現代アメリカならびに国際社会問題に関心を持つ学生を歓迎する。	植民地時代から第二次世界大戦までの歴史を通じて、アメリカの政治経済を学ぶ。	○	◎		
151408014	アメリカ文化研究 D II（政治と経済）	2	3・4年	高田 馨里	本授業の目的は、様々なアメリカ合衆国の政治・経済問題を取り上げ時事問題と関連させ、比較の視点から現代国際社会と現代日米関係を読み解く力を養成することである。授業では20世紀半ば以降の変化の激しい現代の国際経済秩序におけるアメリカ政治経済政策について理解できるよう講義を進める。またしばしば行方グループ・ディスカッションでは、アメリカの政治や経済と時事問題とを関連付けながら、国際秩序の起点やルールについて学ぶ。またアメリカ政治・経済のみならず、現代アメリカ社会や国際社会問題に関心を持つ学生を歓迎する。	20世紀後半のアメリカの政治経済の動向を学び、時事問題に強くなる。	○	◎		
151408015	アメリカ文化研究 E I（文学）	2	3・4年	米塚 真治	現代アメリカ文学のマジョリティはマイノリティ出身の作家が占めています。この授業では、それぞれのエスニック文学において先駆的な作家たちの作品を中心に読みます。前期は『アメリカ多文化社会短編集』というテキストを使用します。取められているのは、ギリシャ系作家ハリール・マーク・ベトラキス（1923-）が1960年代に書いた短篇、アフリカ系アメリカ人詩人ラングストン・ヒューズ（1902-67）が1930年代に書いた短篇、中国系作家アイミー・タン（1952-）が1980年代に書いた長編の一部、ネイティブ・アメリカン作家レスリー・マーモン・シルコウ（1948-）が1970年代に書いた短篇です。どれも名作として知られ、アメリカの大学でも教材としてよく読まれているものです。2016・2017年度のアメリカ研究入門 CI・IIでは白人メインストリーム作家以外を論じる時間が十分取れなかったため、その補遺とすることも意図しています。読むスピードを上げるため、概要や設問を組み合わせたプリントを教員があらかじめ用意します。教員がそこで設定した質問に解答したり、また、学生自身が作った質問に互いに解答したりしながら、学生個々の理解を深めていきます(Inquiry-based Learning)。以上によって、多文化共生に関わる諸能力の涵養をめざします。	1.文学がアイデンティティの形成や再定義に果たす役割を知る。2.外国文学を読むに当たり、自己の批評的視座を意識化すること。具体的には、本国の主流派の人々の意識に同一化するか（アメリカ文学の場合、それはアメリカニズムをめぐる問いを内面化することを意味する）、本国のマイノリティの人々に同一化して読むか、それとも日本在住者として読むか、といった選択である。3.設問に答えたり、自分たちで設問を作って互いに答えたりしながら小説を読んでいくことで、文学作品ないし芸術作品とのアクティブな関わり方を覚えること。	○	◎		
151408016	アメリカ文化研究 E II（文学）	2	3・4年	米塚 真治	現代アメリカ文学のマジョリティはマイノリティ出身の作家が占めています。この授業では、それぞれのエスニック文学において先駆的な作家たちの作品を中心に読みます。後期はアメリカ生まれの日系二世・三世の作家6名が英語で書いた短編集6編を収めた作品集を読みます。書かれた年代は1960年代から1990年代まで、作品の舞台となるのは第二次世界大戦前から1990年代までです。著者たちには創作のみで生計を立てていた作家は少なく（主婦が多い）、一部を除いてアメリカ文学史に名が挙がってくるような作家ではありません。が、作品を読んでみると、テーマ設定や語り、メッセーの強度、小説としての強度など、それぞれに強みを持った作品ばかりです。作中から読み取れる日系各世代の考え方や立場の違いも、色々と考えさせられるところです。第二次世界大戦中の強制収容や兵役志願の苦難を経て、戦後は同化と沈黙を強いられるも、60年代公民権運動に呼応して抗議と異議申し立てを始めた二世たち。日系としてのアイデンティティ再構築を図り、パイオニアとしての一世を再評価しつつも、一世が示す集団主義や他のアジア系への差別には反発を感じる三世たち。読むスピードを上げるため、概要や設問を組み合わせたプリントを教員があらかじめ用意します。教員がそこで設定した質問に解答したり、また、学生自身が作った質問に互いに解答したりしながら、学生個々の理解を深めていきます(Inquiry-based Learning)。以上によって、多文化共生に関わる諸能力の涵養をめざします。	1.文学がアイデンティティの形成や再定義に果たす役割を知る。2.外国文学を読むに当たり、自己の批評的視座を意識化すること。具体的には、本国の主流派の人々の意識に同一化するか、本国のマイノリティの人々に同一化して読むか、それとも日本在住者として読むか、といった選択であるが、このように「日系人」が書いた作品を「日本人」が読む際には、その選択は複雑かつ繊細なものとなるはずだ。3.日米の両文化に触れた日系人の経験を通して、日本人の発想の特徴を改めて知ること。4.明治の海外移民開始から、版図拡張、敗戦、アメリカの保護下へと至る過程を踏まえ、日本の歴史をふだんとは別の角度から把握すること。5.高い小説技巧が凝らされた作品を、設問に答えたり、自分たちで設問を作って互いに答えたりしながら小説を読んでいくことで、文学作品ないし芸術作品とのアクティブな関わり方を覚えること。	○	◎		